



# 岡山大学キャンパスマスタープラン

「誇りと希望の学都・岡山大学」へ



OKAYAMA  
UNIVERSITY

世界への扉を開く

2025年 2月

# 目次

学長からのメッセージ	1
キャンパスマスタープランの継承と発展	2
第1章 キャンパスマスタープランの目的と基本方針	3
1-1 キャンパスマスタープランの目的	3
1-2 キャンパスマスタープランの構成	3
1-3 キャンパスマスタープランの基本的考え方	4
1-4 岡山大学主要キャンパスの現況と課題	7
1-5 キャンパス整備大綱の具体化	10
第2章 戦略的キャンパスマスタープラン	15
求められるキャンパス像	15
2-1 津島地区	
2-1-1 津島地区の現状と課題	16
2-1-2 ゾーニング計画	22
2-1-3 パブリックスペース計画	23
2-1-4 動線・交通計画	29
2-1-5 建物整備計画	32
2-1-6 ユニバーサルデザイン	34
2-1-7 インフラストラクチャー計画	37
2-1-8 エネルギー計画	38
2-2 鹿田地区	
2-2-1 鹿田地区の現状と課題	40
2-2-2 ゾーニング計画	47
2-2-3 パブリックスペース計画	48
2-2-4 動線・交通計画	52
2-2-5 建物整備計画	54
2-2-6 ユニバーサルデザイン	58
2-2-7 インフラストラクチャー計画	60

### 2-3 東山地区

2-3-1	東山地区の現状と課題	.....	61
2-3-2	ゾーニング計画	.....	66
2-3-3	屋外環境整備計画	.....	67
2-3-4	建物整備計画	.....	68
2-3-5	ユニバーサルデザイン	.....	71
2-3-6	インフラストラクチャー計画	.....	72

### 2-4 倉敷地区

2-4-1	倉敷地区の現状と課題	.....	73
2-4-2	ゾーニング計画	.....	78
2-4-3	屋外環境整備計画	.....	79
2-4-4	建物整備計画	.....	81
2-4-5	ユニバーサルデザイン	.....	85
2-4-6	インフラストラクチャー計画	.....	86

## 学長からのメッセージ



### 国立大学法人岡山大学

### 学 長 那 須 保 友

### 「誇りと希望の学都・岡山大学」へ

岡山大学は、1870年（明治3年）に創設された岡山藩医学館を起源とする岡山医科大学をはじめとする伝統と優れた教育研究実績を誇った高等教育機関群を統合して、1949年（昭和24年）、新制国立大学として設立されました。

この長い歴史の中で、7研究科10学部1プログラム4研究所、大学病院そして附属学校園という大きな規模にまで発展することができました。「晴れの国」とも呼ばれる穏やかな気候の岡山市中心部に、緑豊かで広大なキャンパスを有し、恵まれた環境のもと、現在約2万人の学生、留学生、教職員が日々研鑽を積んでいます。

本学の建学の理念として、「高度な知の創成と的確な知の継承」を掲げています。すなわち、私たちは人類社会を安定的かつ持続的に進展させるために、常に新たな知識基盤を構築していかねばなりません。公に開かれた知の府として、教育・研究・社会貢献などの活動を通して、高度な知を生み出し、的確な知を次世代に引き継ぎ、人類社会の発展に貢献したいと考えています。

さらに、「地球と生態系の健康（Planetary Health）」の実現に向かって、地域と地球の「ありたい未来の共創」に貢献することを使命とし、その使命達成のため「岡山大学長期ビジョン2050：地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」を新たに掲げて、地域・世界の多様なステークホルダーとの新たなつながりを深めています。

一方、「ビジョン3.0：ありたい未来を共に育み、共に創る研究大学」の下、持続可能性と多様な幸せを追究する「SDGs推進研究大学」として、人文・社会科学から自然科学・医療にわたる幅広い専門知・実践知と、データサイエンスをはじめとする、新たなリテラシーとの分野横断的な統合による「総合知」の創出と活用を推進しています。そして、データ駆動型社会において地域と世界のことを考え活躍できるいわゆるグローバル人材の育成と、組織・団体の垣根を越えた協働事業・国際共同研究などを発展させています。

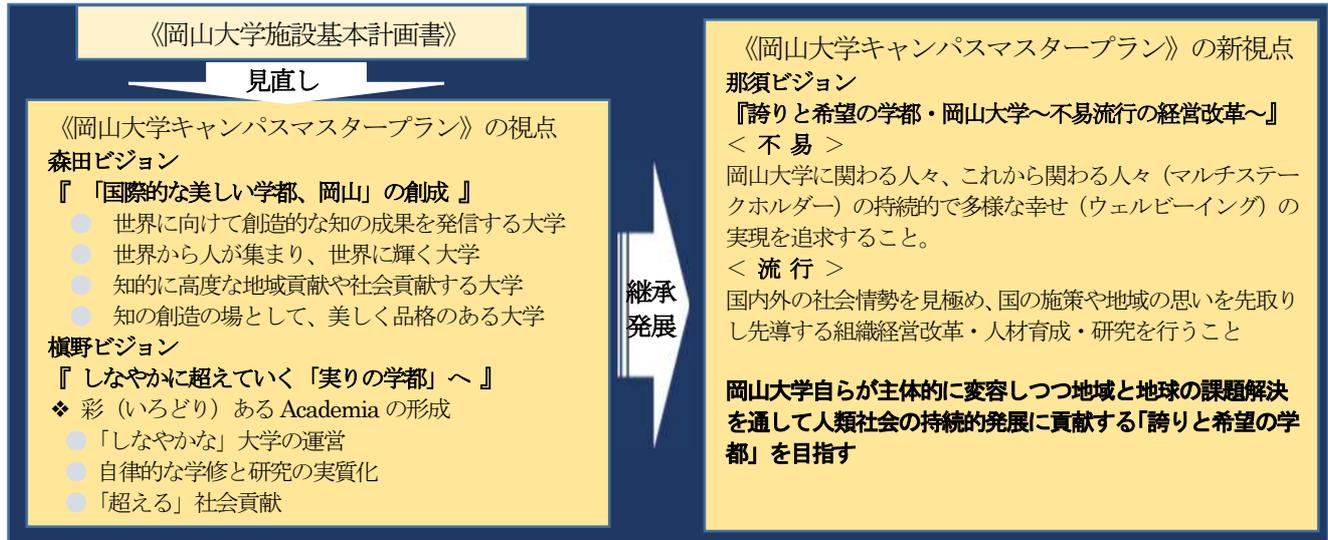
これまで、2010年に千葉喬三元学長が岡山大学を中四国地域の学術センターとして機能させることを目指す「学都構想」を初めて立ち上げられ、その後、森田潔元学長が「美しい学都」を、榎野前学長が「実りの学都」を掲げ引き継いでこられました。私は学長就任に当たり、新ビジョン「誇りと希望の学都・岡山大学～不易流行の経営改革～」を掲げ、岡山大学に関わる人々、そしてこれから関わる人々（マルチステークホルダー）の持続的で多様な幸せ（ウェルビーイング）の実現を追求することを「不易」と定義し、国内外の社会情勢を見極め、国の施策や地域の思いを先取りし先導する組織経営改革・人材育成・研究を行うことを「流行」と定義しました。「不易流行の経営改革」を推進し、岡山大学自らが主体的に変容しつつ地域と地球の課題解決を通して人類社会の持続的発展に貢献する「誇りと希望の学都」を目指します。

本キャンパスマスタープランを通じて本学の施設整備をより一層推進して参りますのでご理解とご支援を宜しくお願いいたします。

## キャンパスマスタープランの継承と発展

岡山大学のキャンパスマスタープランは、従来の施設基本計画書を見直し、森田元学長のビジョンである『美しい学都』の創成に向けて、大学戦略と社会の変化にも対応した施設整備の基本的方向性を示すため、キャンパス将来構想検討委員会にて策定されたものである。その後、槇野前学長のもと『実りの学都』実現を目指して見直しが行われた。

それらの計画を継承し、『誇りと希望の学都・岡山大学～不易流行の経営改革～』実現のため、キャンパスマスタープランを発展的に見直し施設整備を推進していくものとする。



### 共鳴するパートナーシップ –SDGs に貢献する岡山大学の取組–



OKAYAMA UNIVERSITY

#### SDGs に関する岡山大学の行動指針

岡山大学は、その理念・目的の下、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献する活動に取り組み、持続可能な社会の実現を牽引していく。

【SDGs に関する岡山大学の行動指針を示す意義】

1. 人類共通の今日的課題である SDGs へ貢献することは、岡山大学の理念である「高度な知の創成と的確な知の継承」のもと、岡山大学の目的である「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」に資するものである。
2. ユネスコチャエを持ち ESD を推進してきた岡山大学には、岡山地域や国際社会と一体となって SDGs を推進していく素地と責任がある。
3. SDGs を社会との共通言語として教育研究並びに社会貢献活動を行っていく。
4. SDGs の達成に貢献することで、課題解決力に秀でた人材を育成する。

## 第1章 キャンパスマスタープランの目的と基本方針

### 1-1 キャンパスマスタープランの目的

岡山大学は市街地に広大な美しいキャンパスを持っている数少ない総合大学として、大学自らが主体的に変容しつつ地域と地球の課題解決を通して人類社会の持続的発展に貢献する「誇りと希望の学都」を目指しています。

この恵まれた環境の中で、都市・地域に立地する大学のメリットを最大限に活かして発展させていくことが重要で、「誇りと希望の学都」は大学のみで達成されるものではなく、大学が置かれている都市・地域が相互に連携・補完しつつ達成されるという視点を明確にする必要があります。

一方、今後の国立大学等施設の方角性として、キャンパス全体を、多様なステークホルダーとともに共創が展開される「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」へ転換することが掲げられています。※

岡山大学においても、ソフト・ハードの取組が一体となり、あらゆる分野、あらゆる場面で、あらゆるプレイヤーが「共創」できる拠点である、イノベーション・コモンズ（共創拠点）となるために、中長期的な視点に立ち、既存資産の効率的活用と新たな施設及び屋外環境の整備計画等を盛り込んだ「キャンパスマスタープラン」を策定しています。

※ 「3）イノベーションコモンズ（共創拠点）の実現に向けて」6頁参照



### 1-2 キャンパスマスタープランの構成

第1章は、キャンパスマスタープランの目的と基本方針を掲げ、個性と特色あるキャンパスの形成や、国内外からの優秀な学生や研究者を惹きつける魅力あふれるキャンパス像を掲げると共に、キャンパス全体の現状と課題を明らかにし、岡山大学の歴史及び地球環境への配慮等についても示しています。

第2章の戦略的キャンパスマスタープランでは、岡山大学の戦略と想定しうる教育研究の将来構想を踏まえたキャンパスの目指すべき姿を具体化し、その将来像を現実のものとしていくためのキャンパス整備を明確にします。

以上を踏まえ、本学の理念・目的・目標と、ミッションに基づいた教育研究の将来構想、社会貢献、産学連携の推進、環境対策、学生支援の充実等というソフト面と、建物や屋外環境というハード面から、本学の特色あるキャンパスの未来像を描くこととします。

### 1-3 キャンパスマスタープランの基本的考え方

大学キャンパスは、優れた人材の育成や、創造的・先端的な学術研究を推進する基盤であり、地域貢献の場でもあることから、国民から負託された大学の土地・建物等の資産を、戦略的かつ最大限に活用していくことが重要です。

岡山大学では、森田学長時代に国際的な研究・教育拠点としての「美しい学都」実現に向けて、全学的な計画の立案・実施・評価の体制を構築するために、学長を委員長とした「キャンパス将来構想検討委員会」を立ち上げ、平成23年度に施設整備の基本的方針となる「岡山大学キャンパス整備大綱」を策定しました。

その後、本学の基本理念・岡山大学長期ビジョン及び国立大学法人等施設整備5か年計画等をふまえつつ、本学が目指すキャンパス像の長期的ビジョンを示すものとして「岡山大学キャンパスマスタープラン」を2015年3月（平成26年度）に策定しました。

このたび「建築物の耐震改修の促進に関する法律」で対象となるすべての建物について耐震化が完了したこと、「インフラ長寿化計画（行動計画・個別施設計画）」を策定・更新したこと、新型コロナウイルス感染拡大などにより社会情勢が変化したこと等に対応するため、「岡山大学キャンパス整備大綱」、「岡山大学キャンパスマスタープラン(2015.3)」、「(2018.3)」、「(2022.2)」を継承しつつキャンパスマスタープランの見直しを行いました。

#### 岡山大学キャンパス整備大綱

平成24年3月14日  
学長 裁定

岡山大学のキャンパス整備大綱は、本学の屋外環境を含むキャンパス全体を最大限活用し、長期的視点に立ったキャンパスマスタープランに基づく「美しい学都」を実現するための基本的な方針である。

◇大学の土地及び施設は全学共用の財産

大学の全ての土地及び施設は全学共用の財産として、有効かつ戦略的に活用するとともに適正に管理する。

◇長期的視点に立った計画的・重点的整備

大学の将来的な進展を見据え、知的創造と交流の場となるようまた、質が高く安全で機能的なキャンパス整備を計画的・重点的に進める。

◇歴史や伝統の尊重と品格の保持

大学がこれまでに培った、屋外環境や建物施設の歴史と伝統を尊重するとともに、魅力あるキャンパスとして落ち着きと品のある美しいキャンパス景観の形成を推進する。

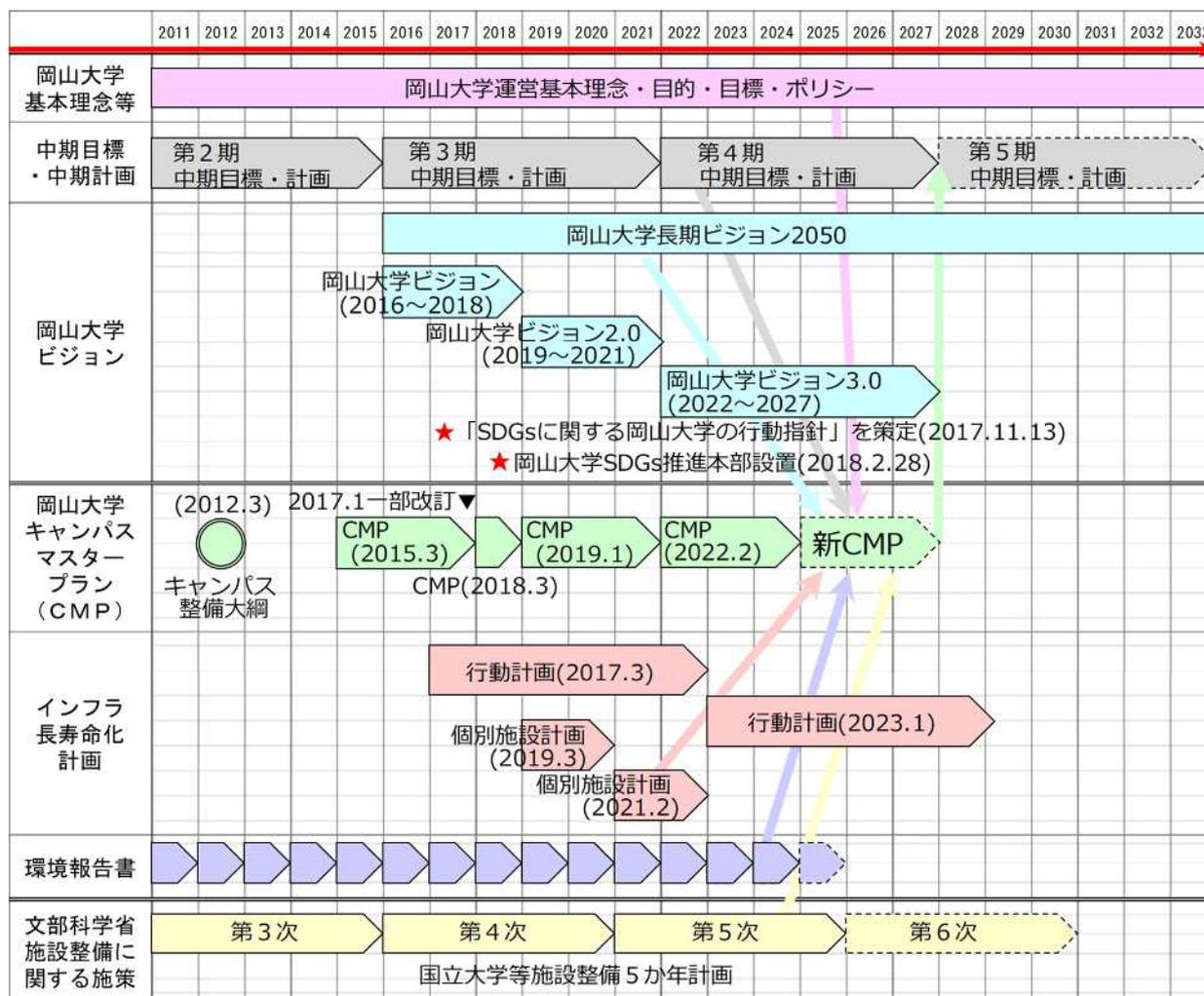
◇国際化対応及び地域・社会貢献

開かれたキャンパスとしてグローバル人材の育成に資する国際化対応や地域との連携に配慮するとともに、社会貢献にも留意する。

◇地球環境への負荷の軽減

省エネルギーや温暖化防止等、地球環境への負荷の軽減に留意し、人や地球に優しいサステナブルなキャンパス整備を進める。

1) キャンパスマスタープランの位置づけ及び他方針等との関連



2) 岡山大学の長期ビジョン

**岡山大学の理念「高度な知の創成と的確な知の継承」**  
**岡山大学の目的「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」**

長期ビジョン 2050 (～2050) : 地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学  
 岡山大学ビジョン 3.0(2022～2027) : ありがたい未来を共に育み、共に創る研究大学

**SDGs 大学経営 :** SDGs への貢献を大学経営の中核に置き、教育研究・産学共創を一体的に改革して新たな事業モデルを展開

**グローバル・エンゲージメント戦略**  
 国際機関等多様なステークホルダーと協働し、グローバル・エンゲージメントの強化

**岡山大学 DX 推進プラン : デジタルトランスフォーメーション (DX) for SDGs**

<p style="text-align: center;"><b>教育</b></p> <p style="text-align: center;">「主体的に変容し続ける先駆者」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院教育改革</li> <li>・学士課程と高大接続の一体改革 (Target2025)</li> <li>・リカレント教育の充実</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>研究・産学共創</b></p> <p style="text-align: center;">研究成果の社会実装を促進し社会課題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手研究者が自由な発想で挑戦的研形成に取組める環境の整備</li> <li>・学内におけるイノベーション創出機能の集約化と強化</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>大学経営</b></p> <p style="text-align: center;">変化に強い強靱な組織へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ERMによるガバナンス体制の強化</li> <li>・ダイバーシティ&amp;インクルージョンの推進</li> <li>・イノベーションの強化</li> <li>・大学病弱経営の健全化、財源の多様化、自律的な法人経営</li> </ul>
--	---	---

3) イノベーション・commons (共創拠点) の実現に向けて

岡山大学の目指すイノベーション・commons (共創拠点)

～ 「高度な知の創成と的確な知の継承」の下、キャンパス全体の「イノベーション・commons (共創拠点)」化を推進 ～  
 文部科学省が策定した「国立大学法人等施設整備5か年計画」と、本学が策定している「岡山大学ビジョン3.0」の5つの柱に重点を置いた整備を行い、地域・世界の多様なステークホルダーとの志を共有するエンゲージメントを深化させるキャンパス作りを目指す。

2019-2021  
岡山大学ビジョン2.0

2022-2027 岡山大学ビジョン3.0  
 ありたい未来を共に育み、  
共に創る研究大学

-2050 長期ビジョン  
 地球と地球の未来を共創し、  
世界の革新に寄与する研究大学

【文部科学省方針】  
 グローバル化に対応した国際競争力のある環境整備

**グローバル・エンゲージメント戦略**

国際機関等多様なステークホルダーと協働し、  
**グローバル・エンゲージメントの強化**

グローバル人材育成と、組織・団体の垣根を越えた協働事業・国際共同研究などを発展させるための整備。



国際交流拠点



グローバル・エンゲージメント拠点

【文部科学省方針】  
 デジタル技術も駆使したハイブリッド型環境の整備

**岡山大学 DX 推進プラン**

デジタルトランスフォーメーション (DX) for SDGs

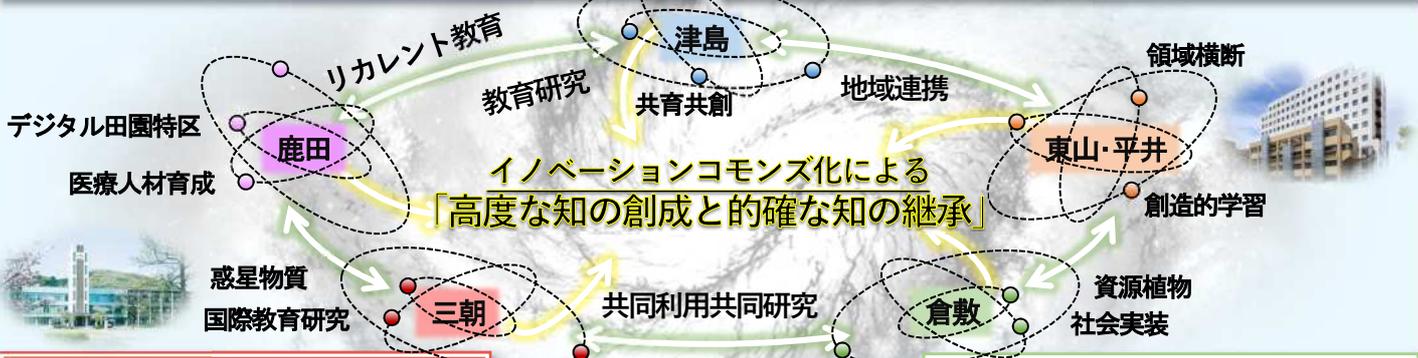
全学の教育・研究・共創の諸活動において、デジタルの活用を推進し業務を変革することにより、本学の機能強化、教育研究活動の高度化及び業務運営の効率化を図るための整備。



DX 推進拠点



GX 推進拠点



【文部科学省方針】  
 成長分野等の社会課題に対応した  
 人材育成・研究を支える環境整備

**教育**

「主体的に変容し続ける先駆者」の育成

大学院教育の改革に続き学士課程教育・高大接続の一体改革と、リカレント教育の充実に取り組み、「主体的に変容し続ける先駆者」を育成するための整備。



リカレント教育拠点




【文部科学省方針】  
 地域を中心とした産学官連携  
 強化による人材育成を支える  
 環境整備

**研究・産学共創**

研究成果の社会実装を促進し社会課題解決

若手研究者が自由な発想で挑戦的研究に取り組み、その能力を最大限発揮できる魅力的な研究環境を設け、学内におけるイノベーション創出機能の集約化と強化に取り組むための整備。



研究・産学共創拠点

【文部科学省方針】  
 多様な主体に開かれた  
 魅力ある環境整備

**大学経営**

変化に強い強靱な組織へ

ダイバーシティ&インクルージョンの推進、教育研究・社会貢献活動の安定性・健全性の担保、インナーブランディングの強化及び大学病院経営の健全化を図るための整備。



ダイバーシティ&インクルージョン推進拠点



大学病院運営健全化拠点



2) キャンパスの概要

主要キャンパスの所在地（令和6年5月1日現在）

キャンパス	所在地	学部等	敷地面積	建物面積
津島	岡山市北区津島中一～三丁目 1番1号 岡山市北区桑の木町	教育学研究科、社会文化科学研究科、環境生命自然科学研究科、ヘルスシステム統合科学研究科、法務研究科、文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、薬学部、工学部、農学部、グローバルディスカバリープログラム、異分野基礎科学研究所、文明動態学研究所	639,621 m <sup>2</sup>	238,580 m <sup>2</sup>
鹿田	岡山市北区鹿田町二丁目5番1号	保健学研究科、医歯薬学総合研究科、医学部、歯学部、岡山大学病院、自然生命科学研究支援センター	135,328 m <sup>2</sup>	205,846 m <sup>2</sup>
東山	岡山市中区東山二丁目13番80号	附属幼稚園・小学校・中学校、教師教育開発センター	53,210 m <sup>2</sup>	15,624 m <sup>2</sup>
平井	岡山市中区平井三丁目914	附属特別支援学校	13,188 m <sup>2</sup>	4,553 m <sup>2</sup>
倉敷	倉敷市中央二丁目20番1号	資源植物科学研究所	40,272 m <sup>2</sup>	11,002 m <sup>2</sup>
三朝	鳥取県東伯郡三朝町山田827	惑星物質研究所	37,433 m <sup>2</sup>	11,689 m <sup>2</sup>
計			919,052 m <sup>2</sup>	487,294 m <sup>2</sup>

岡山市は温暖な気候と多様な自然環境に恵まれ、2大河川である旭川と吉井川を有し、豊富な水資源に恵まれた岡山平野に位置する都市です。

津島地区は、JR岡山駅北約2.5kmに位置し、付近には県営総合グラウンド、市立中学校、私立高校、大学等があります。また、当該団地周辺は閑静な住宅地で、団地中央には東西方向に旭川用水路である座主川及び市道が通っているために、北地区と南地区に分割されています。

鹿田地区は、JR岡山駅南約1.5kmに位置し、市のシンボルである西川緑道公園の南端に接した商業地域にあります。西側は消防署、国土交通省中国地方整備局に接し、北側に市役所があり、東側は住宅地となっています。

東山地区は、旧市街地の東端にあたり、市電東山線終点より南へ300mの閑静な住宅地にあります。西側には県立岡山東商業高校があり、北西に私立女子高校があります。

平井地区は、岡山市街地を南北に流れる旭川より約1km東側に位置し、住宅地に近接しています。北側は市営住宅、西側には市立平井小学校があります。キャンパスの南側約200mの所には主要地方道の岡山・玉野線が通っています。

倉敷地区は、JR倉敷駅から南へ徒歩15分の所にあり、北側には大原美術館、倉敷民藝館等が立ち並ぶ美観地区となっています。東側は道路を隔てて私立の文化施設（倉敷芸文館）に面しており、西側は住宅地となっています。

三朝地区は鳥取県東伯郡三朝町に位置し、南側を東西に流れる三朝川に並走する県道鹿野線に面し、近隣に三朝温泉街があります。北側は屋外機能訓練施設を有する水道山に接しており、西側は田園が広がる静かな地域です。

その他市内の研究施設として津高地区、芳賀地区があり、課外活動施設として沖元地区がある他、市外の研究施設では、八浜地区（玉野市）、牛窓地区（瀬戸内市）などがあります。



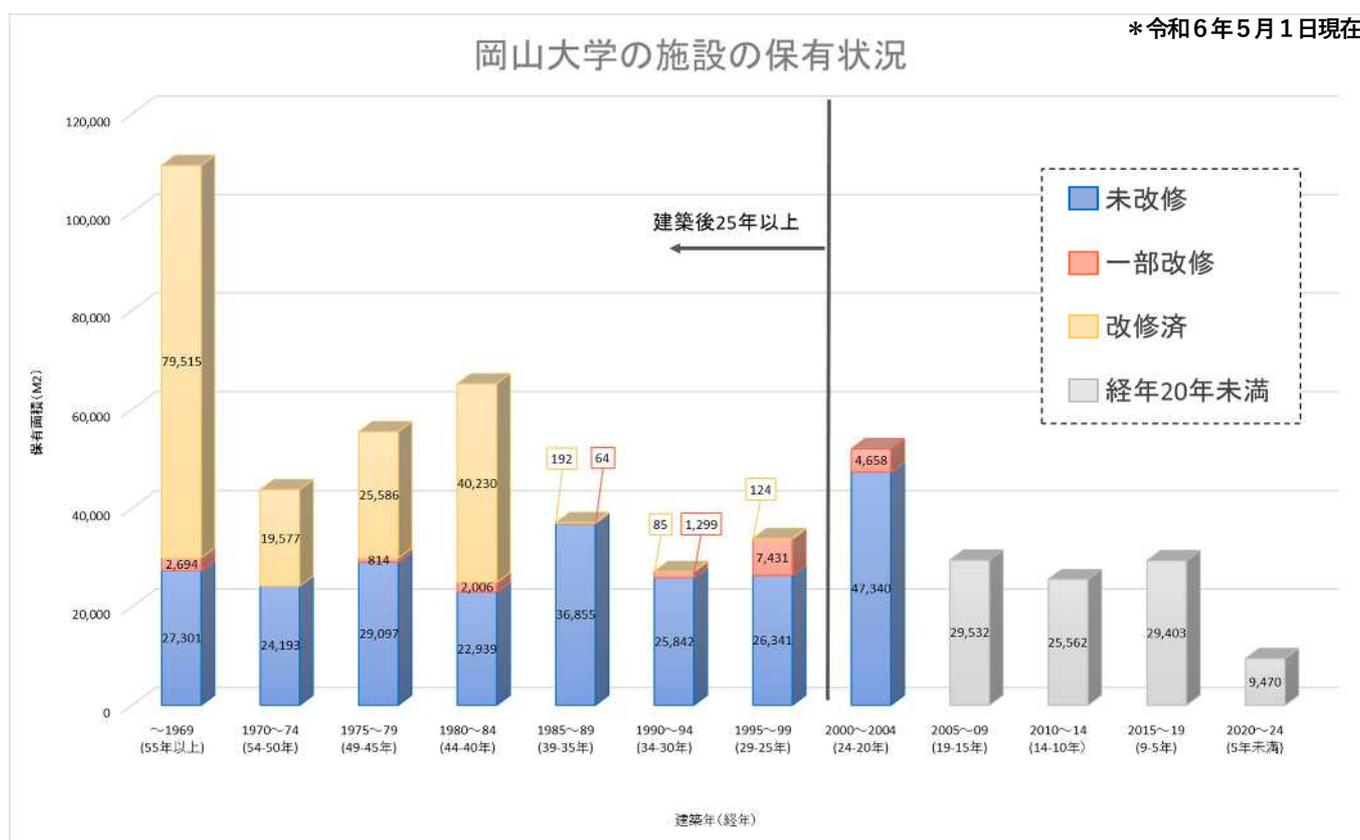
### 3) キャンパスに共通する課題

#### 施設の老朽化

大学全体の施設の保有面積は令和6年5月1日現在約51万8千㎡であり、建築後25年以上未改修（一部改修済みを含む）又は大規模改修後25年以上経過し、改修が必要な老朽施設は約20万7千㎡（40%）となっています。これらの老朽施設は、安全性・機能性の確保など早急に改善すべき課題をかかえています。

また、基幹設備（ライフライン）についても、耐用年数を超えるものの割合が高く、特に、受変電設備やガス等の屋外配管などの機能劣化により、人命に影響を与える重大な事故や大学の機能停止等の恐れが懸念されています。

さらに、小規模建物を除き建物の耐震化は完了しましたが、天井材や照明器具等の非構造部材においても地震時に落下すると大きな被害を生じることから、老朽施設の改善と併せて耐震対策を行う必要があります。



#### 地球環境への配慮

国立大学法人等の施設整備は、「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画」(令和3年3月31日文科科学大臣決定)「2. 基本的な考え方」のなかで、「カーボンニュートラルに向けた取組の推進」が示されており、「(2) 国立大学法人等の取組」「iv. 省エネルギーの推進」としてZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）などの取組を推進することとされています。また、本学の活動における地球温暖化防止の取組により温暖化効果ガスの排出を抑制することを目的とし「国立大学法人岡山大学における地球温暖化対策に関する実施基本計画」を令和3年に策定、令和5年に改定し、本学から排出するエネルギー起源の二酸化炭素の総排出量について2013年度を基準として、2030年度までに5%以上削減することを目標とすることについて明記しました。SDGs推進研究大学の本学としては地球環境に配慮するため、カーボンニュートラルに向けた取り組みをより一層進めることが求められています。

1-5 キャンパス整備大綱の具体化

①大学の土地及び施設は全学共用の財産

大学の全ての土地及び施設は全学共用の財産として、有効かつ戦略的に活用するとともに適正に管理する。

- 1) 土地、建物の共有化と運用・管理システムの見直し
- 2) 未利用地や稼働率の低い施設・スペース等の運用の見直し



キャンパス入口のテニスコートを用途変更し、大学の顔として整備した Junko Fukutake Terrace

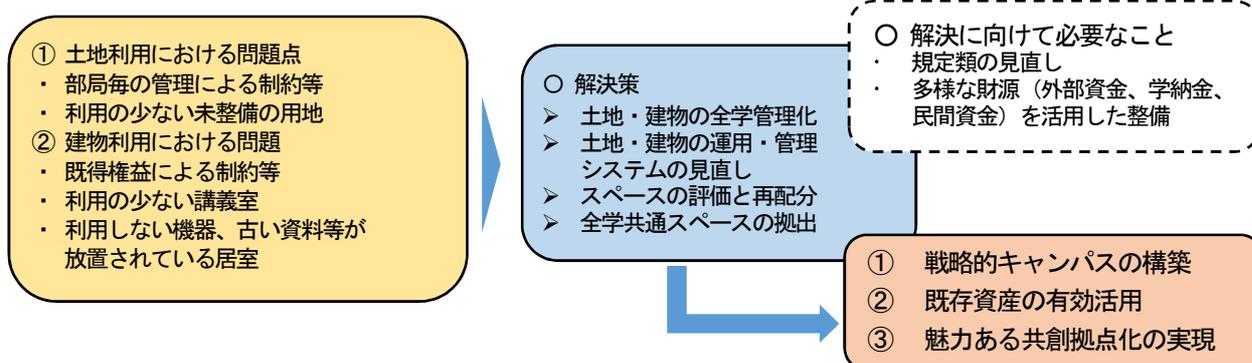


定期借地権を活用した駐車場整備



新築・改修に合わせて整備した共同利用スペース

- 運用・管理システムを見直し、既存の土地・施設について現状を客観的に分析して課題を把握し、重点的に投資すべき事業の選択と効果的な整備かつ戦略的な活用を行う。
- 保有する土地・施設等を全学共有の財産として健全な形に機能回復し、安全で良好な環境を維持していく。
- 土地や建物のスペースの利用状況を見える化し、利用頻度が低いスペースは、時代にあわせたニーズが高い用途への用途変更を行うとともに、共有化を図ることで新たなスペースを生み出し、プロジェクト型研究活動や教育研究活動の活性化を支援するための弾力的・機動的に使用できる共同利用スペースを確保する。
- 利用頻度の低い土地は、定期借地権を活用した施設整備などを検討する。



## ②長期的視点に立った計画的・重点的整備

大学の将来的な進展を見据え、知的創造と交流の場となるようまた、質が高く安全で機能的なキャンパス整備を計画的・重点的に進める。

- 1) 将来展望や既存施設の状態を踏まえた安全・安心なキャンパスの整備
- 2) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進
- 3) 時代の変化に対応できるフレキシビリティのある施設の整備
- 4) 多様なコミュニケーションを誘発・促進するキャンパスの整備



津島キャンパスの保存緑地



異分野基礎科学研究所棟



津島キャンパスを流れる座主川



大学会館北側の交流広場



耐震性不足の小規模建物を集約化整備した工学部実験研究棟

- 高度化、多様化する教育研究活動を活性化し、安全・安心で快適なキャンパス生活を支援する環境を整備するため、本学のアカデミックプランや運営戦略に基づき、世界的水準の教育研究の推進を支える基盤として、DX推進への対応を含む多様な教育研究環境の計画的な整備を実施する。
- 大学施設が次世代まで使用できる良好な社会資本を形成していくという観点から、整備時の適切な初期投資により質及び持続性の向上を図るとともに将来的な改築等を見据えた配置計画とする。
- 教育研究の高度化・多様化、組織の見直し、プロジェクト研究の増加などに柔軟に対応できるよう、フレキシビリティを確保した整備を推進する。
- 多様なコミュニケーションの場やキャンパスライフを支えるキャンパスアメニティ及びパブリックスペースの整備充実を図るとともに活動の可視化を意識した整備を推進することで教育研究や知的創造活動の活性化を促す。
- 基幹設備（ライフライン）である、電力・給排水・ガス・熱源等についても、教育研究活動を常時継続できるよう国土強靱化の観点を踏まえたキャンパス全体のレジリエンスの強化を推進する。

### ③歴史や伝統の尊重と品格の保持

大学がこれまでに培った、屋外環境や建物施設の歴史と伝統を尊重するとともに、魅力あるキャンパスとして落ち着きと品のある美しいキャンパス景観の形成を推進する。

- 1) 大学の個性や特徴、歴史や伝統を活かした魅力あるキャンパスの整備
- 2) 学問の府としての気品と雰囲気を持つ落ち着きのあるキャンパスの整備
- 3) 大学の顔となり、地域のシンボルとなる施設の整備



共育共創コモンズ（OUX）



中央図書館時計台



登録有形文化財の医学部正門



歴史ある鹿田会館・講堂（旧生化学棟）



Jホール

- 学問の府にふさわしい落ち着きと潤いのあるキャンパス環境とするため、伝統的・歴史的建物の保存や活用を行い、歴史と文化を育み伝統を継承するとともに、特色のある岡山大学を内外にアピールする。
- 美しいキャンパス景観を形成するため、洗練されたデザイン及び高度な機能をあわせ持つ魅力ある施設づくりを推進するとともに、建物外観の色調を統一し、外灯や案内板といった工作物等にも配慮することにより、一群としての美しさを考慮した整備を行う。
- 地域における高度な教育研究機関として、地域のシンボルとして相応しい気品と雰囲気を持つキャンパスづくりを推進する。
- 学生・教職員のみならず卒業生や地域住民の誇りになるとともに、心に残る象徴的な施設や空間を整備する。
- ステークホルダー※に愛着を持ってもらうため、シンボルビューポイントを設定し、景観が維持されていくように配慮する。

※ 岡山大学の過去・現在・未来に関わるすべての人を指す。

#### ④国際化対応及び地域・社会貢献

開かれたキャンパスとしてグローバル人材の育成に資する国際化対応や地域との連携に配慮するとともに、社会貢献にも留意する。

- 1) 海外からの留学生や研究者が快適に過ごせるキャンパスの整備
- 2) 社会貢献の推進を目指して産業界や県・市等との連携を生み育てる整備
- 3) 地域医療の拠点を目指すなど地域に貢献できる整備



国際学生シェアハウス



連携型起業家育成施設



歯学部棟



外国語表記されたサイン



構内に敷設された点字ブロック

- 国際化の観点から留学生や外国人研究者を惹きつける魅力ある大学となるために、教育研究スペースの確保及び国際交流施設、宿泊施設の充実を図り、教育研究や生活を支え、安心して快適に過ごせるキャンパスづくりを行う。
- 多様な利用者にかかれたキャンパスとなるために、異なる言語圏の人々にも分かりやすいサインや段差のない歩道など「ユニバーサルデザイン」の考え方を取り入れたキャンパスづくりを推進する。
- 大学が共育共創拠点として、地域に対する幅広い貢献が期待されるなかで、役割、位置づけを踏まえた大学と地域社会との一層の連携を図るため、共同研究施設やレンタルラボ等の社会貢献を推進する施設の充実を図る。
- 施設の効果的整備と運用を図るため、民間施設・リサーチパークの研究施設や他の研究機関等外部施設の活用を推進していく。
- 大学病院は社会・地域の持続的な健康増進に貢献できるよう十分な機能を備えた施設整備を計画的に行うとともに、地域に於ける中核的な救急医療の拠点施設として、災害応急対策を円滑かつ確実に実施できるよう、災害に強い施設整備を推進する。
- 地域住民にも開かれたキャンパスとして、地震等による大災害に対応した防災機能の充実化を図るなど計画的整備を推進する。

### ⑤地球環境への負荷の軽減

省エネルギーや温暖化防止等、地球環境への負荷の軽減に留意し、人や地球に優しいサステナブルなキャンパス整備を進める。

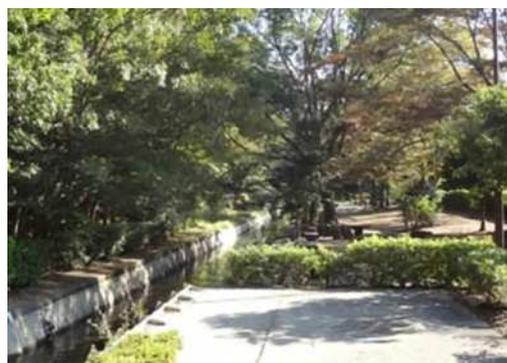
- 1) カーボンニュートラルに対応した施設整備の推進  
(建物における省エネルギー対策の推進 (ZEB化の推進)、再生可能エネルギーの最大限の導入 (太陽光等の活用))
- 2) 水辺や緑の空間等、自然環境の有効活用  
(樹木や緑地、ピオトープ、座主川公園の充実化及び景観形成への配慮)



LEDソーラー外灯 (非常電源機能付き)



ソーラーパネル



座主川沿いの緑地

- 地球温暖化対策に関する実施基本計画に従って省エネルギー対策を徹底し、温室効果ガスの排出削減等に配慮するとともに、建物を整備する際にはZEB化を推進して原則Nearly ZEB相当となることを目指し、照明器具のLED化改修、高効率空調改修、断熱改修 (ペアガラスの採用、屋根外壁の高断熱化など) を計画的に実施する。
- 予防的な施設の点検・保守・修繕等を効果的に実施するとともに、老朽化し効率の悪い基幹設備を高効率機器等へ更新することで、一層の省エネルギー化を推進する。
- 太陽光発電の導入整備 (PPA事業の活用など) を計画的に推進する。
- エネルギー使用量を見える化し、エネルギー消費実態を把握、データ分析を行い最適化を図ることで、更なる省エネルギーの推進を行う。
- 地域環境の保全と形成の観点から、キャンパス内の緑地や水辺等の生態系保存への配慮、積極的な緑化、地域の景観形成に寄与する施設整備を行っていく。特に座主川沿いの緑地帯は大学のみならず、岡山市の貴重な緑地であり、この緑地の保全と活用を地域貢献の一環として活かしたキャンパス景観の進展を図る。
- キャンパスのGX (グリーン・トランスフォーメーション) 実現に向けて、ZEB化の推進とともに、建物整備における木材利用の促進や保水性舗装の採用など環境に配慮した整備を行う。

## 第2章 戦略的キャンパスマスタープラン

### 求められるキャンパス像

「誇りと希望の学都・岡山大学～不易流行の経営改革～」を目指して  
＜ 那須ビジョン実現のために ＞

「学都・岡山大学の創成」、「美しい学都」、「実りの学都」を継承・発展させ「誇りと希望の学都・岡山大学～不易流行の経営改革～」を実現するためには、岡山大学に関わる人々、そしてこれから関わる人々（マルチステークホルダー）の持続的で多様な幸せ（ウェルビーイング）の実現を追求し、国内外の社会情勢を見極め、国の施策や地域の思いを先取りし先導する組織経営改革・人材育成・研究を実現可能なキャンパス整備が求められている。

また、岡山大学自らが主体的に変容しつつ地域と地球の課題解決を通して人類社会の持続的発展に貢献するための整備も求められている。

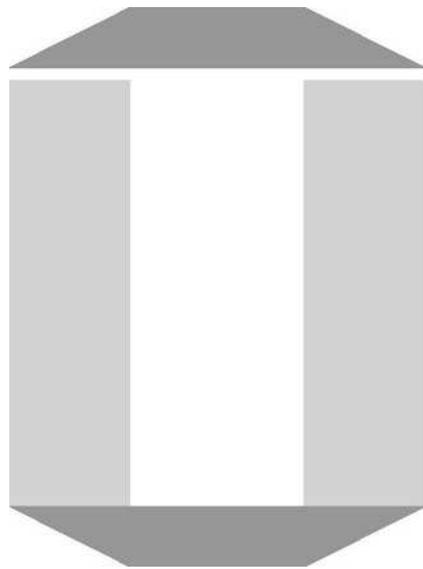
#### ○ 各キャンパスの位置づけとマスタープラン

岡山大学は瀬戸内海に面し、温暖な気候で自然に恵まれた緑豊かな岡山市の中心部に、津島、鹿田の大きなキャンパスの他に、倉敷市の美観地区にも研究所を有しています。このように岡山大学には美しい品格あるキャンパス創成の可能性は十分に備わっており、さらには、キャンパスの借景となっている半田山や、緑豊かな吉備高原の農場や温泉場などの特徴あるキャンパスを有しています。

これら津島地区、鹿田地区、東山地区、平井地区、倉敷地区、三朝地区の主要キャンパスの使命や役割を最大限に発揮し、岡山大学全体が地域における国際的な教育研究拠点として進展していくために、戦略的なマスタープランを策定する必要がある。

#### 【主要キャンパスの主な機能】

- 津島地区 : 文系、理系を主体とした大学、大学院等
- 鹿田地区 : 医系を主体とした大学、大学院、病院等
- 東山地区 : 附属幼稚園・小学校・中学校、教師教育開発センター
- 平井地区 : 附属特別支援学校
- 倉敷地区 : 資源植物科学研究所
- 三朝地区 : 惑星物質研究所



OKAYAMA UNIVERSITY

津島地区編

## 2-1 津島地区

### 2-1-1 津島地区の現状と課題

津島地区 航空写真



#### 1) 交通

##### [現状]

岡山市の中心市街地北部に広大な敷地を擁する津島地区は、国立大学の中では新幹線の停車駅に最も近い場所であり、交通の便に優れている。また、キャンパスを南北と東西に分断するように路線バスや一般車両が通行する交通量が多い車道が通っている。

##### [課題]

津島地区の南北道路（大学道）は、いちょう並木の美しい大学のメインストリートであるが、路線バス、一般車両及び多くの自転車、歩行者が通行する道路であり、キャンパス入口付近の歩道が狭隘であり、車道の老朽化が進んでいる。【南北道路は平成27年度整備済】

また、市道である東西道路は歩道が狭く歩行者と自転車の事故も懸念され、歩道の拡張等キャンパスの一体化を図った整備も課題となっている。

## 2) 周辺の土地利用及び法的規制

### [現状]

津島地区は周辺に総合グラウンド、市立中学校、私立高校・大学等がある閑静な住宅地域で、団地中央には東西方向に旭川用水路である座主川及び市道が通っているため、北地区と東地区、西地区に分断されている。

また津島地区は西日本で有数の縄文時代遺跡、弥生時代以降の水田跡（津島岡大遺跡）があり、掘削等の工事を行う場合には、文化財保護法に基づいた届け出が義務付けられている。

### 【法的指定等】

令和6年5月1日現在

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 耐力度調査上の地域区分</li> <li style="padding-left: 20px;">地震地域係数 二種</li> <li style="padding-left: 20px;">地盤種別 二種</li> <li style="padding-left: 20px;">積雪寒冷地域 その他</li> <li style="padding-left: 20px;">海岸からの距離 8 km超</li> <li>・ 日影規制 4 時間、2.5 時間</li> <li>・ 都市計画区域内 市街化区域</li> <li>・ 用途地域 第一種中高層住居専用地域</li> <li>・ 公害防止地域 大気汚染、騒音 水質汚濁</li> </ul>	<p>土地及び建物面積</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土地面積 639, 621 m<sup>2</sup></li> <li>・ 建物面積 建築面積 84, 549 m<sup>2</sup> 延べ面積 238, 580 m<sup>2</sup></li> </ul> <p>建ぺい率、容積率</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建ぺい率 13.2% (60%)</li> <li>・ 容積率 37.3% (200%)</li> </ul>
---	---

### [課題]

津島地区を分断させている東西方向に走る座主川及び市道と南北道路を含めて、周辺景観に調和させたキャンパスの景観整備が必要となっている。

## 3) 自然環境

### [現状]

岡山平野の北部に位置し、特徴として敷地内高低差 0.5m程度と極めて起伏の少ないことがあげられる。温暖な瀬戸内特有の風土により快晴の日が多く、雪もほとんど降らず台風等の影響が比較的少ないなど穏やかな気候に恵まれている。

また、敷地の北側には半田山があり、緑豊かなキャンパスの借景となっている他、敷地内を東西に座主川が流れ、木陰と水辺を有する遊歩道も有している。

### [課題]

キャンパス内の自然樹林や緑地の健全な植生状態を維持保全するため、落ち葉や雑草及び立ち枯れ樹木の撤去など適切な管理等が必要である。

## 4) 組織と施設

### [現状]

津島地区には、教育学研究科、社会文化科学研究科、環境生命自然科学研究科、ヘルスシステム統合科学研究科、法務研究科の5研究科と、文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、薬学部、工学部、農学部の8学部と、グローバルディスカバリープログラムの1プログラム及び各種のセンター等を配している。

### [課題]

現在保有している施設ストックの実態を点検評価し、教育研究の高度化・グローバル化、学内共同利用・大学間共同利用の促進等、大学の使命と将来構想を踏まえて、キャンパス整備の優先的課題を明確にした上で、戦略的・計画的な整備を行う必要がある。

## 5) 土地・建物及び所在地

津島地区は学内道路と市道道路により、津島東、津島西、津島北地区の3ブロックに分割され、総敷地面積は、639,621㎡（宿舍等を除く）で大学全体の31%にあたる。建物面積においては238,580㎡と全体の45.7%を占めている。

土地・建物及び所在地

令和6年5月1日現在

区 分	土地(㎡)	建 物		所 在 地
		建面積(㎡)	延面積(㎡)	
■津島地区	639,621			
大学本部		22,542	50,726	岡山市北区津島中一丁目 1-1
情報統括センター		993	2,355	岡山市北区津島中三丁目 1-1
国際部		3,674	10,011	岡山市北区津島中二丁目 1-1
附属図書館		4,049	16,386	岡山市北区津島中三丁目 1-1
文学部・法学部・経済学部		5,693	19,269	〃
教育学部		7,471	21,194	〃
理学部		5,738	17,901	〃
薬学部		3,166	9,227	岡山市北区津島中一丁目 1-1
工学部		13,971	44,684	岡山市北区津島中三丁目 1-1
農学部		6,191	15,494	岡山市北区津島中一丁目 1-1
農学部附属山陽圏フィールド科学センター岡山農場		3,623	4,298	岡山市北区津島桑の木町 1-62
文明動態学研究所		455	624	岡山市北区津島中三丁目 1-1
大学院自然科学研究科		2,044	13,021	〃
研究・イノベーション共創機構		941	2,430	〃
自然生命科学研究支援センター		1,855	4,730	岡山市北区津島中
保健管理センター		469	668	岡山市北区津島中二丁目 1-1
環境管理センター		675	657	岡山市北区津島中三丁目 1-1
異分野基礎科学研究所		999	4,905	〃
津島地区 計	639,621	84,549	238,580	

## 6) キャンパスの屋外環境

### [現状]

津島地区は岡山市の中心部北側に 63 万㎡を超える広大な敷地を擁している。キャンパスの中央には南北及び東西に車道が通り、メインストリートである岡山大学筋（通称：南北道路）は中央図書館の時計台を正面にして左右にいちよう並木が広がっている。

東西道路沿いには旭川用水路である座主川が並行し、生い茂った樹木と遊歩道やポケット広場は閑静で緑陰豊かな空間となっている。

敷地内の保存緑地は、中央図書館から工学部にかけての中央部に広がり、キャンパスの四季を彩る魅力と潤いのある空間となっている。また、総合案内板・誘導サインなどの屋外サインの整備を近年に行っている。

### [課題]

現状の保存緑地を適切に保全するためには、継続的な維持管理を行うことが重要である。また、敷地を分断している南北道路と東西道路周辺を、座主川を含めて周辺景観に調和させることによって、キャンパスの一体性を高めることが必要である。【南北道路は平成 27 年度整備済】



東西道路（現状）  
（左右のキャンパスと連続性のある整備が必要）



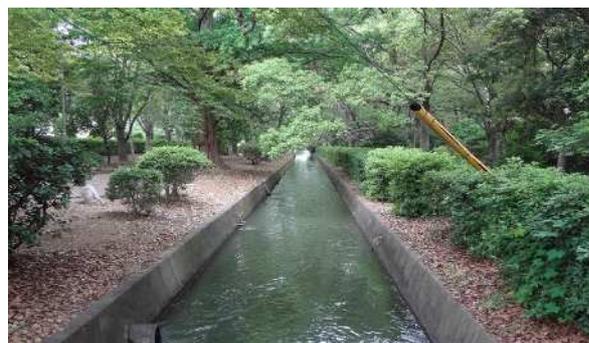
南北道路  
【平成 27 年度整備済】



農学部南側のいちよう並木道（現状）  
（既存のいちよう並木を活かした整備が必要）



北地区中央部の保存緑地帯（現状）  
（人々が集い憩いと潤いある広場の整備が必要）



東西道路と並行して流れる座主川（現状）  
（安全な水と緑の親水空間の整備が必要）



座主川沿いの遊歩道とポケット広場（現状）  
（雰囲気のある水辺の憩いの場としての整備が必要）

7) 基幹設備の現状

令和6年5月1日現在

1. エネルギー供給関係	
(1) 電気設備	
①受電電圧及び受電方式	66 kV 1回線受電（常用） 6.6kV 1回線受電（予備）
②受電変圧器容量	6,000kVA×2台 合計 12,000kVA
③契約電力	5,424kW(常時)、1,500kW(予備)
④構内電気室数	37カ所(特高受変電所を除く)
⑤構内変圧器容量	約 22,000kVA
(2) 機械設備	
①空調方式	建物ごとに、中央方式又は個別方式 中央方式：小型吸収式冷温水発生機又はチリングユニット 個別方式：電気式又はガス式空冷パッケージ型空調機
(3) 給水設備	
①水源	市水
②給水方式	学部等部局及び施設規模により、受水槽-高置水槽方式又は加圧ポンプ方式
③引き込み	25φ~150φ管により 18カ所に引き込み
(4) 排水設備	
①生活排水	公共下水へ放流
②実験排水	公共下水へ放流
③雨水排水	河川へ放流
(5) ガス設備	
①ガス種別	都市ガス 13A
②引き込み	学部等部局及び施設規模により、50φ~200φ管により 21カ所に引き込み
2. 情報通信設備関係	
(1) 電話設備	電子式デジタル交換機（最大回線容量 5,200回線 現状利用回線 約 1,800回線）
(2) 情報設備	全学学内LAN（ギガビットネットワーク）

基幹設備の課題

1. 電気設備 [課題]

建物の大型改修時等に合わせて、電気設備及び情報通信設備等の更新を実施している。

◎受変電設備

現在、津島団地として電力会社から 66kV(契約電力 5,424kW)を埋設管路のケーブルにより、1回線で供給を受けているが、事故時には、長期間津島団地が停電することとなる。予備として 6.6kV 線で受電しているが、電力会社の送電可能容量が 1,500kW であるため、全団地に供給できる余裕がない。

構内の変電・配電設備は、随時更新を行っているが、建設当時のまま老朽化が進んでいる箇所も残っているため更新を進める必要がある。

◎構内交換設備

津島団地内に電子式デジタル交換機（最大回線容量：5,200回線）が設置されている。現在の利用回線は約 1,800回線である。

◎情報通信設備

全学学内 LAN（ギガビットネットワーク）が整備されているが、日々急速に変化する DX に対応できる柔軟性を意識したインフラストラクチャーの計画と整備が課題となる。

◎火災報知設備

津島団地構内において消防法に則り、火災報知設備が各部局単位で整備されている。今後、非常時における緊急連絡システムの整備が課題となる。

◎監視カメラ設備

津島団地構内の防犯対策及び事故防止などを目的とし、構内の安全管理上監視カメラの整備が課題となる。

2. 機械設備 [課題]

建物の大型改修時に合わせて、建物内の空調設備、給水設備及び排水設備等の機械設備の更新を実施している。

◎給水設備

屋内給水配管については、建物の改修に合わせライニング鋼管、ステンレス管、塩ビ管への更新を行っている。屋外給水配管については、近年のライフライン再生工事により約3分の2が完了した。更なる更新を進めて完了する必要がある。

受水槽については、耐震性の劣っている水槽の更新を行い、災害時の水の確保を確実に行う必要がある。

◎排水設備

屋内配水管については、建物改修に合わせ更新を行っている。

屋外生活・実験排水管については、平成16年度公共下水接続に合わせ整備を行っている。また、近年のライフライン再生工事により約3分の2が完了した。更なる更新を進めて完了する必要がある。

◎ガス設備

屋内ガス管については、建物改修に合わせて更新を行っている。

屋外ガス管については、構内ガス管の更新がほぼ完成している。

◎消火設備

消火配管及び消火ポンプについては、建物改修に合わせて更新を行っている。

◎空調設備

津島地区構内は、建物ごとに空調方式が異なる。

中央方式として小型吸収式冷温水発生機又は電気式ヒートポンプチャラー、個別方式として電気式パッケージエアコン、電気式・ガス式ビルマルチエアコン空調設備が設置されているが経年劣化により安定的な空調の提供が困難になっている箇所がある。

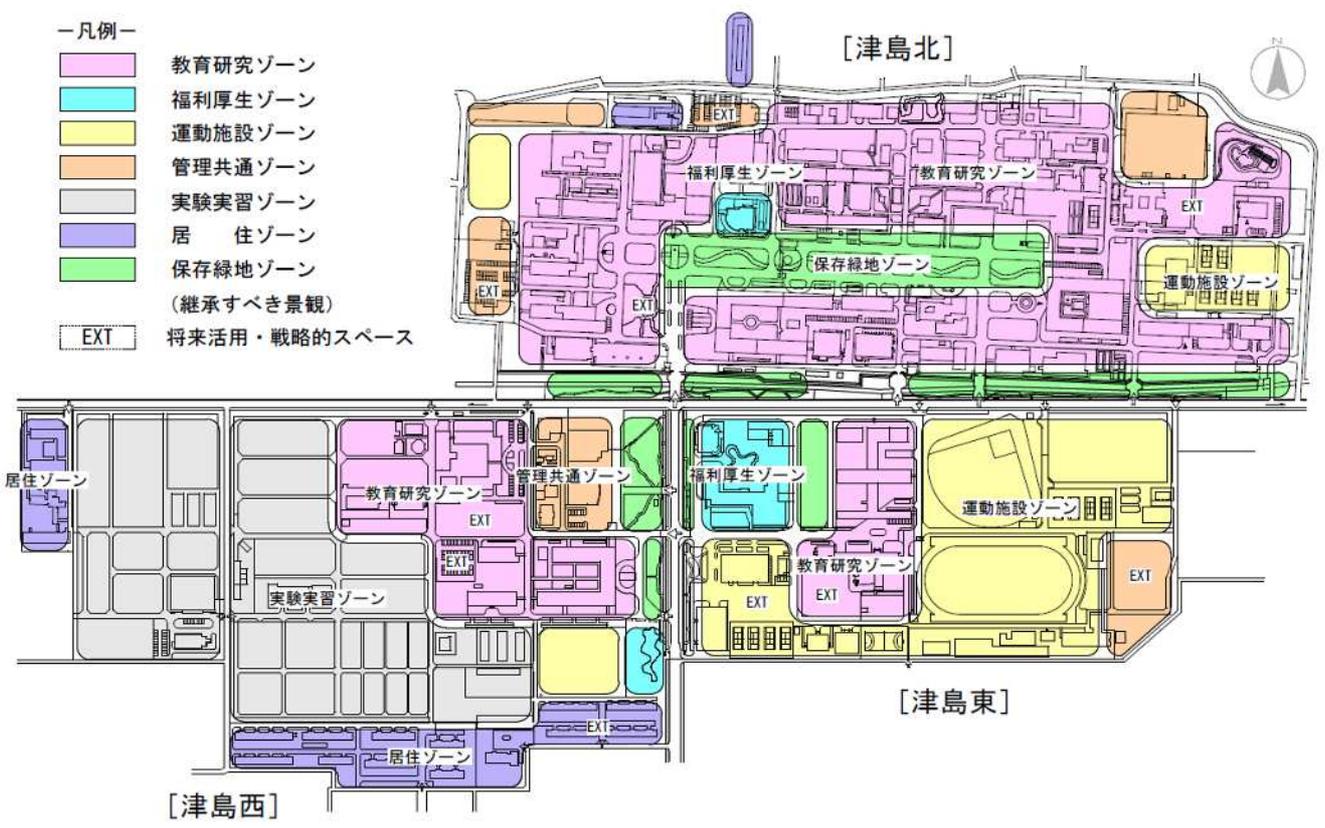
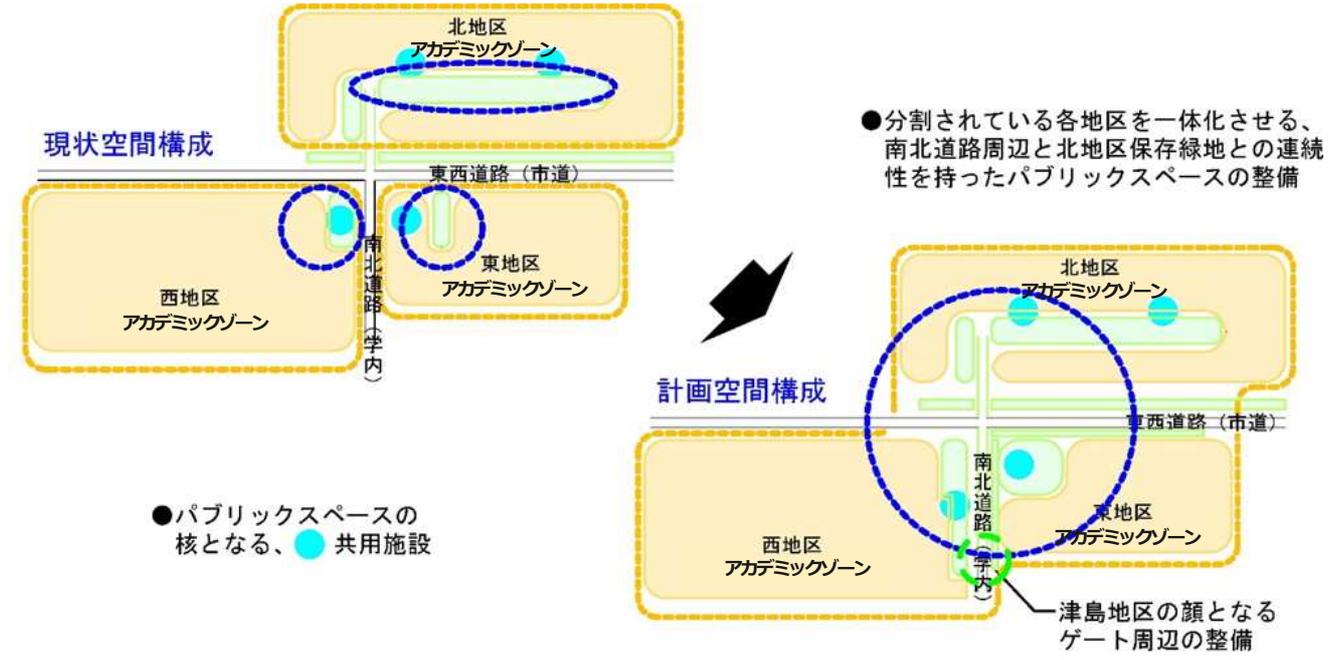
年次計画をたて、高効率空調設備に更新することにより、省エネ及び良質な空調の提供が可能となる。

2-1-2 ゾーニング計画

キャンパスを特徴づけている空間や建物など普遍的要素を考慮して、現状のゾーニングを基本とし、教育研究、福利厚生、運動施設、管理共通、実験実習、居住の各ゾーンに設定する。

また、岡山大学筋（通称：南北道路）と、東西道路及び座主川沿いの豊かな地形や緑地等を活かし、美しいキャンパス形成に向けて継承すべき部分（保存緑地ゾーン）と戦略的活用を図る部分を明確にし、新たに個性と魅力溢れるエントランスとパブリックゾーンを形成する。

建ぺい率・容積率については、どちらも法令等に規定する値を大幅に下回っていることを考慮し、大学を取り巻く状況の変化への対応及び戦略的活用のための用地として、管理共通ゾーン等を利用する。



2-1-3 パブリックスペース計画

1) パブリックスペースの整備方針

キャンパスは人格形成の場として、極めて重要な空間として位置づけられる。特に緑地を含むパブリックスペースは、カリキュラム以外の時間を過ごす場で、交流を生み出す空間、歩いて楽しい空間、キャンパス生活を豊かにする憩いの空間として、多様で魅力のある空間として整備する。

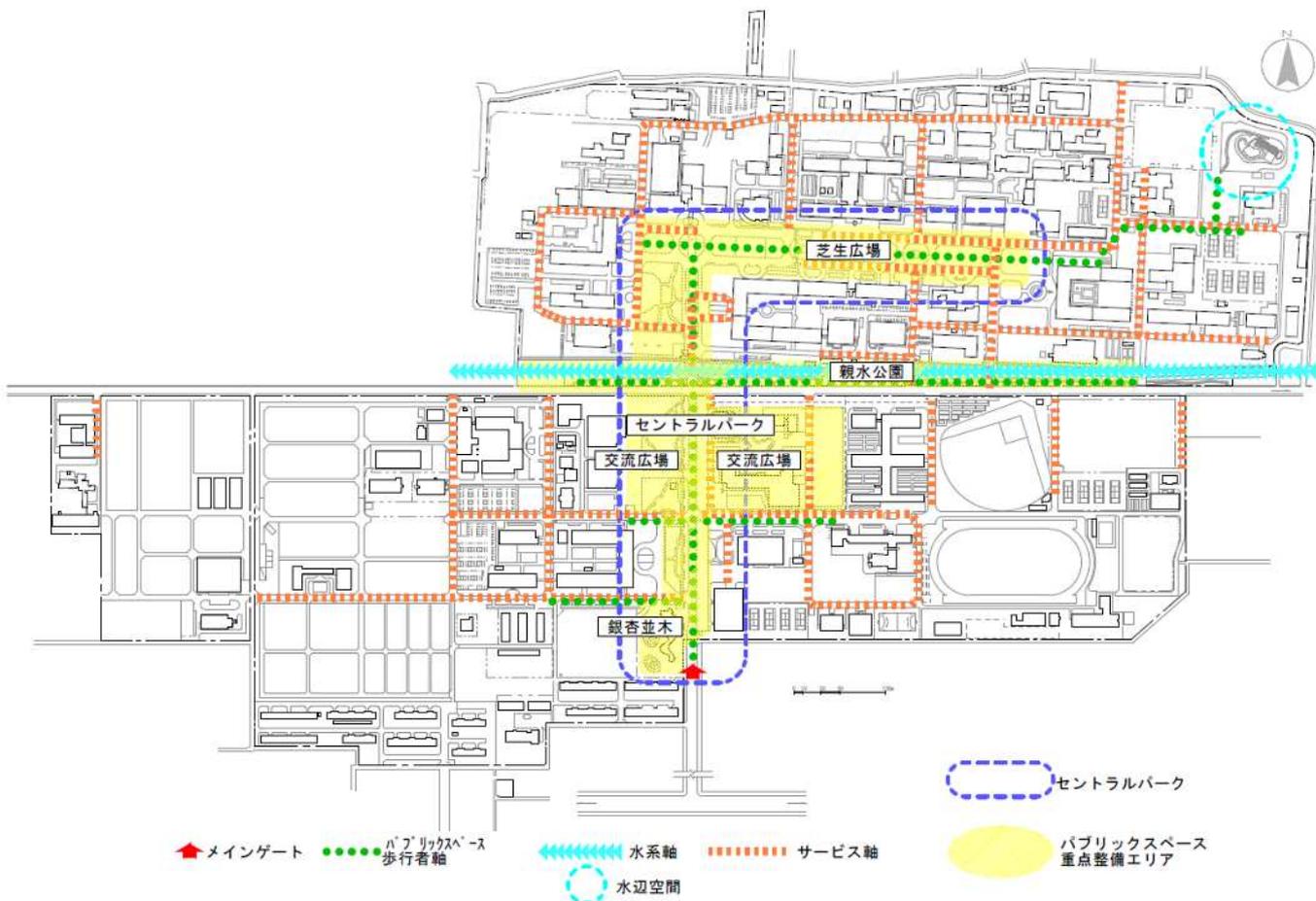
従って、それぞれのゾーンにおいて魅力的な特徴を持ったパブリックスペースを、キャンパスの大きな骨格として整備する。

2) パブリックスペース計画【セントラルパーク構想】

パブリックスペースは、大学の空間を特徴づけ、空間的秩序を構築する力や、変化・成長にも対応する力があり、そのためキャンパスマスタープランのなかでパブリックスペースを位置づけることは、空間的骨格の形成、建物配置をコントロールする大きな要素となる。

津島地区はキャンパス入口から中央図書館に至る南北道路、市道である東西道路及び中央図書館前から教育学部北側に至る北地区保存緑地を基本的な骨格（基軸）として、施設が配置され動線が設定されていることを念頭に置き、パブリックスペース計画を策定する。

具体的には南北道路周辺のいちよう並木の歩道、Jテラス・交流広場・図書館前広場等の調和のとれた整備、東西道路及び座主川周辺の親水公園・遊歩道の整備、北地区保存緑地の芝生広場や遊歩道・憩いの場の整備充実を図り、総合的なパブリックスペースの充実化（セントラルパーク構想）を推進していく。



《東西交流広場》

岡山大学筋（通称：南北道路）のいちよう並木は岡大を象徴する美しい並木道であるが、より美しく品格のある大学道路として、車道と歩道を一体的に整備した。更に、道路沿い建物の秩序と調和を図るためにファサードにも配慮し、単なる移動空間ではなく、シンボリックな大学への導入路を形成している。

また、本部棟前、学生会館北側を中心とする東西広場は、南北道路を介して一体化させ、人々が憩いを求めて自然に集まる交流広場として整備した。



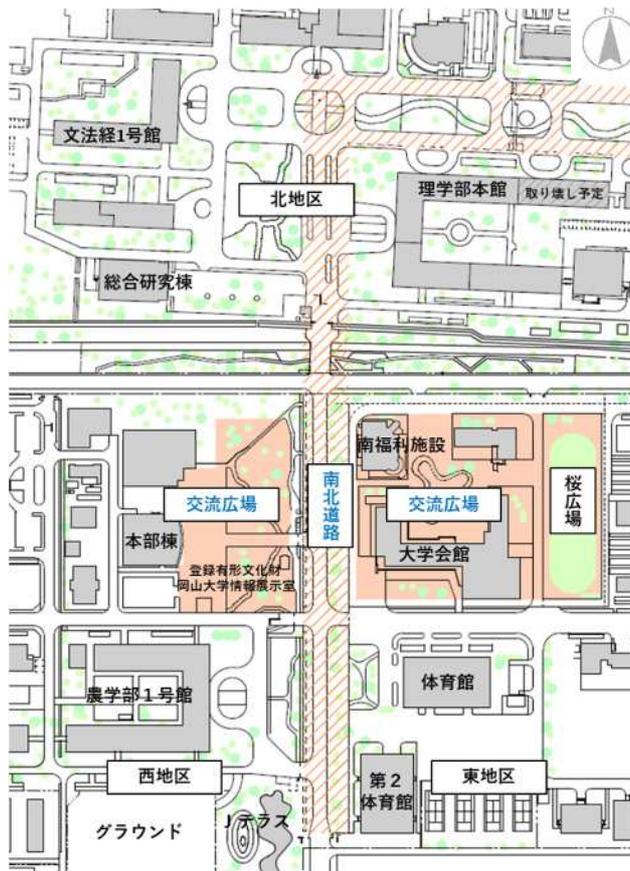
桜広場（整備後）【平成25年度整備済】



南北道路（整備前）



南北道路（整備後）【平成27年度整備済】



南北道路のいちよう並木と交流広場



学生会館北広場（整備前）



交流広場（パーゴラ）（整備後）【平成25年度整備済】

《いちよう並木》

キャンパス入口の西側に多目的交流施設であるオープンテラス（通称：Jテラス）を平成26年度に整備し、農学部1号館から農場へと続くいちよう並木エリアを特色付けている。

また、Jテラスはシンボリックで特徴あるデザインを活かし岡山大学を印象づけると共に、大学と地域の接点となり、地域貢献や地域との交流に資する施設となっている。



農学部1号館南のいちよう並木とJテラス



農学部1号館から農場へと続くいちよう並木



Jテラス【平成26年度整備済】

《芝生広場》

北地区の教育研究ゾーンの中央部にある広大な緑地帯は、利用者がくつろぎ交流と安らぎを促す屋外空間とするために芝生公園とし、既存樹木を有効に活用しながら見渡しのよい開放的な広場として整備する。



北地区の芝生広場



中央緑地帯 (現状)



芝生広場の将来イメージ

《親水公園》

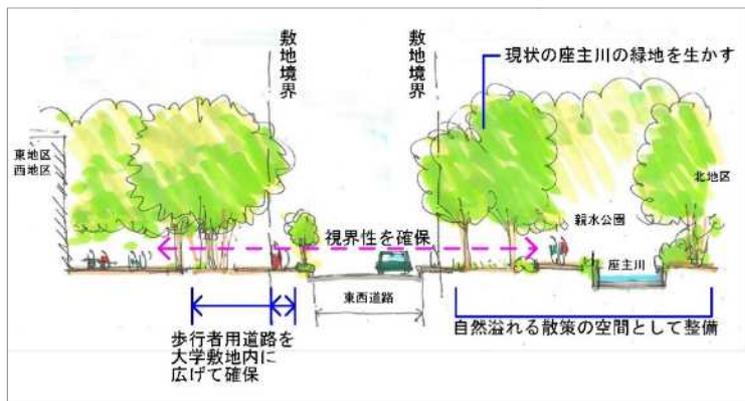
東西道路と並行した座主川沿いの緑地帯は、全域にわたり豊富な陸産貝類群集が見られ、環境省がレッドデータブックに指定する絶滅危惧種が生息している。従って、座主川沿いの緑地帯全域は自然保護区とし現状の環境を極力維持することとする。

親水公園とする座主川沿いの緑地帯は、南北道路を中心とした秩序と品格ある通りに対して、土と水と緑が織りなす自然に溢れた空間として、学生・教職員、近隣住民が安心して散策できる自然公園として整備する。また、座主川沿いには景観・環境に配慮した転落防止用の防護柵を設置する。

東西道路南側の歩道部については、大学側に歩道を更に拡幅し、既存の歩道と一体化させ安全性と開放感のある遊歩道として平成25年度に整備した。



座主川沿いの親水公園



親水公園 イメージ図



座主川と広場と遊歩道（現状）  
自然保護区として現在の環境を維持する



東西道路【平成25年度整備済】

《ビオトープ》

環境理工棟の東側には、様々な生き物による「水と生命の営み」からなる自然生態系が息づく学内水循環施設（ビオトープ）があり、自然環境の復元から維持管理法に関する実践型環境教育・研究に活用している。

また、ビオトープ池は地元住民の心の癒しの場ともなり、さらに地域の小・中・高校の実践型環境教育への高い教育効果が期待されている。



ビオトープ



ビオトープ全景（現状）

### 3) 緑地計画

キャンパス内の樹木や草花はキャンパスアメニティの向上を図る上で重要な要素であり、生態系の保全に配慮しつつ教育研究活動や憩いの場として積極的に活用する。

また緑地の保全によってヒートアイランド現象の緩和やCO<sub>2</sub>削減の効果を図る。

#### [現状]

エントランスを彩る南北道路のいちょう並木は、周辺緑地と趣を変えたシンボリックな並木となっているものの、それ以外の緑地帯や建物周辺部は、場当たりに様々な樹木が植えられ、キャンパス全体としては統一感のない植栽となっている。

そしてケヤキ、カイツカイブキ、クス等は年月を経て大きく育ち、樹木同士が干渉しあい窮屈な状況となっている。また、道路沿いの中低木がキャンパスを遮蔽し、閉鎖的な環境にもなっている。

#### [課題と展開]

南北道路、東西道路、学内主道路を美しい緑の軸として設定するために、街路樹の景観を整えた整備とする。また、北側に位置する半田山は積極的にキャンパスの借景として活用しながら既存の貴重な樹木を活かした緑地計画とする。

沿道の景観を閉鎖的にしている道路沿いの中低木は整理し、見通しを良くして地域に開かれたゆとりと潤いのあるキャンパス整備を目指す。【南北道路は平成27年度に整備済】



美しい緑の軸 — 南北道路  
いちょう並木【平成27年度整備済】



美しい緑の軸 — 東西道路  
ケヤキ並木（現状）



美しい緑の軸 — 学内道路  
ケヤキ並木（現状）



保存緑地と借景となる半田山（現状）



道路沿いの中低木閉鎖的な環境にしている（現状）

2-1-4 動線・交通計画

動線計画は迷うことなく明確に目的地にたどり着ける必要があり、キャンパス内では、歩行者を優先しつつ、人と自転車・自動車が安全かつ快適に共存できるように、通過交通と分離した安全で機能的な道路計画と、土地利用計画を配慮した合理的な駐車場・駐輪場の位置や大きさを検討する。また、緊急車両やバス等の特殊車両にも配慮した計画とする。

1) 交通計画の具体的な目標

(1) キャンパス空間に相応しい道路計画

- ① 豊かな緑との融合、安全・安心に利用できる環境、バリアのない移動を実現する。
- ② 自転車・自動車についてはキャンパス内の横断、縦断等の通過動線を極力避ける。

(2) 活発な教育研究活動、アクティブなキャンパスを支援する動線の整備

- ① 歩行者、自転車・自動車の錯綜が極力少ない動線計画とする。
- ② 津島東、西、北ゾーンの接続は、安全や機能性に考慮して連絡部（出入口）を限定する。
- ③ 歩行、自転車、公共交通機関など多様な交通手段の接続に配慮し、利用者にやさしい交通計画とする。

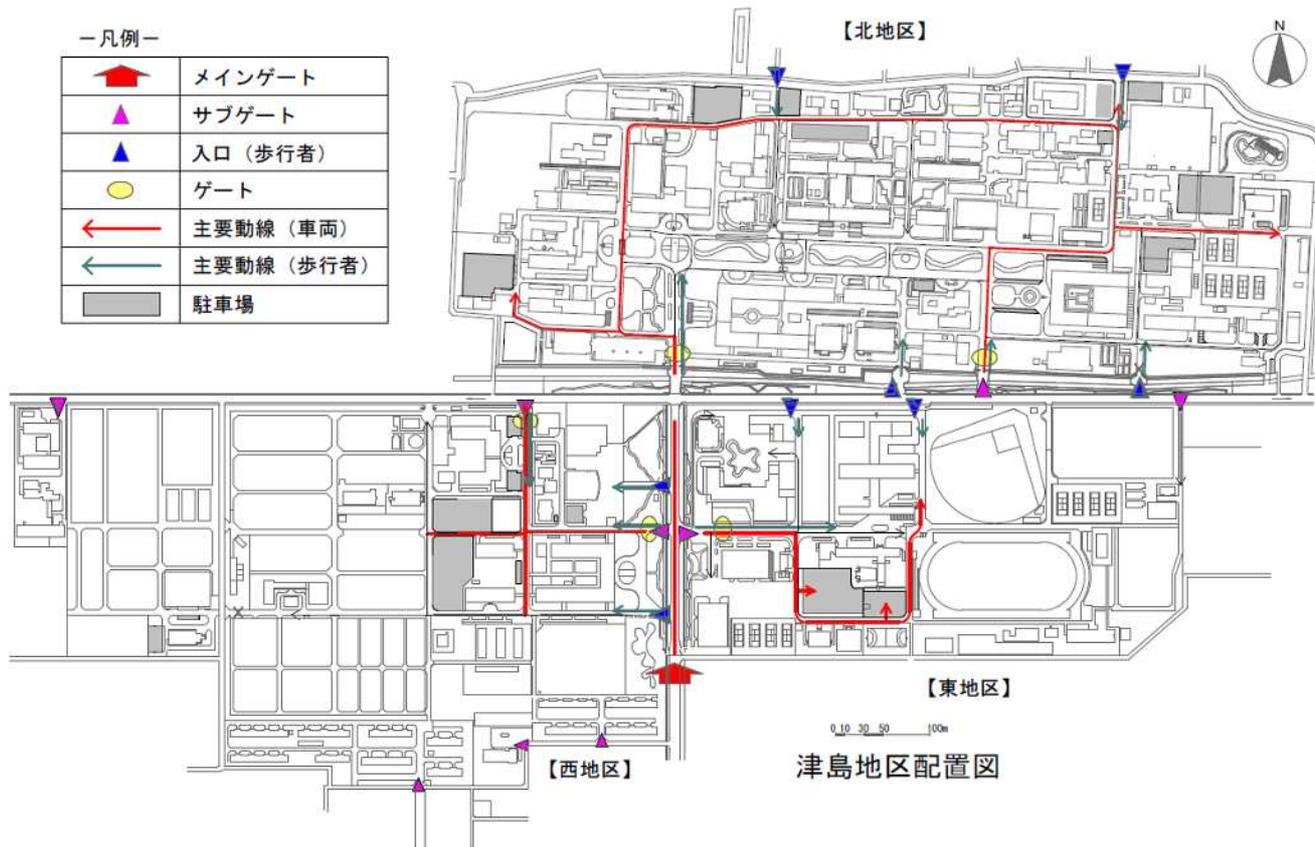
(3) 学内と学外の連絡がスムーズで、開かれたキャンパスを支える交通計画

- ① 南北道路と東西道路に分断された各ゾーンの活発な交流を促すための動線計画とする。
- ② 公共交通機関からキャンパス内の各施設へ、明確でスムーズなアクセスを可能とする動線計画とする。

(4) 環境にやさしく、良好な交通環境を持続的に維持する管理政策の実現

- ① 駐車場利用に対し課金を行い、持続的な維持・管理・運営を支援するための財源を確保する。
- ② 自動車・オートバイの利用抑制のため、駐車場利用を許認可制・有料化とする。

【①②共に平成22年度実施済】



## 2) キャンパス内の動線計画

### (1) セントラルパーク

- ① セントラルパークはキャンパス内を連結する最も重要な基軸動線と位置づけられ、教職員・学生が集まり移動するための空間を提供すると同時に、既に公共化されている南北道路に加え、新たな歩道及び自転車専用道路を設け、安全に配慮した整備とする。

### (2) 歩行者動線

- ① 歩道は自転車と分離し、最低2人が話しながら並んで歩けるような快適且つ安全な歩行動線を整備する。
- ② キャンパス内のバリアフリー化（段差の解消、滑りにくい仕様等）を推進する。
- ③ キャンパス周辺のバス停に往来しやすい動線を確保する。
- ④ キャンパス内を散策できる歩行者動線（遊歩道）を整備する。

### (3) 自転車動線

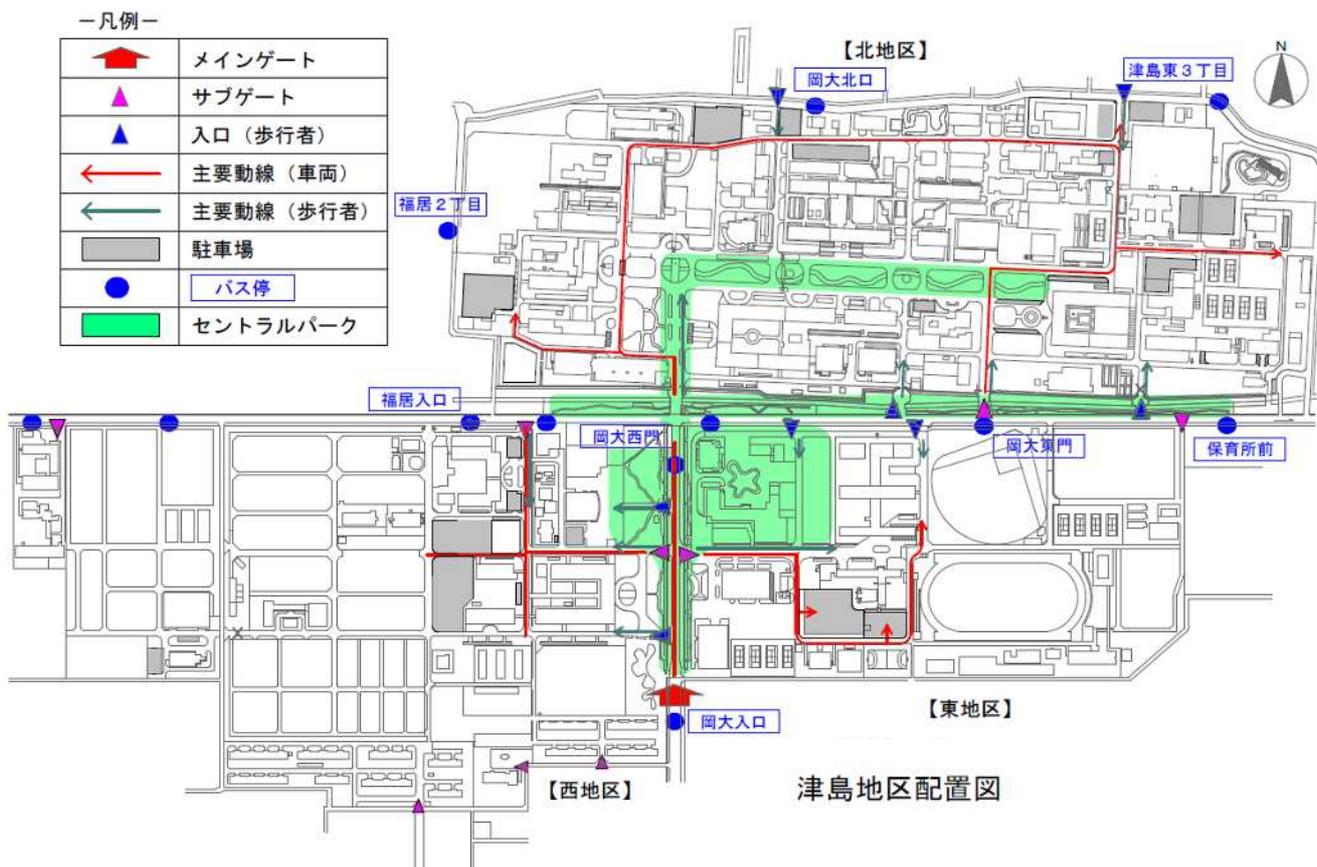
- ① 敷地内の車道は、自転車も共用する。
- ② 教育研究活動やキャンパスライフを考慮し適切に配置する。

### (4) 自動車動線

- ① 公共道路からの自動車の連絡口（出入口）は最小限とし、敷地周辺に駐車場を配置することによりキャンパス中央部の車両交通を極力少なくする。

### (5) 駐車場ゲート

- ① 構内へ適切に引き込んだ位置に配置し、入構待ちの車が渋滞の原因とならないように配慮する。



### 3) 駐車場・駐輪場計画

#### 《駐車場》

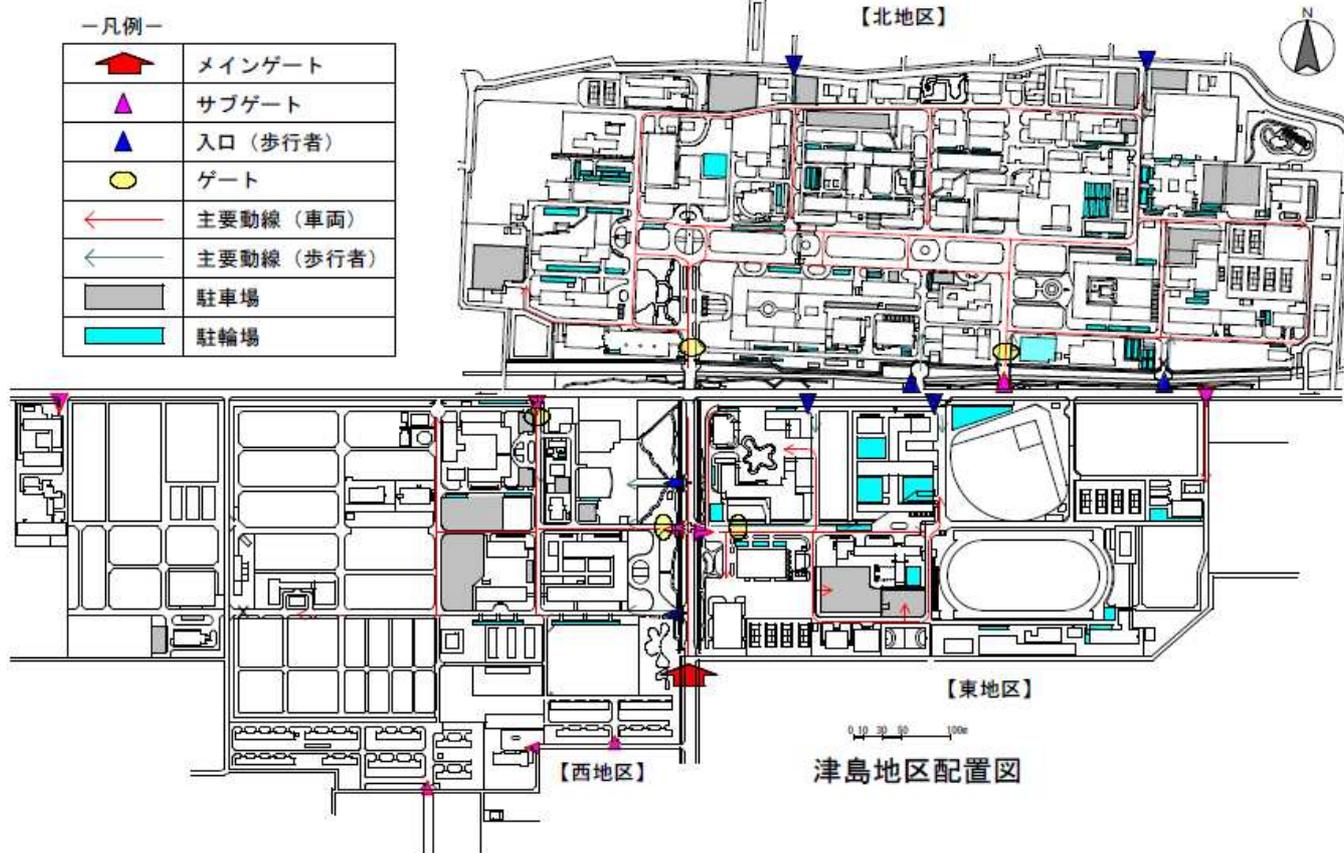
交流広場、芝生広場となるパブリックスペース内の駐車場を排除し、敷地周辺部に整理統合した現状と同規模の新たな駐車場を整備する。

#### 《駐輪場》

津島地区は東西に約1,300m、南北に約700mもある敷地のため、学生は移動手段として主に自転車を利用しており、各建物の出入り口周辺に集中する自転車が人の通行やサービス車両等の進入を妨げている。

交流広場、芝生広場付近は駐輪禁止エリアとし、駐輪場は建物正面から見えない建物周辺部分に分散配置することにより、キャンパス景観の向上を目指した整備とする。また、適宜利用状況を確認し適切な駐輪規模を維持する。

#### ■ 駐車場・駐輪場配置図



#### ■ 駐車場現状台数

令和6年度1月1日現在

地区	駐車場一覧表			駐輪場一覧表		
	(教職員・学生)	(外来者)	合計	(自転車)	(バイク専用)	合計
北地区	662台	43台	705台	4,644台	156台	4,800台
東地区	251台	35台	286台	3,361台	48台	3,409台
西地区	122台	19台	141台	649台	133台	782台
総合計	1,035台	97台	1,132台	8,654台	337台	8,991台

## 2-1-5 建物整備計画

### 1) 建物配置計画

津島地区は「南北道路軸」、「東西道路軸」、「北地区保存緑地軸」を基軸に、それぞれ特徴的なキャンパス景観をつくりだしている。今後の施設整備においてもその特徴的な景観を継承しつつ、教育研究活動や管理運営の円滑な実施を図るため、建物相互の関連性を踏まえて、機能的で使いやすい合理的な配置とする。また、増改築が必要となった場合には、教育研究活動等の内容を踏まえ、採光や通風など周囲への影響も考慮し建物の多層化・集約化を図る。

#### (1) 南北道路軸

岡山大学を象徴するいちょう並木、その奥に控える時計台のある南北道路から緑地帯を介しセットバックさせる形で建物を配置することで、秩序と品格ある象徴的な空間を際立たせる。

#### (2) 東西道路軸

併走する親水公園、豊かな緑地帯を維持管理することにより建物の存在感を消し、かつ新築時には建物の高さを制限することにより、自然溢れる空間をつくり出す。

#### (3) 北地区保存緑地軸

キャンパスの歴史を象徴するかのような巨木のある緑地帯を中央に頂き、その東西に延びる緑地帯を挟んで建物群の壁面線を揃えて配置することで、伸びやかで整然としたゆとりのあるキャンパス空間をつくり出す。

#### (4) 建物群内の外部空間

建物相互の外部空間は、単なる移動空間とはせず、学生・研究者等が憩い、交流を促せるように適切に緑を配し、ヒューマンスケールを意識した空間として整備する。

### 2) 安全性・機能性に問題のある既存施設の改善

これまで計画的に耐震改修工事を実施してきており、建物の耐震化は概ね完了している。今後は、小規模建物や外壁・天井材・照明器具等といった非構造部材についても耐震対策を推進していく。特に非構造部材については、定期的に点検を実施し、必要な耐震対策を適宜に実施していく。併せて、経年劣化により安全性・機能性に著しく問題のある老朽施設や、機能劣化の著しい基幹設備についても安全の確保だけでなく、教育研究環境としての機能を十分に備えたものとなるよう、計画的な整備を推進する。また、施設の維持管理コストを見据えたうえで、用途や機能の類似する建物は、教育研究活動等の内容を踏まえ集約化を図る。特に老朽化した小規模建物群については集約化を図り、効果的・効率的な管理運営を促進する。

### 3) 高度化・多様化する教育研究活動の実施に不可欠な新たなスペースの確保

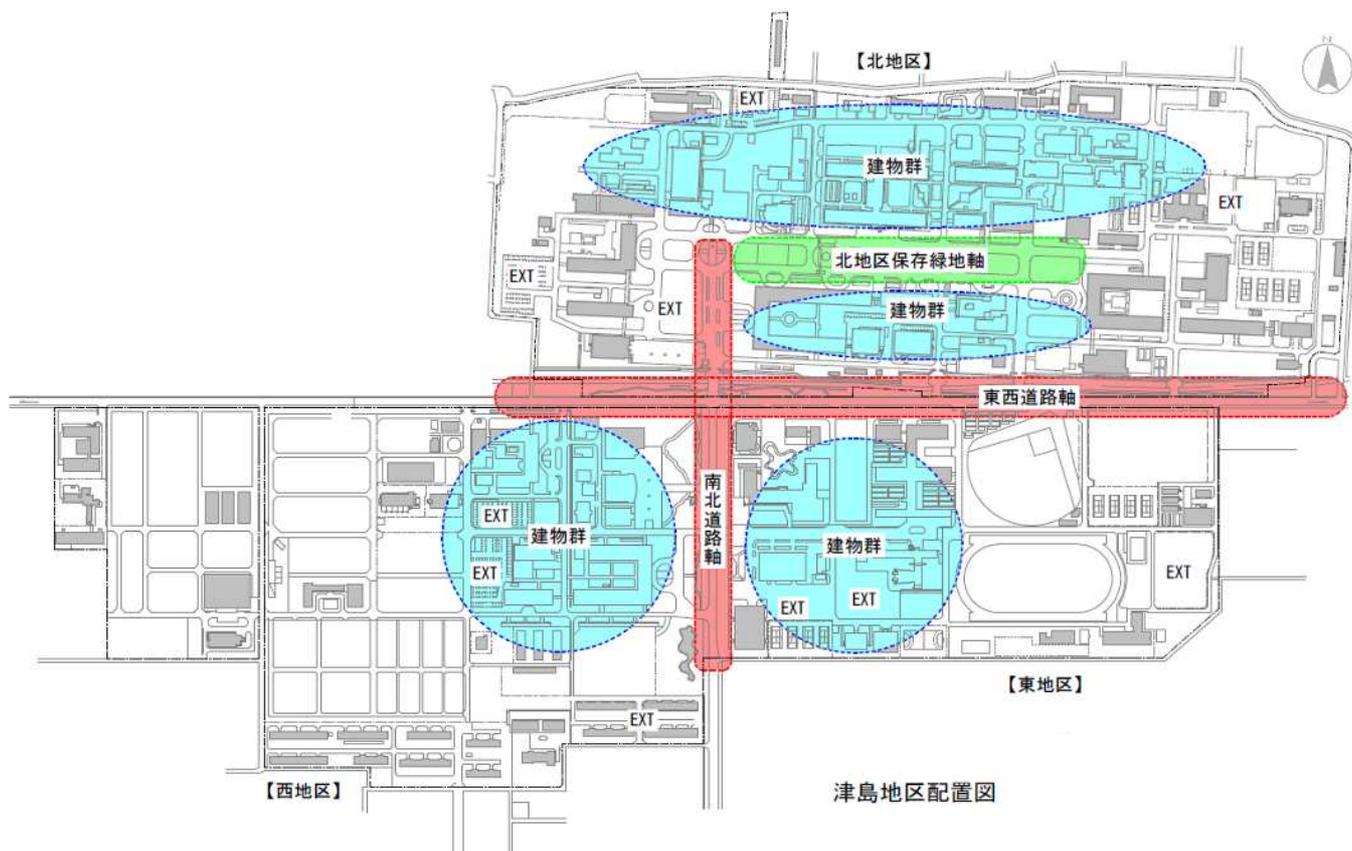
教育研究活動の多様化・グローバル化・高度化に対応したスペースについては、これまでもその整備を図ってきたところであるが、依然として不足していることを踏まえ、留学生・外国人研究者の受入向上、異文化交流の活性化、アクティブ・ラーニング等の拡充、異分野融合研究の推進、イノベーションの創出等、特色ある教育研究活動を活性化するために真に必要な不可欠なスペースについて整備を行い、その環境改善を図る。政策的課題や社会的要請による新たな教育研究ニーズへの対応等に必要な戦略的スペースを確保するため、既存施設の有効活用・集約化を図る。特に留学生・外国人研究者の住環境の改善のため、外部資金等を利用し既存職員宿舎・学生宿舎等の施設や土地を再整備し保有面積の抑制およびスペースの有効活用（取り壊し・転用等）を図る。

4) 建物外観

新築時や大型改修時の建物外観については、アースカラーを基調とした色彩や素材を選定することとする。また、周辺景観や用途によって調和を持たせた統一感のあるデザインとし、建物群として色彩や形状など美しいキャンパスに配慮した景観を創出する。

5) サステイナブル・キャンパスの形成

サステイナブル・キャンパスの形成のため、「岡山大学環境方針」に定められた省エネルギー、地球温暖化対策等に配慮した建物整備を推進する。また、「岡山大学インフラ長寿命化計画（行動計画・個別施設計画）」を踏まえ、建物のライフサイクルCO<sub>2</sub>を可能な限り削減できるよう計画的な建物整備を実施する。津島キャンパスにおいては恵まれた土地を最大限活用し、新エネルギーの導入についても積極的に推進する。



## 2-1-6 ユニバーサルデザイン

大学キャンパスは学生・教職員だけではなく地域住民にとっても身近な空間として利用されている。したがって、生涯学習需要の増加や、高齢者・身体障害者等を含む多様な人々による利用、さらには留学生や外国人研究者の増加も予想され、多様な利用者に対し、安心・安全な移動空間の整備、異なる言語圏の人々にも分かりやすいサイン、適切な屋外照明など「ユニバーサルデザイン」の考え方を取り入れたキャンパスづくりを推進する。

屋外環境については、キャンパス入口から学外の人々の利用が多い建物（中央図書館や一般教育棟等）までの通路に点字ブロックを設置することとし、今後利用者の必要に応じ順次設置範囲を拡大していく。また、建物案内板については、少なくとも日本語と英語の二カ国語対応とする。

### — ユニバーサル7原則を踏まえた計画 —

- ① 誰にでも公平に利用できること。
- ② 使う上で自由度が高いこと。
- ③ 使い方が簡単ですぐわかること。
- ④ 必要な情報がすぐに理解できること。
- ⑤ うっかりミスや危険につながらないデザインであること。
- ⑥ 無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使用できること。
- ⑦ アクセスしやすいスペースと大きさを確保する。



《災害時の対応》

広大な敷地を有する津島キャンパスは、災害発生時において、学生、教職員等だけでなく、地域住民などの生命を守る地域の防災拠点としての役割を果たす必要がある。

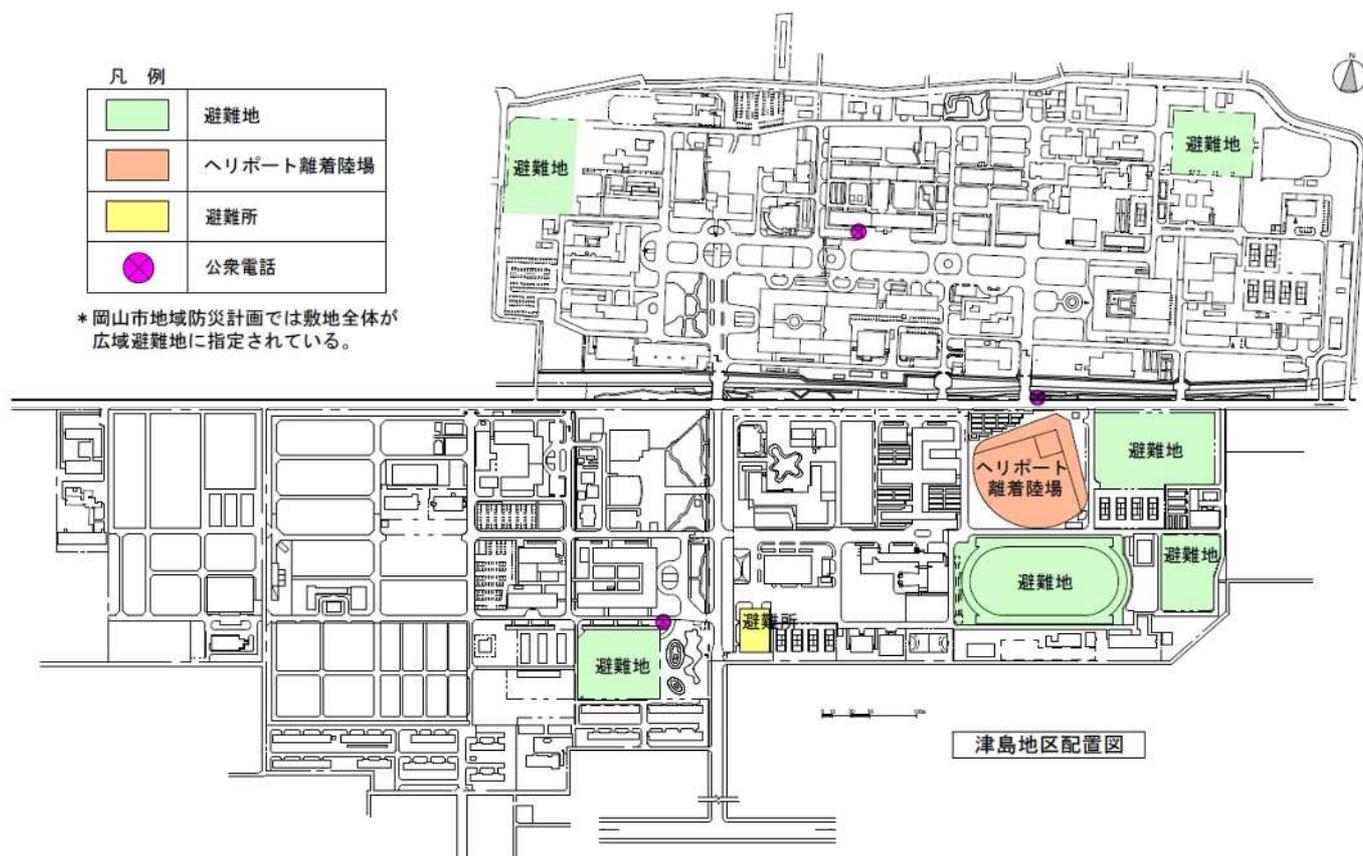
そのため岡山市の地域防災計画にも津島キャンパスは広域避難場所に指定されており、大規模災害時において一次避難地や各種避難所にまでも危険が達すると予想される場合において、多くの市民等の避難地となる。

したがって備蓄倉庫の整備や、ライフライン、情報インフラの耐震化や早期復旧対策、物資搬入を円滑に行える施設周辺の対策等についても配慮した整備を行う。

そして地域の防災拠点の形成に当たり、地方公共団体などとの相互連携・機能補完のためのネットワークを構築しておく。

また大学間連携においては、東南海・南海地震等の大規模災害の発生に備え、第一に学生・教職員の生命を守り、続いて教育・研究・診療機能の停止・低下を最小限に抑え、早期に復旧できる体制を構築するために、中国・四国地区の10大学による国立大学間連携による高等教育業務継続計画に関する協定が結ばれている。

(平成25年5月30日より施行)



岡山市地域防災計画による広域避難場所(岡山大学津島キャンパス)

R5.現在

番号	避難場所名	位置	計画避難地面積 (ha)	計画有効避難面積 (ha)	計画避難者数 (千人) (H22 国調)	一人当たり有効避難面積 (㎡/人)
4	岡山大学	北区津島中	72.0	65.0	24.5	26.5

## 2-1-7 インフラストラクチャー計画

### 津島地区インフラストラクチャー計画

基幹設備である電気設備、空調設備、給排水設備、情報インフラなどは、現状では施設の新営及び改修時に部分的な見直しや更新が行われている程度で、抜本的な整備が行われていないのが現状である。

ライフラインについてはキャンパス全体において、地球環境に配慮したエネルギーの有効利用や最適化、将来の変化に対応するため、エネルギー使用の実情や将来的なエネルギー需要を踏まえた、キャンパス全体の適切なエネルギー供給について計画するとともに、安全・安心・安定化についても計画する。

詳細に関しては、インフラ長寿命化計画において計画・整備を行う。

#### 【有効利用や最適化】

エネルギーの有効利用には、施設の照明設備や空調設備等の高効率機器採用による省エネルギー化を図るとともに、エネルギー監視・制御等システムを活用することも有効な手段である。しかし、システムの導入に当たっては、施設の管理運営方針や方法及び導入による費用対効果等を踏まえて検討する。

また、施設の種類・用途や利用形態に適した設備システムによるエネルギーの最適化を図り、イニシャルコストとランニングコストを比較検討し、キャンパス全体としてバランスのとれた効率的なエネルギーの利用計画を行う。

特にトータル的な省エネルギー等、エネルギーマネジメントを行うために電力、水、ガスの計量器を各棟、各フロア、各講座など施設の管理運営方針や方法に応じた管理区分ごとに設置していく。

#### 【安全・安心・安定化】

構内の変電・配電設備については、老朽化した設備の更新により高効率設備の導入、需要率などの実績による変圧器容量の見直し及び電気室内機器の再配置または電気室の廃止、統合等により省エネ効果を図るとともに各施設への電源供給の信頼性を高めていく。

空調設備については、一部の設備で経年による老朽化が進み安定的な空調の提供が困難になっている。高効率空調設備に更新することにより、省エネ及び良質な空調の提供が可能となる。

給排水管については特に屋外部分の老朽化が進み、給水管では赤水・漏水の原因、排水管については、老朽化による接続部の抜け、破損が一部に見られるとともに、管接続部等から周辺樹木の根が侵入し「詰まり」の原因となっているなど問題があるため、現在整備を進めている。その際には、今までの応急的な部分的改善ではなくキャンパス全体を見据えた改修及び更新等の年次計画に基づいて実施し、大学構成員の安全・安心を確保する計画としている。

他にも、津島団地においてPPA事業により太陽光パネルを設置し、カーボンニュートラル達成及び、再生可能エネルギー（クリーンエネルギー）の最大限の活用に向けた大規模な整備を計画している。

2-1-8 エネルギー計画

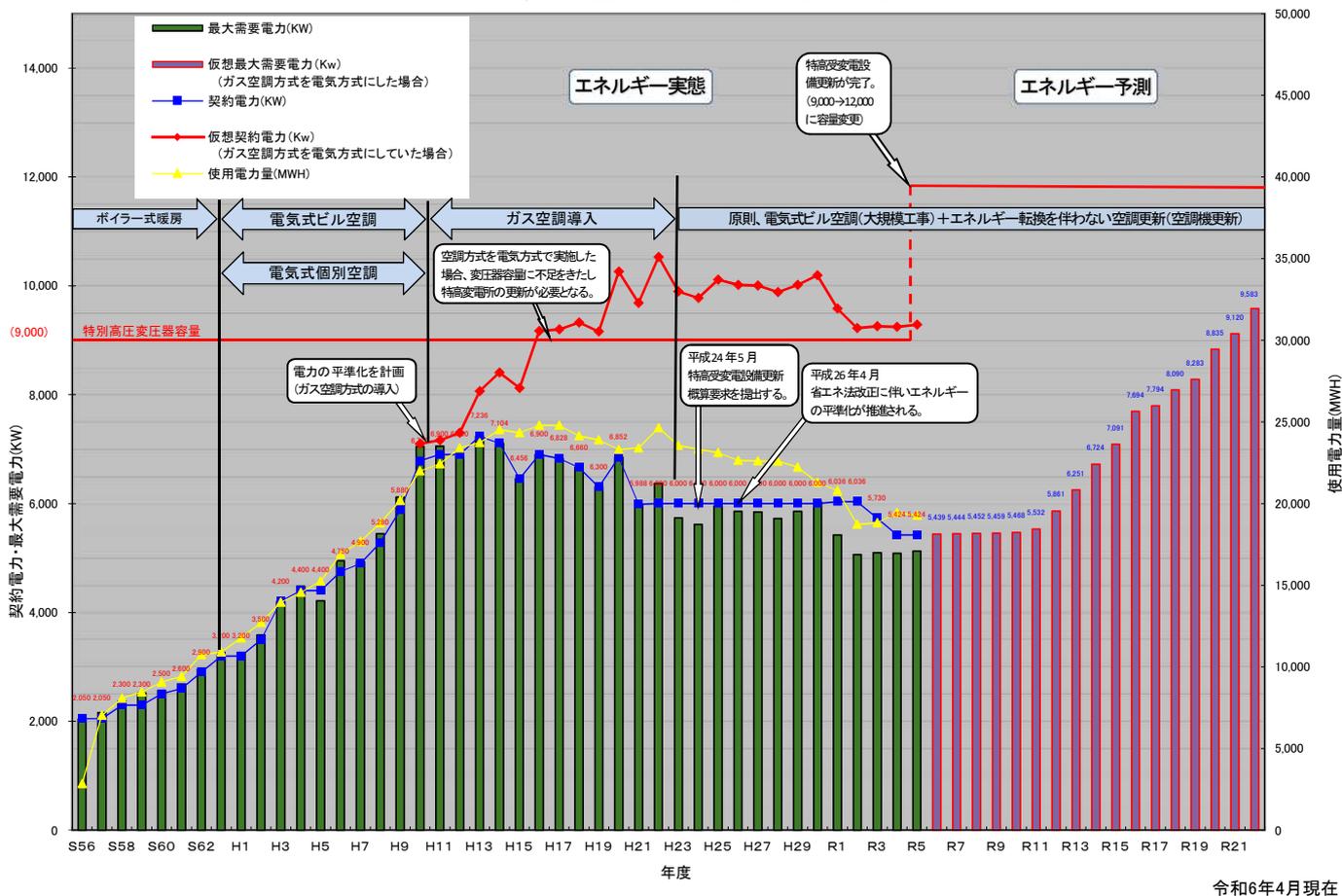
津島地区空調エネルギー使用に関する背景

津島地区の空調は、昭和40年代の建物新設に合わせて重油焚きボイラーによる暖房設備が整備された。平成の初期にかけて建物の大規模工事に合わせて電気式のビル型空調を整備すると共にボイラーの廃止や冷房設備の要望により大規模改修が進んでいない建物においては、備品で個別の電気式パッケージ空調機が設置されてきたが十分な空調ができる状態ではなかった。

このまま空調を電気でまかなった場合、数年後には特高受変電施設の設備容量を超えることが推測された為、平成10年から、大規模整備を行う場合はガス空調を導入しデマンドの抑制とエネルギーの最適化を図った。

その後、個別の電気式パッケージ型空調機がガス空調に置き換わることで特高受変電施設の設備容量に余裕ができたことと、特高受変電施設の更新が完了したことにより、さらに設備容量に余裕ができたため、建物の大規模整備に伴う空調整備は現在、原則電気式空調を採用している。津島団地の置かれた社会背景や環境の変化を注視し、長期的な分析の基その都度見直しを行い柔軟に対応するものとする。

津島地区 空調エネルギー使用に関する背景



### 津島地区空調エネルギー計画

津島地区空調エネルギー使用に関する背景を考慮しつつ各空調システムのランニング及びイニシャルコストを比較検討した結果、空調整備方針を下記のとおりとする。

- ・ 建物の大規模整備を30年から40年と考えた時、空調設備は法定耐用年数（13年、15年）及び故障の頻度、技術の向上による省エネ化を考慮すると、大規模整備のちょうど中間の13年～20年で空調更新を行うことを目標とする。
- ・ 大規模工事における空調設置時は、EHP方式または、EHPチラー方式による電気熱源による空調とする。
- ・ 既存EHP方式、既存GHP方式の空調のみの更新の場合は、そのままの更新とする。
- ・ 既存吸収式方式は、オーバーホールによる延命または、GHPチラー方式への更新とする。

### 津島地区エネルギー見える化計画

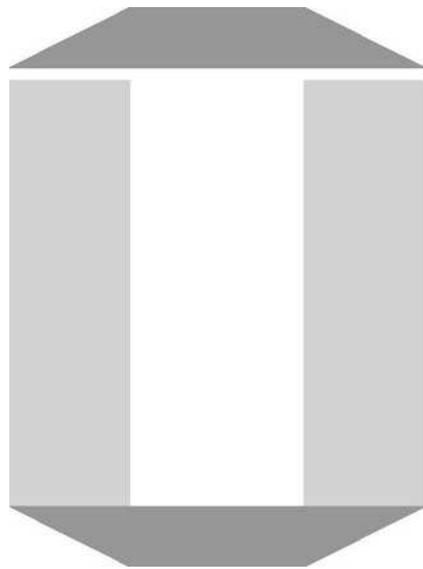
津島地区におけるエネルギーの見える化について、津島団地内の建物ごとの光熱水量を取り込めるよう計画している。

中央図書館に設置されている既存中央監視システムに光熱水量データを取り込み、インターネットを介してクラウドセンターに取り込むことで安価に見える化が構築でき、すでに完成されている鹿田団地と同様のシステムで運用することが可能になる。

また、クラウド化を行うことで将来の設備更新費用がなくなり、常に更新される最新のソフトウェアを活用することが可能となる。

運用面では、パスワードの管理によりクラウド上に直接アクセスすることでスマートフォンなどの端末や、各個人のパソコンによって直接データにアクセス可能となり検針システムとしても活用でき月々の記帳もCSVデータとしてどこからでも取り出すことが可能となる。

このシステムを導入することで、省エネルギー法に対応したリアルタイムなエネルギーの把握を行うと同時に、戦略的なエネルギーの運用を検討するためのツールとして活用し、データを取り纏め解析した結果を学内に公表することで省エネの啓蒙を図る。また、このシステムを利用し検針業務の効率化も図れると考えている。



OKAYAMA UNIVERSITY

鹿田地区編

## 2-2 鹿田地区

### 2-2-1 鹿田地区の現状と課題

鹿田地区 航空写真



#### 1) 交通

##### [現状]

岡山大学病院を抱える鹿田地区は、JR岡山駅南2kmの市街地に位置し、市のシンボルである西川緑道公園の南端に接した商業地域にある。交通の便が良く、JR岡山駅より市内バスと路面電車が運行する恵まれた交通環境にある。

##### [課題]

鹿田地区は公共交通に恵まれているものの、近年自家用車の急増により病院外来患者や教職員の車が集中し、午前の時間帯では病院正門からキャンパス周辺道路にかけて混雑することがある。

キャンパスには現在、教職員用に852台、患者関係者用に680台の駐車スペースがあるが、いずれも一日あたり2倍以上の駐車実績となっており、今後自動車の入構制限や、駐車場の増設等と併せて交通計画の改善が急がれている。

## 2) 周辺の土地利用及び法的規制

### [現状]

鹿田地区は、登録有形文化財に指定されている正門（通称：赤門）や門衛所、鹿田会館・講堂（旧生化学棟）・医学資料棟（旧栄養学棟）など旧岡山医科大学関連の施設が今も残っており、現在まで歴史と伝統の象徴として親しまれている。キャンパスの西側は、消防署、国土交通省中国地方整備局があり、北側は市役所、東側には民家の広がる市街地となっている。また鹿田地区を含む岡山市市街地の南部は、縄文から近世の複合遺跡があり、掘削等の工事を行う場合には、文化財保護法に基づいた届け出が義務付けられている。

### 【法的指定等】

令和6年5月1日現在

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 耐力度調査上の地域区分</li> <li>    地震地域係数   二種</li> <li>    地盤種別       二種</li> <li>    積雪寒冷地域   その他</li> <li>    海岸からの距離 8km以内</li> <li>・ 日影規制         4時間、2.5時間</li> <li>・ 都市計画区域内 市街化区域</li> <li>・ 用途地域         商業地域</li> <li>・ 地域地区         準防火地域</li> <li>・ 公害防止地域    大気汚染、騒音</li> </ul>	<p>土地及び建物面積</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土地面積                               135,328㎡</li> <li>・ 建物面積    建築面積                42,876㎡</li> <li>  延べ面積                205,846㎡</li> </ul> <p>建ぺい率、容積率</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建ぺい率           31.7%       (80%)</li> <li>・ 容積率             152.1%     (400%)</li> </ul>
---	--

### [課題]

鹿田地区は憩いの空間となるパブリックスペース、学生・教職員の福利厚生施設の整備等が未だ十分とは言えない。また駐車場においては一日当たりの駐車台数が保有する駐車場の2倍の駐車実績となっており、狭隘化が著しく顕著な鹿田地区においては「秩序あるキャンパス」の実現のために、段階的に整備を行う必要がある。

## 3) 自然環境

### [現状]

鹿田地区は、岡山平野の北部に位置し、敷地の高低差もなく、温暖な瀬戸内海特有の風土による快晴日の多い、穏やかな気候に恵まれている。

また、岡山市の市街地となる西川緑道公園の最も南端に位置し、鹿田地区周辺は公共施設や民家が広がる住宅街であるため、周辺には緑地を形成する樹木等は少なく、キャンパス内にも小規模な緑地や樹木が点在するのみである。

### [課題]

キャンパスの緑地を一層充実化させるためには、貴重な既存緑地をしっかりと維持保全すると共に、建物の高層化によって新たに緑地スペースを創出する等の工夫が必要となる。

#### 4) 組織と施設

[現状]

鹿田地区には保健学研究科、医歯薬学総合研究科の2研究科に、医学部と歯学部の2学部及び附属図書館分館や、岡山大学病院、自然生命科学研究支援センター等各種センターを配している。

[課題]

今後保有施設の実態を点検評価し、教育研究施設においては、福利厚生施設の整備、教育研究の高度化・グローバル化等教育研究の将来構想を踏まえ、また医療施設においては、高度先進医療の推進、大学の戦略とする医療構想を踏まえて、キャンパス整備の優先的課題を明確にした上で、段階的に整備を行う必要がある。

#### 5) 土地・建物及び所在地

鹿田地区はJR岡山駅南約2kmの市街地に位置し、総敷地面積は、135,328㎡で大学全体の6.6%にあたる。建物面積においては205,846㎡と全体の39.4%を占め、建ぺい率も31.7%と学内で最も狭隘な敷地である。

土地・建物及び所在地

令和6年5月1日現在

区 分	土地(㎡)	建 物		所 在 地
		建面積(㎡)	延面積(㎡)	
■鹿田地区	135,328			
医学部、歯学部		19,893	80,067	岡山市北区鹿田町二丁目 5-1
岡山大学病院		20,566	117,261	岡山市北区鹿田町二丁目 5-1
自然生命科学研究支援センター		1,997	8,098	岡山市北区鹿田町二丁目 5-1
保育所		420	420	岡山市北区鹿田町二丁目 5-1
鹿田地区 計	135,328	42,876	205,846	

## 6) キャンパスの屋外環境

### [現状]

鹿田地区は学内の中でも最も市内中心部に位置し、かつては旧制岡山医科大学が置かれていたキャンパスであり、正門（通称：赤門）や鹿田会館・講堂（旧生化学棟）、医学資料棟（旧栄養学棟）など歴史を感じさせる建物と、高度先端医療を支える近代的な入院棟、総合診療棟などが混在したキャンパスとなっている。また、総合案内板等のサイン整備は平成21年に行っている。

### [課題]

鹿田地区は市街地のため周辺地域には樹木が少なく、平成23年に整備された外来診療棟の前庭の他に、キャンパス内には僅かな緑地が点在するのみである。今後は既存樹木と計画緑地ゾーンを適切に配置し、整備計画と整合させながら利用者にやすらぎをもたらす屋外環境とする必要がある。

### キャンパス屋外環境の状況



正門（赤門）・旧守衛所は登録有形文化財  
後ろは鹿田会館・講堂（旧生化学棟）（昭7）



正門（赤門）からのアプローチ道路に並ぶ樹木  
後ろは医学資料棟（旧栄養学棟）（昭8）と附属図書館分館



保健学科棟の北側一角に残る樹木



樹木の少ない構内道路の状況



整備された外来診療棟前の歩道【平成23年整備済み】



整備された外来診療棟の前庭【平成23年整備済み】

7) 基幹設備の現状

令和6年5月1日現在

1. エネルギー供給関係

(1) 電気設備

- ①受電電圧及び受電方式 66kV 2回線受電（常用一予備）
- ②受電変圧器容量 8,000kVA×2台 合計16,000kVA
- ③契約電力 9,072kW
- ④構内電気室数 29カ所（特高受変電所を除く）
- ⑤構内変圧器容量 （商用系）28,825kVA、（自家発系）9,560kVA
- ⑥自家発電設備
 

常用一非常用発電機	3φ 6kV 1,250kVA	ガスタービン発電機	2基
非常用発電機	3φ 6kV 1,250kVA	ディーゼルエンジン発電機	1基
	3φ 6kV 1,250kVA	ガスタービン発電機	1基

(2) 機械設備

1) 空調設備

病院部分

- ①空調方式 エネルギーセンター、機械棟から熱源供給の中央方式  
エアハンドリングユニット、ファンコイル  
水熱源ヒートポンプ式エアコン  
空冷パッケージ型空調機

- ②熱源関係機器
 

吸収式冷温水発生機	: 450RT 2基、300RT 2基
吸収式冷凍機	: 325RT 2基、170RT 1基
蓄熱槽	: 800t 1基
水冷式チリングユニット	: 100RT、80RT 各1基
ボイラー	: 2t×4台、1t×3台（小型貫流式）

病院以外部分

- ①空調方式
 

建物毎より中央方式又は個別方式
中央方式：小型ガス吸収式冷温水発生機、リングユニット、水熱源ヒートポンプ
個別方式：空冷パッケージ型空調機
ボイラー：2t×2台（小型貫流式）

2) 給水設備

- ①水源 市水
- ②給水方式 施設規模により、受水槽一高置水槽方式又は加圧ポンプ方式
- ③引き込み 100φ～200φ管により5カ所に引き込み  
各施設へは、最寄りの引き込み管より分岐

3) 排水設備

- ①生活排水 公共下水へ接続
- ②実験排水 公共下水へ接続
- ③雨水排水 公共下水へ接続

4) ガス設備

- ①ガス種別 都市ガス 13A
- ②引き込み 150φ～250φ管により5カ所に引き込み  
各施設へは、最寄りの引き込み管より分岐

## 2. 情報通信設備関係

(1) 電話設備	電子式デジタル交換機（最大回線容量 3,000回線 現在利用回線 約1,750回線）
(2) 情報設備	全学学内LAN（ギガビットネットワーク） 医療情報LAN（ギガビットネットワーク）

### 基幹設備の課題

#### 1. 電気設備 [課題]

建物の大型改修時等に合わせて、電気設備及び情報通信設備等の更新を実施している。

##### ◎受変電設備

現在、鹿田地区として電力会社から66kV（契約電力9,072kW）を埋設管路のケーブルにより常用-予備2回線で供給を受けており、特別高圧受変電設備も平成19年度設置であり特に問題は発生していない。

構内の変電・配電設備については、建物新営時のままのものが多く、老朽化が進むとともに新営時に比べ電源を必要とする機器等が増加し、変圧器の容量不足及び変電・配電設備の設置場所である電気室の狭隘化が生じている。

各建物の改修に合わせ、電気室内の変圧器をトップランナータイプへ更新し省エネ対策を行っている。また、更新に合わせ微量PCB入りの変圧器においては保管を行い、廃棄処分の準備を行っている。

##### ◎構内交換設備

鹿田地区に電子式デジタル交換機（最大回線容量：3,000回線）が設置されている。現在の利用回線は約1,750回線である。

##### ◎情報通信設備

全学学内LAN（ギガビットネットワーク）が整備されているが、日々急速に変化するDXに対応できる柔軟性を意識したインフラストラクチャーの計画と整備が課題となる。

##### ◎火災報知設備

鹿田地区において消防法に則り、火災報知設備が整備されている。エネルギーセンターにて中央監視を行っており、異常が発生した場合、迅速に対応ができる体制が整っている。今後、非常時における担当部署への緊急連絡システムの整備が課題となる。

#### 2. 機械設備 [課題]

建物の大型改修時には建物内の空調設備、給水設備及び排水設備等の更新を実施しているが、改修未実施の施設、建物及び周辺については老朽化が進み、不具合や故障が起こっている。

##### ◎給水設備

屋外給水配管について、平成25年度基幹整備において更新を行った。屋内給水配管については建物改修時に更新を行う予定である。

平成25年度防災機能強化として、病院内の受水槽・高置水槽について更新を行った。これに合わせ緊急遮断弁を整備し、大規模災害発生時において水の確保が可能となった。医学部内（管理棟、保健学科棟）においても引き続き受水槽災害対策の整備が必要である。

##### ◎排水設備

屋外排水設備について、歯学部棟・入院棟・総合診療棟及び医歯薬学融合型教育研究棟の整備に合わせ、基幹排水設備の整備を行った。今後、老朽化の進んだ屋外排水設備の整備を行う必要がある。

◎エレベーター設備

建物の改修に合わせてエレベーターの更新を行っている。また、平成25年度には防災機能強化として外来診療棟・歯学部校舎・入院棟内に設置されているエレベーターの耐震対策工事を実施した。これ以外の建物（保健学科棟、IDRI研究センター、外来診療棟、基礎医学講義実習棟）においても、新基準を満たしていないエレベーターについては、順次更新を行う必要がある。

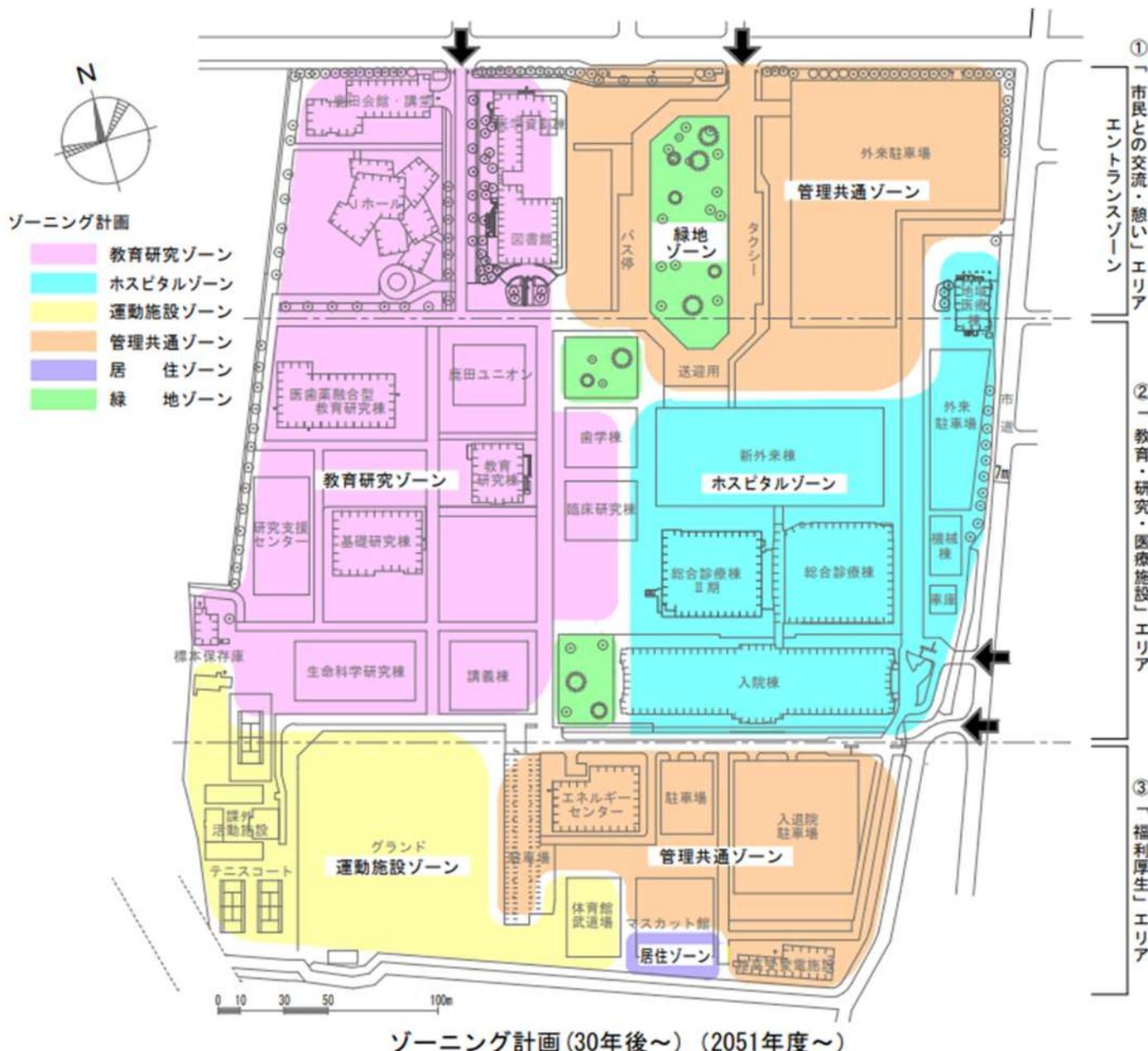
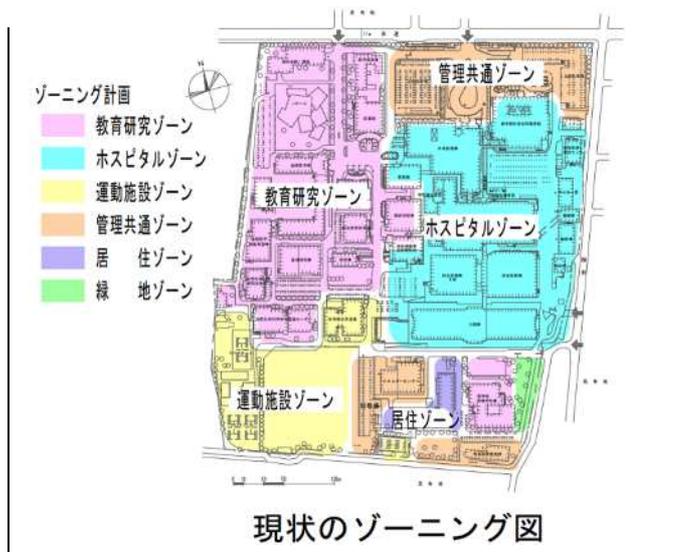
◎空調設備

建物の改修に合わせて空調設備の更新を行った。また、令和4年度歯学部棟改修工事にて機器更新を行うにあたり高効率機器を導入したことにより省エネを図っている。他の未改修建物においても省エネ性能の劣っている空調機器について順次更新を行う必要がある。

2-2-2 ゾーニング計画

鹿田地区将来構想（建物等）検討WGで答申された計画案を基に、ゾーニング計画をキャンパスを特徴づけている空間や建物など普遍的要素を考慮して、現状のゾーニングを基本としながら、キャンパスの特徴を活かして敷地を3つのエリアに設定する。

敷地の北側は外部に向けて顔となるよう、緑地広場のほかに、歴史的保存建物と最新の建物を有した「市民との交流・憩い」のエリアとして設定する。また中央部分は病院・研究・管理部門等を有した「教育・研究、医療施設」エリアとし、南側には運動・課外活動施設などを配置した「福利厚生」エリアとして設定する。

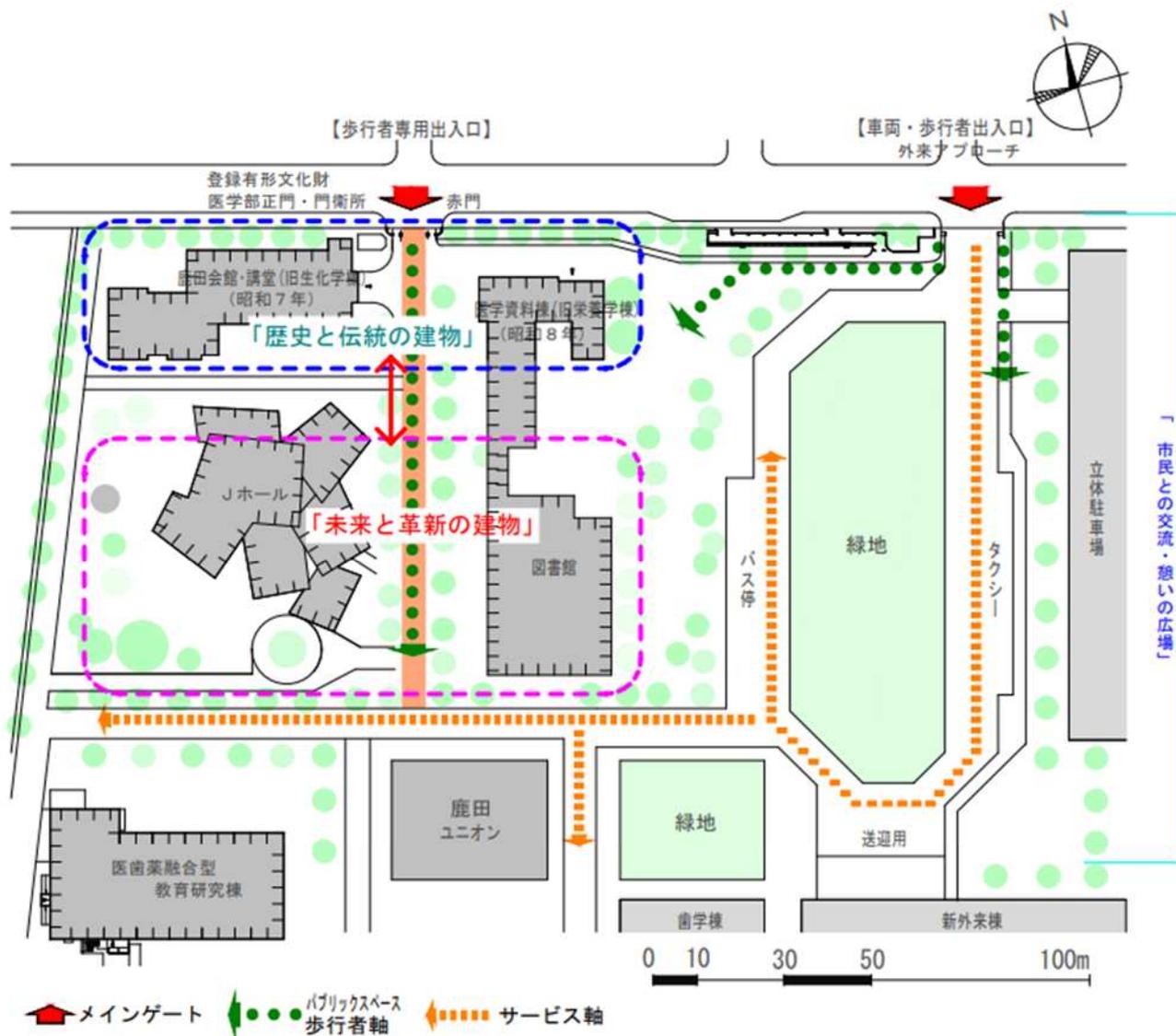




《市民との交流・憩いの広場》

「市民との交流・憩いの広場」には、歴史的な建物〔鹿田会館・講堂（旧生化学棟）・医学資料棟（旧栄養学棟）〕と、近代的な建物〔Jホール、附属図書館〕が混在し、新旧の対比を「歴史と伝統」の建物と「未来と革新」の建物が共鳴・調和する新たなキャンパス環境を創出していく。

また、外来診療棟北側の前庭は平成23年整備されているが、将来的には更に人々が気軽にに関わりあえる交流の場とし、新たなパブリックスペースとして整備する。



パブリックスペース将来計画(30年後～) (2051年度～)



新旧の建物が調和する交流空間



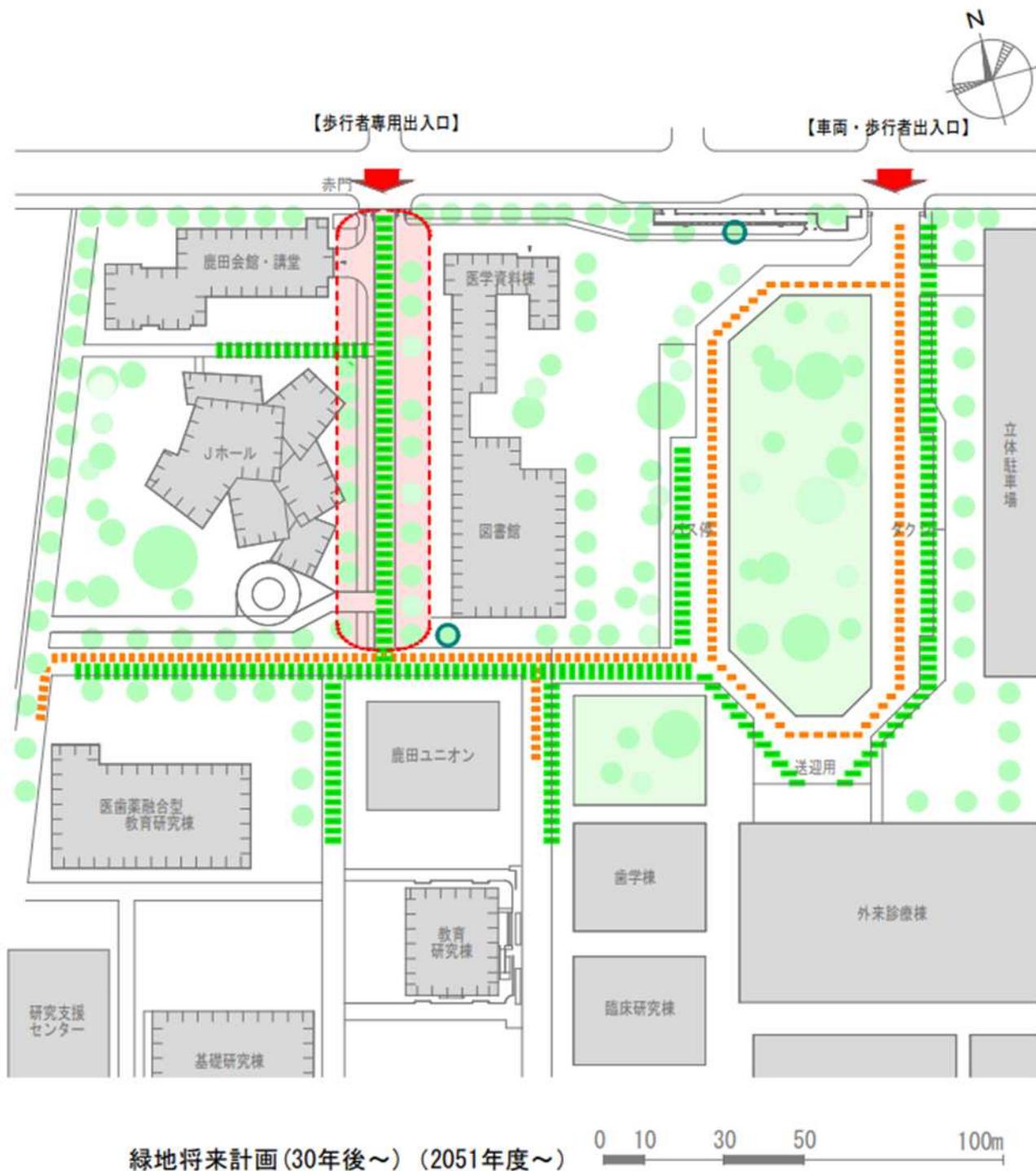
外来診療棟前庭 (現状)



《エントランスゾーン緑地計画》

「市民との交流、憩い」エリアとするエントランスゾーンはキャンパスの“顔”となる部分で、伝統的な建物と近代的な建物が混在した空間や、開放的な広さの緑地空間が、広く市民・外来者・学生・教職員の交流と憩いの場となる緑豊かな風格ある環境とする。

緑地帯は、外来診療棟前のロータリー以外は車を排除し、歩行者中心の安全で快適な屋外環境とするため、樹木は芝生を中心に見通しが良く・明るく・散策できる樹種と樹形を選んで植栽する。



緑地将来計画 (30年後～) (2051年度～)

モール・広場    
 ➡ メインゲート    
 ||||| 歩行者軸    
 - - - - - サービス軸

2-2-4 動線・交通計画

1) キャンパス内の動線計画

(1) アプローチ

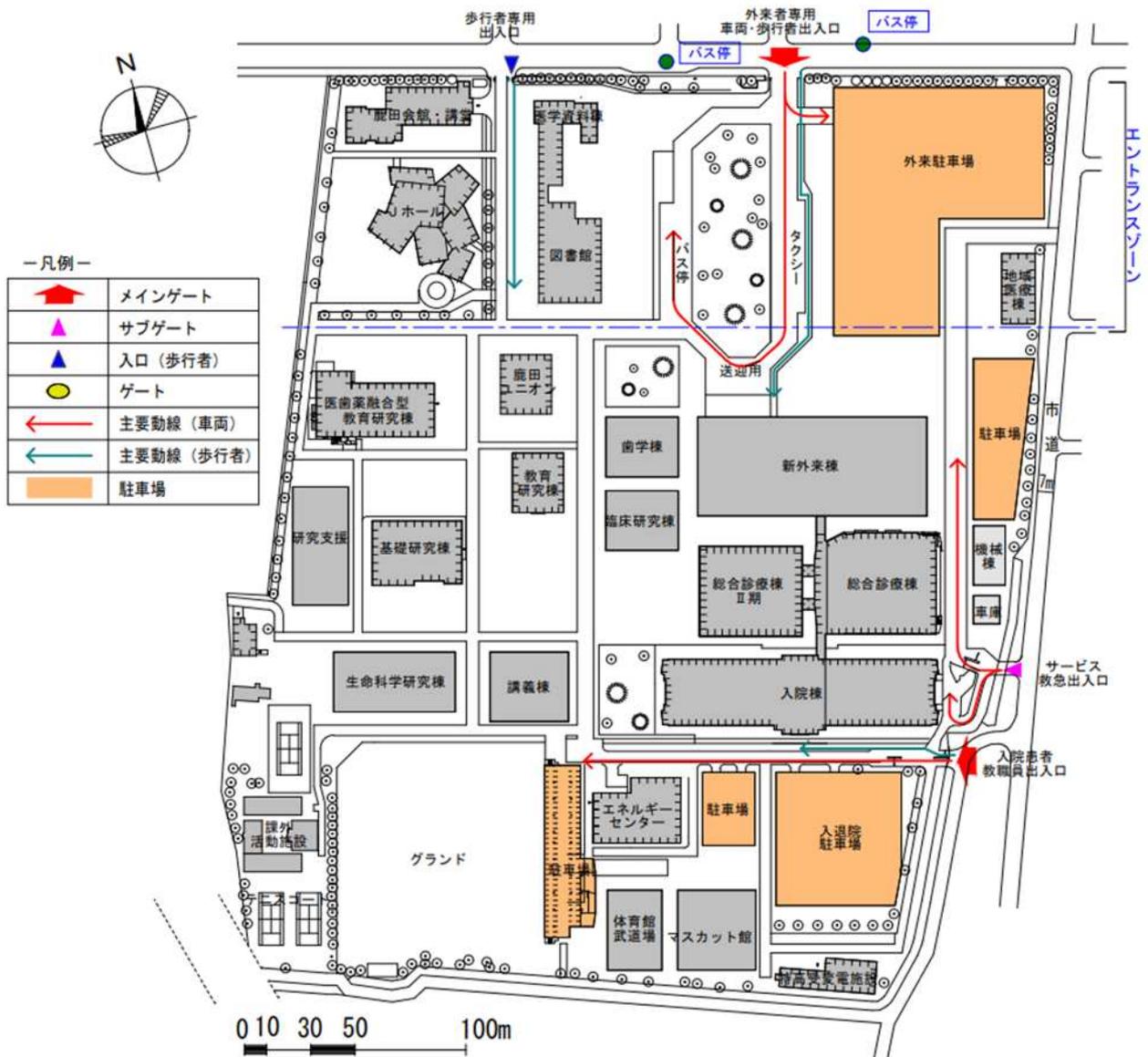
① エントランスとなる敷地北側は、外来者専用の出入口と歩行者専用の出入口に動線を区分する。敷地の東側は現在の動線のままとし、入院患者・教職員出入口と、サービス・救急用の専用出入口とする。

(2) 歩行者動線

① 歩行者専用出入口からエントランスゾーンへは、快適で安全な歩行者動線を確保する。  
 ② 一層のバリアフリー化を図るとともに、外来診療棟前のバス停に往来しやすい動線を確保する。

(3) ゲート

① 周辺道路に負荷（渋滞、事故）を与えないよう配慮する。

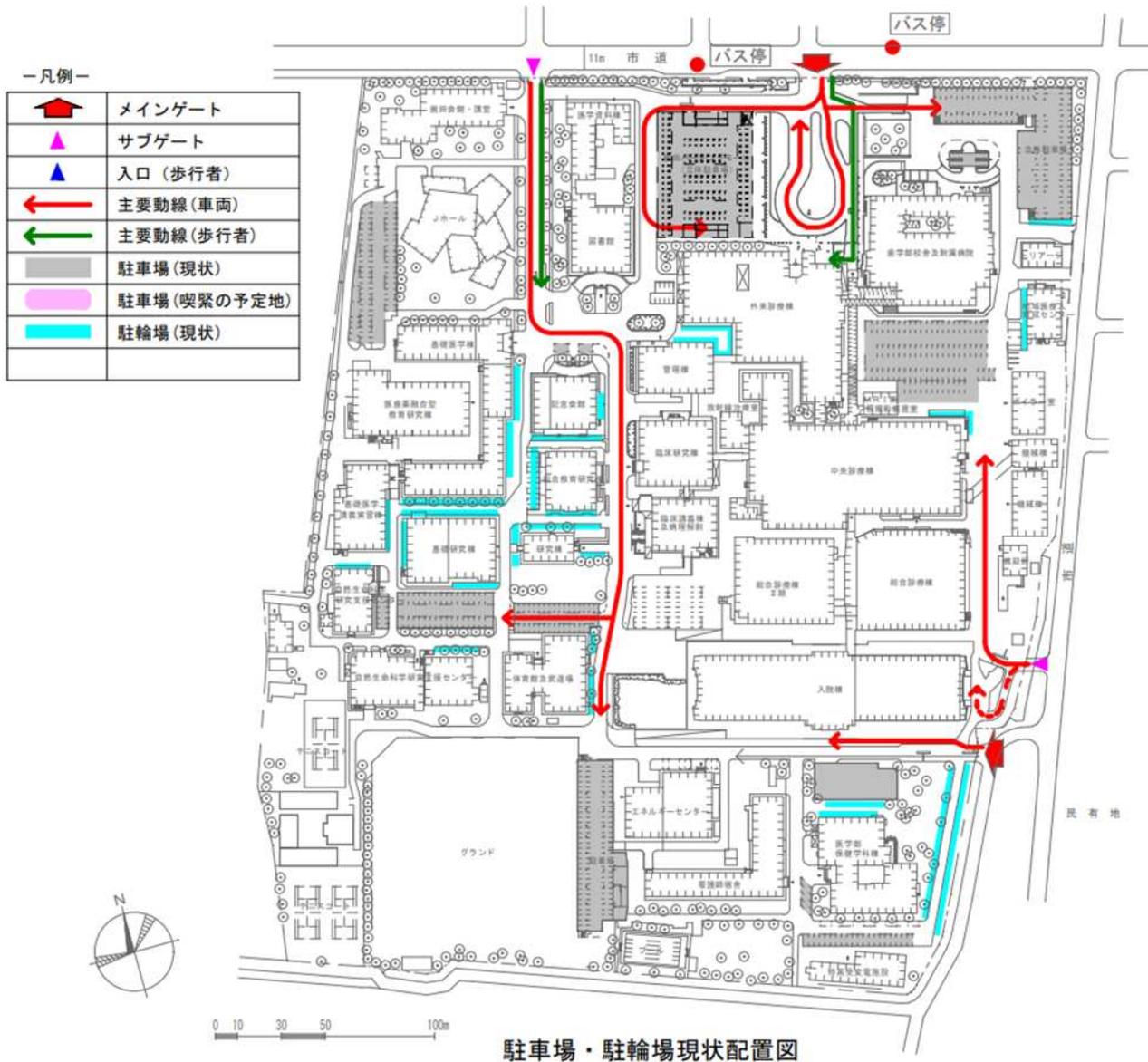


2) 駐車場・駐輪場計画

鹿田地区は教職員約2,700名、大学院生約1000名、学部学生が約1,700名に加えて、1日当たりの病院外来者約2,600名が行き交う最も狭隘なキャンパスである。

公共交通機関に恵まれているものの、自動車の入構台数が近年急増し、キャンパス内には教職員用に852台、患者関係者用に680台の駐車スペースがあるが、1日当たりの使用実績は収容台数の2倍にもなっている。そのため、大容量の駐車スペースを確保する必要があり、外来診療棟前の立体駐車場を改築（仮称：アメニティモール）し、更なる駐車台数を確保した。

また移動手段として自転車を利用している学生も多く、建物の出入り口周辺に集中する自転車で人の通行やサービス車両等の妨げとなっているため、駐輪場は建物正面から見えない建物周辺部に分散して配置し、キャンパス景観の向上を目指す。



■ 駐車場現状台数

地区	駐車場一覧表		
	(教職員)	(外来者)	合計
鹿田	852台	680台	1,532台

※教職員用には大学町駐車場の台数を含む。

2-2-5 建物整備計画

1) 安全性・機能性に問題のある既存施設の改善

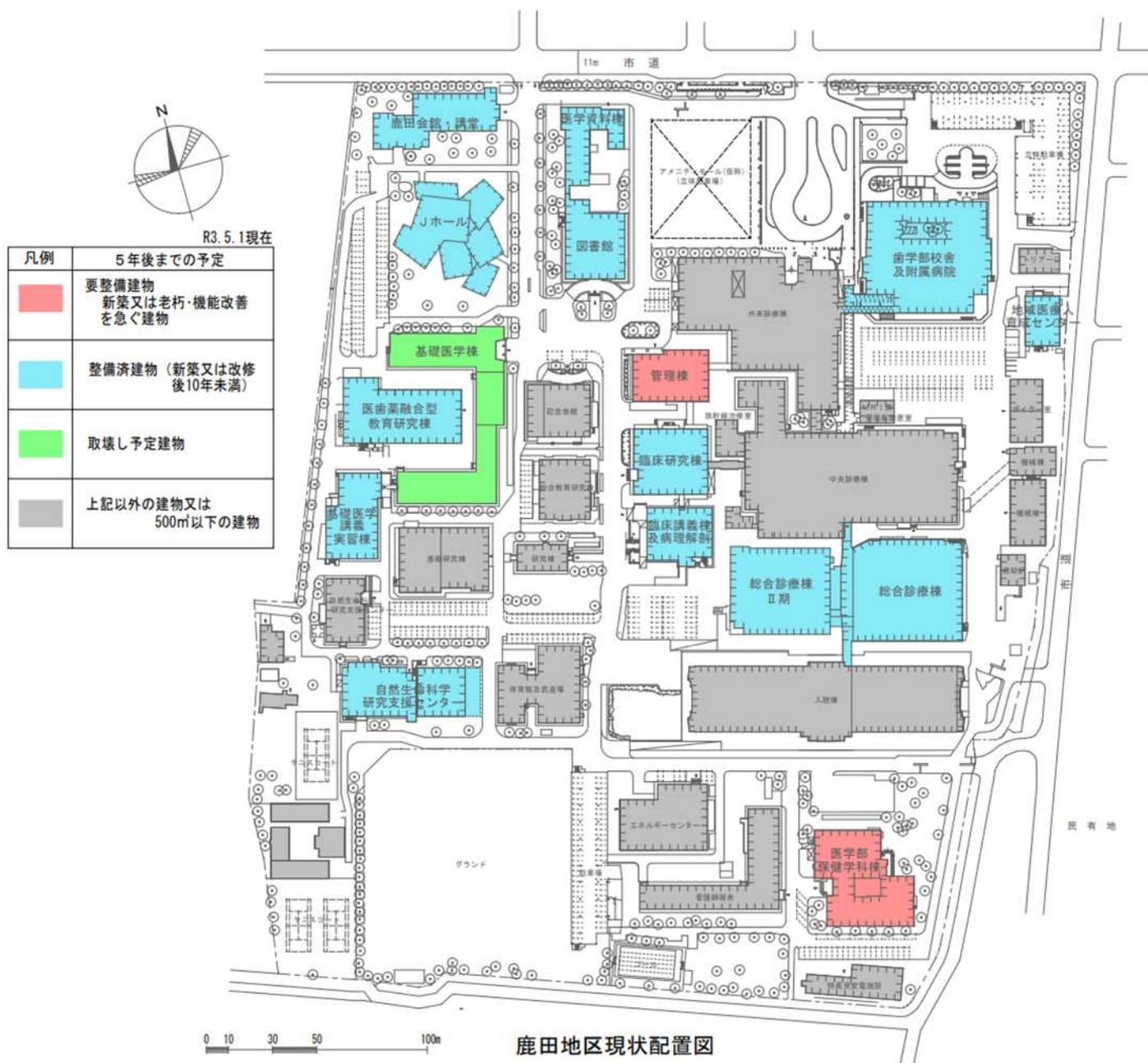
既存施設のうち、特に、地震等により倒壊等の危険性の高い（耐震性に問題のある）施設について早急に改善を図るとともに、経年劣化により安全性・機能性に著しく問題のある老朽施設や、劣化の著しい基幹設備についても安全の確保だけでなく、教育研究や医療環境としての機能を十分に備えた計画的な整備を推進する。

2) 高度化・多様化する教育研究、医療環境の実施に不可欠な新たなスペースの確保

教育研究活動及び、医療の多様化・高度化に対応したスペースについては、これまでもその整備を図ってきたところであるが、依然として不足していることを踏まえ、特色ある教育研究活動と医療を活性化するためのスペース不足が特に著しい施設について、その改善を図る。

3) 建物外観・配置計画

新築時や大型改修時の建物外観は、周辺景観や用途によって調和を持たせた統一感のあるデザインとし、建物群として色彩や形状など美しいキャンパスに配慮した景観を形成する。



4) 建物配置将来計画

本地区は狭隘さが顕著であることや病院機能として外来、中央診療部門、入院棟が連続して機能することが不可欠であることから具体的な長期計画を策定することとし、医療や教育研究活動、管理運営の円滑な実施と継続を図るため機能的で使いやすい合理的な移行計画を立案する。

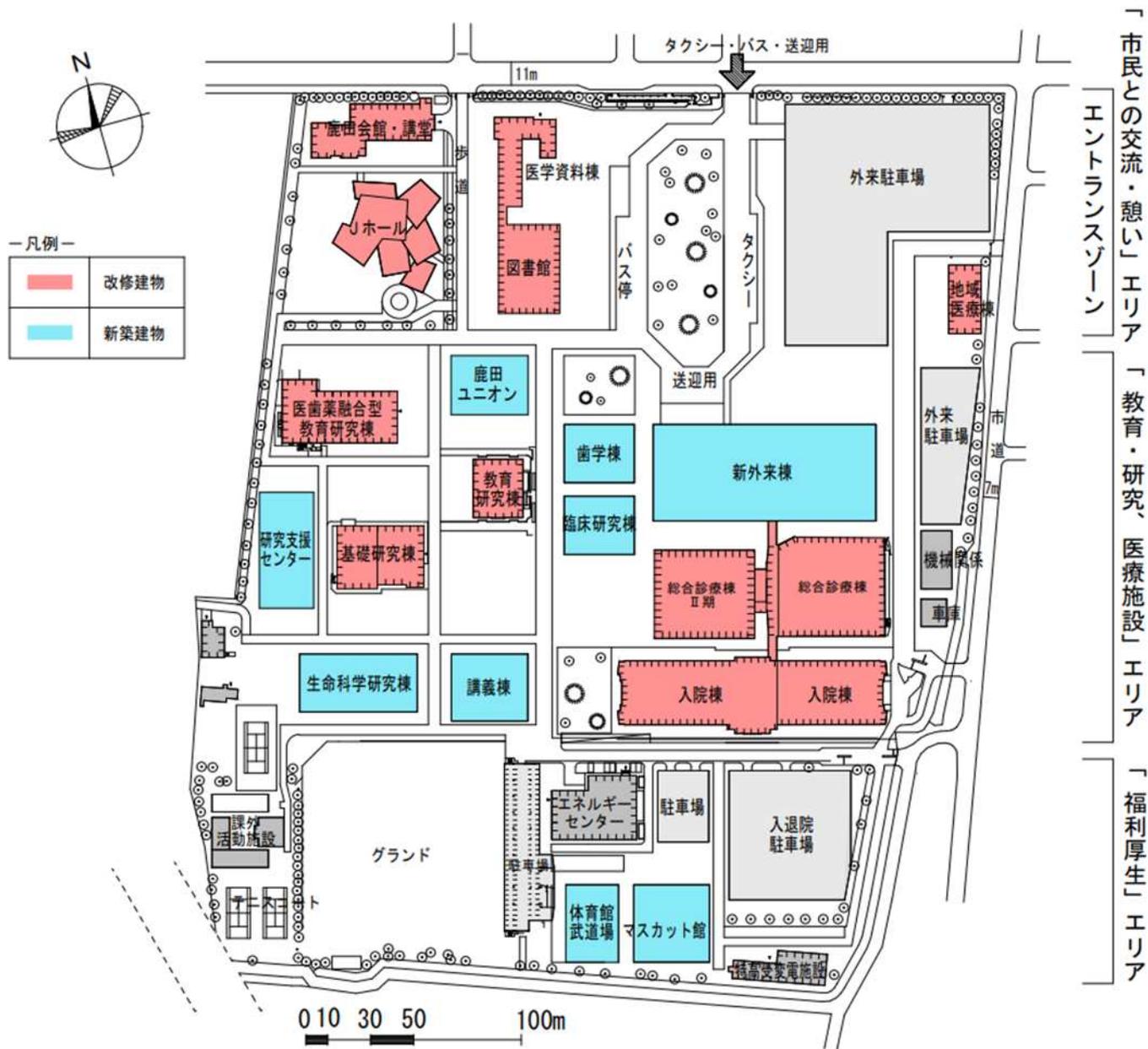
敷地北側の「市民との交流・憩い」エリアには、既存の鹿田会館・講堂（旧生化学棟）、医学資料棟（旧栄養学棟）の歴史的建物と、大学と地域を繋ぐ交流の場であるJホール、カフェ等を備えた附属図書館鹿田分館を配置する。

敷地中央の「教育・研究、医療施設」エリアには、研究棟、講義棟、外来診療棟、総合診療棟、入院棟等を配置する。

敷地南側の「福利厚生」エリアには、体育館、武道場、保育所や留学生のための国際交流拠点、患者家族、研修医、看護師等が入居するマスカット館（仮称）等を配置する。

又、敷地南西角に岡山市の都市計画道路の整備計画があり、完成時期は未定だが避難用の出入口等を設けることができる。次期再開発計画では、団地への主要アプローチとなることも踏まえて検討することが可能となる。

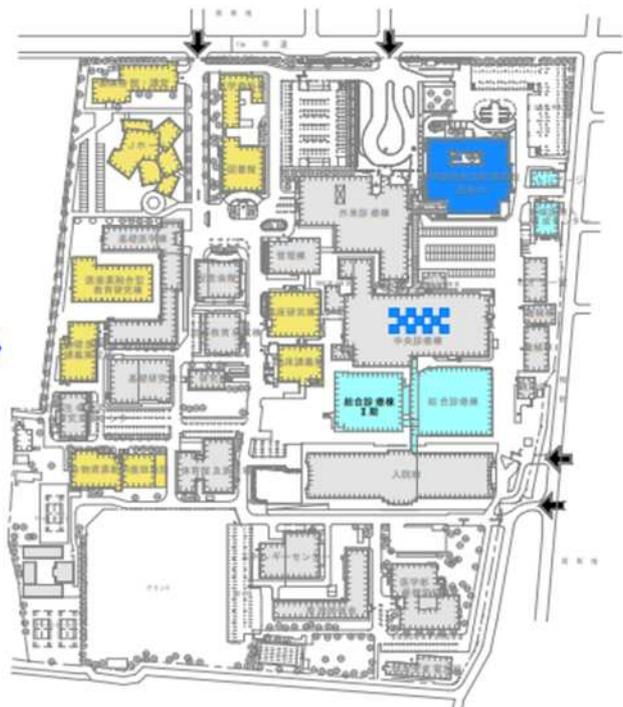
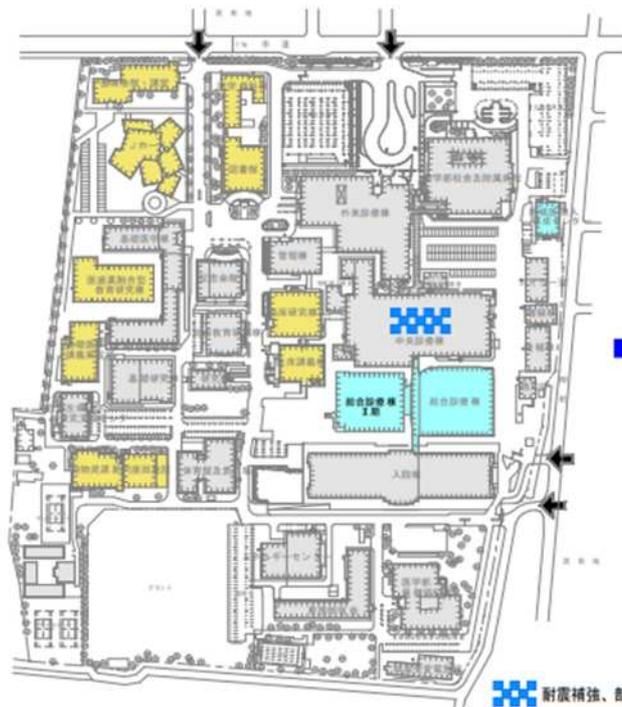
建物配置の最終形までは、既存施設を有効利用した改修整備と、集約・高層化を図った改築整備と合わせながら移行計画を策定し進めていくこととする。



建物配置将来計画(30年後～)(2051年度～)

H28 (2016) 年度

R3 (2021) 年度

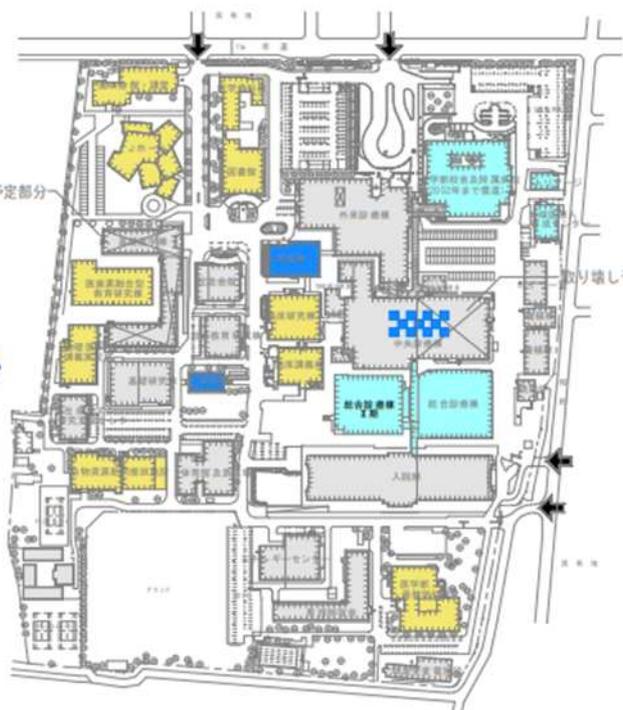
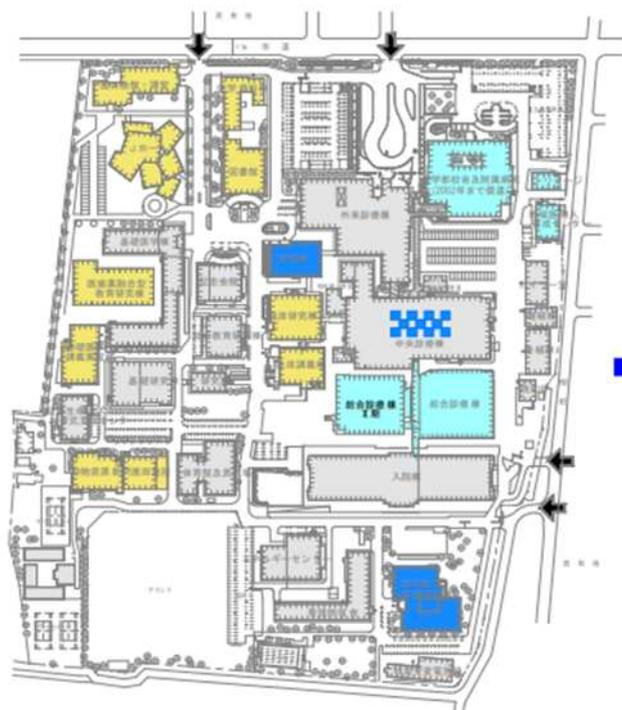


- ・総合診療棟Ⅱ期新営完了
- ・中央診療棟改修完了

- ・鹿田パーキングモール新営完了
- ・歯学部校舎及び附属病院改修
- ・多用途型トリアージスペース新営完了

～5年後 (2026年度)

～10年後 (2031年度)



- ・歯学部校舎及び附属病院改修完了
- ・保健学科改修
- ・管理棟改修

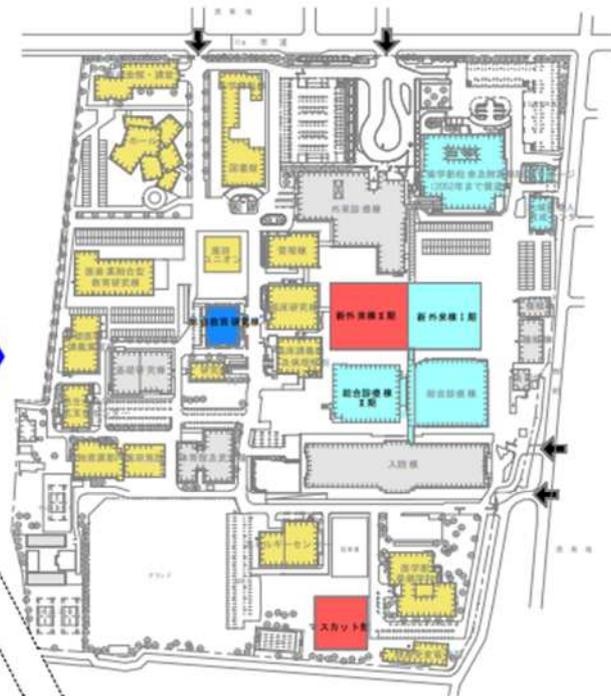
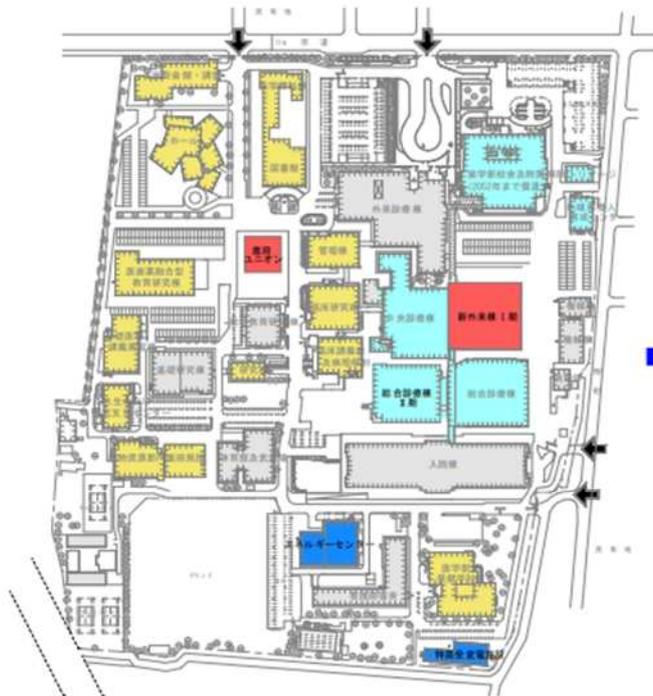
- ・管理棟改修
- ・研究棟 (IBRI棟) 改修
- ・基礎医学棟取り壊し
- ・旧中央診療棟東側取り壊し

0 10 20 30 40m

■ 新営建物 ■ 改修建物 ■ 校舎等整備済建物 ■ 病院整備済建物

～15年後（2036年度）

～20年後（2041年度）

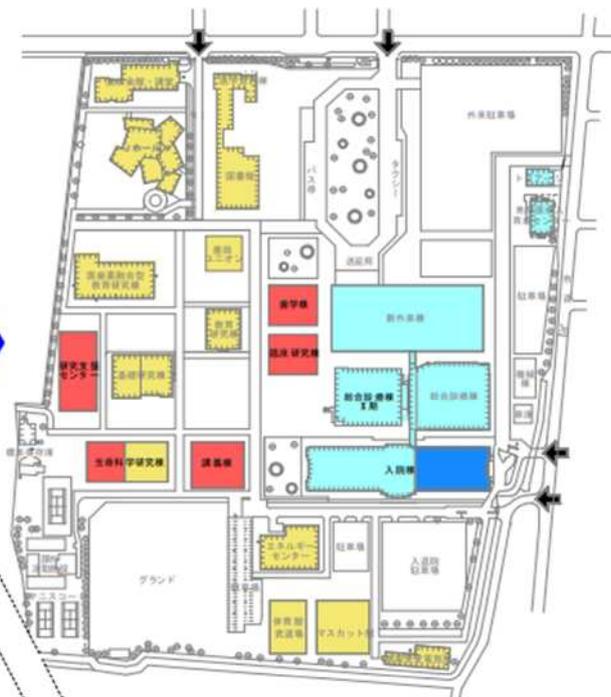
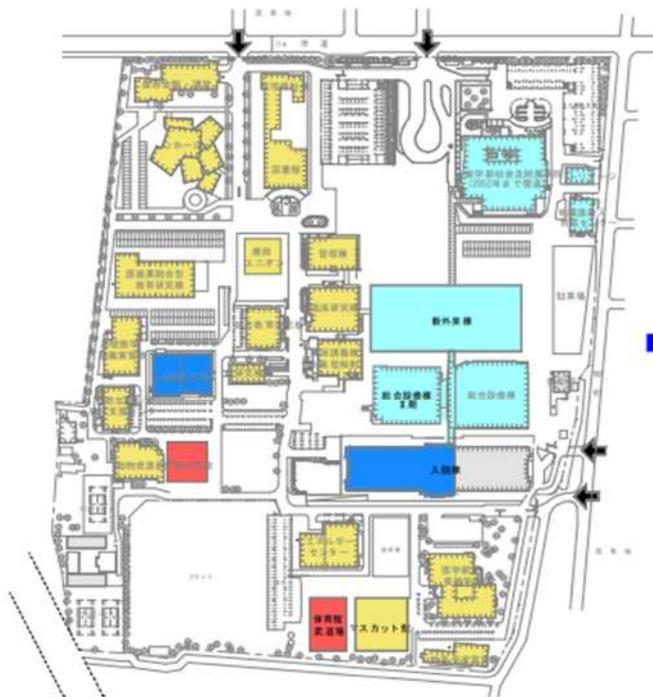


- ・新外来診療棟1期新営
- ・鹿田ユニオン新営
- ・エネルギーセンター改修
- ・特高受変電所改修

- ・旧中央診療棟西側取り壊し
- ・新外来診療棟Ⅱ期新営
- ・総合教育研究棟改修
- ・マスカット館新営

～25年後（2046年度）

～30年後（2051年度）



- ・動物実験施設一部新営
- ・入院棟西改修
- ・基礎研究棟改修
- ・体育館新営

- ・入院棟東改修
- ・歯学棟新営
- ・臨床研究棟新営
- ・生命科学棟新営(保健学科・動物実験施設等)
- ・研究支援センター新営
- ・講義棟新営

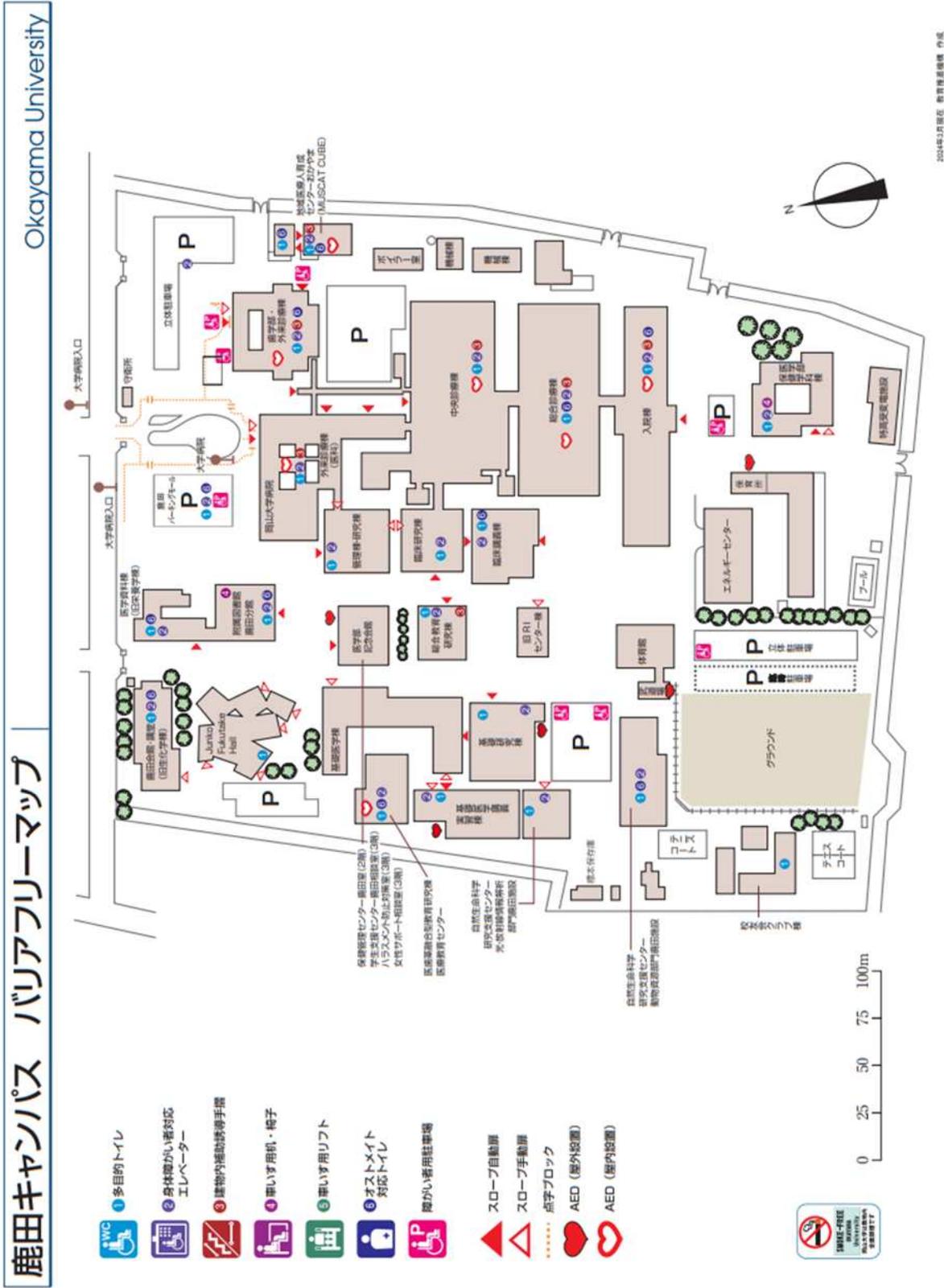
0 50 100

■ 新営建物 ■ 改修建物 ■ 校舎等整備済建物 ■ 病院整備済建物

2-2-6 ユニバーサルデザイン

病院を抱える鹿田地区は、患者や外来者、学生・教職員だけではなく、災害発生時には広域救急拠点としても、最も多くの人を訪れる身近な公共施設である。

また高齢者や身体障害者等を含む多様な人々に利用されるほか、留学生や外国人研究者の増加も予想されるため、多様な利用者に対し安心・安全な移動空間の整備、わかりやすいサイン、適切な屋外照明の設置など快適に利用できる、「ユニバーサルデザイン」の考え方を取り入れたキャンパスづくりを心がける。



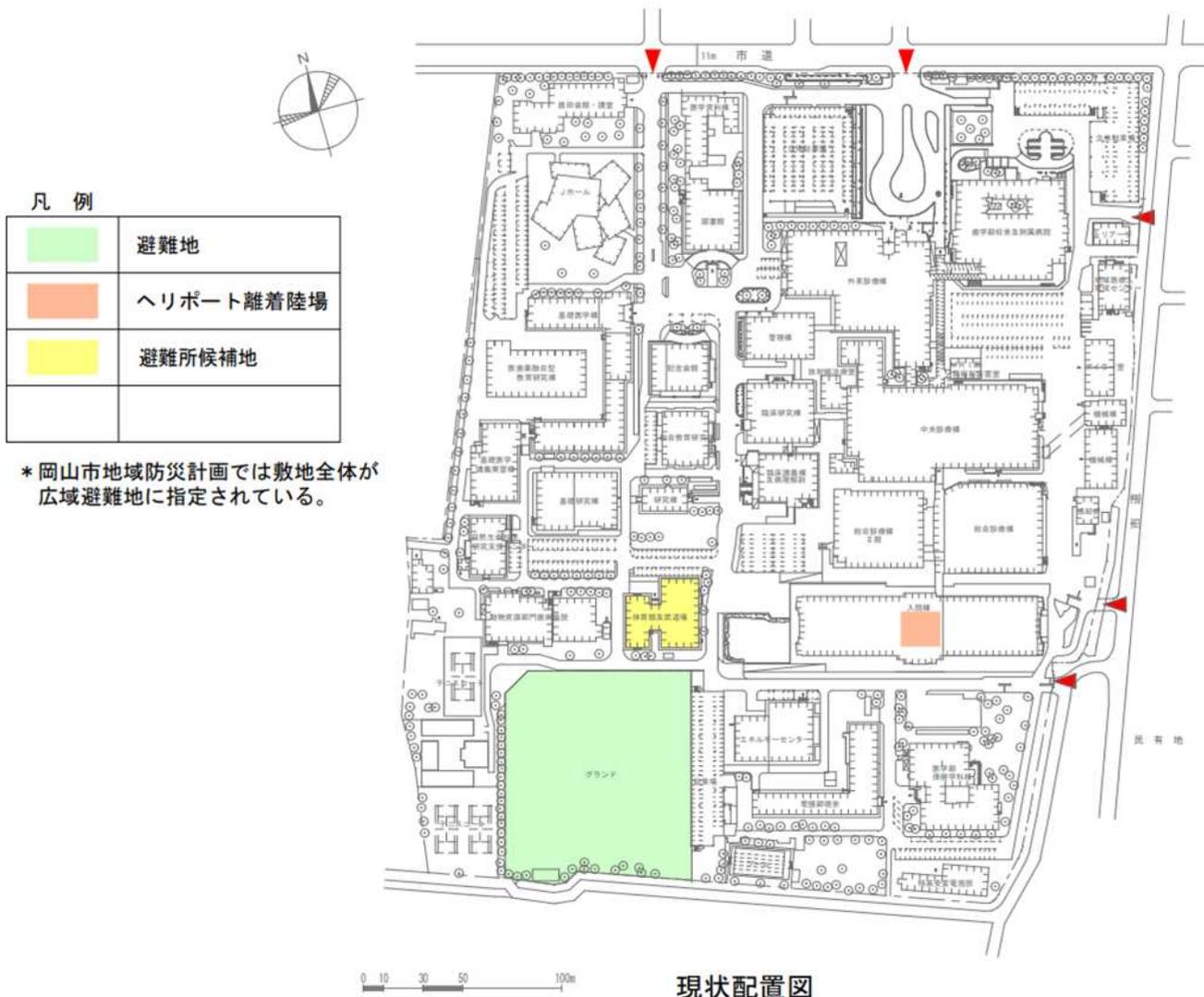
2024年3月現在 動物看護機構 作成

《災害時の対応》

病院を有する鹿田地区はJR岡山駅にも近く、災害発生時には、学生、教職員のみならず地域住民、負傷者などの生命を守る地域の防災拠点としての役割を果たす必要がある。

そのため岡山市の地域防災計画にも広域避難場所に指定されており、大規模災害時において一次避難地や各種避難所にまでも危険が達すると予想される場合において、多くの市民等の避難地ともなる。

したがって、病院という特性も踏まえて、緊急の場合の医療環境、ライフライン、情報インフラの耐震対策や早期復旧対策についても配慮する必要があると共に、地域の防災拠点としての形成に当たっては、地方公共団体などとの相互連携・機能補完のためのネットワークの構築、避難・物資搬入等を円滑に行えるアクセス道路の対策等も必要となる。



\* 岡山市地域防災計画では敷地全体が広域避難地に指定されている。

岡山市地域防災計画による広域避難場所(岡山大学鹿田キャンパス)

R5.現在

番号	避難場所名	位置	計画避難地面積 (ha)	計画有効避難面積 (ha)	計画避難者数 (千人) (H22 国調)	一人当たり有効避難面積 (㎡/人)
2	岡山大学医学部 附属病院	北区鹿田町	14.0	10.4	63.1	1.7

## 2-2-7 インフラストラクチャー計画

### 鹿田地区インフラストラクチャー計画

基幹設備である電気設備、空調設備、給排水設備、情報インフラなどは、現状では施設の新営時や改修時に部分的に見直し、改修や更新を行っている。鹿田地区は、病院があるキャンパスであるため、第一に安定的に安全で安心して医療ができるエネルギー供給を計画するとともに、キャンパス全体において地球環境の負荷低減にも配慮した適切な基幹設備を計画する。

病院部分は、平成28年度に完成した総合診療棟Ⅱ期部分を中心とし、平成29年度に「電気の確保」として非常用発電機(1,250kVA)を増設するなど病院の防災機能強化事業を実施した。また、特定機能病院として高度な先進医療を提供できる病院として電気設備、空調設備等を含めインフラの再構築を行い、既存機械棟等の統廃合も視野に入れて計画する。

学部等部分は、平成26年度完了した医歯薬融合型教育研究棟新営、動物実験施設改修、平成27年度完了した臨床講義等改修等を中心とし、既存施設の老朽化した基幹設備の再構築を行い、地域から国際社会まで貢献できる優秀な医療人材の教育、高度で独創的な研究・教育が可能なキャンパス全体の基幹設備を計画する。

基幹設備計画としては、病院部分及び学部等部分について一体感をもった計画を行い、特に病院部分については大規模災害発生時にも、病院機能が維持できる計画とする。

#### 【有効利用や最適化】

現在病院部分は、エネルギー供給が機械棟とエネルギーセンターの2カ所からと分散している。

今後の病院整備に合わせエネルギー供給を一元化し、エネルギーの利用の効率化を図る。現在鹿田地区に導入されている中央監視システムによるスケジュール運転並びにBEMSによるエネルギーの流れを監視し、消費電力の削減及び環境負荷低減を推進する。

将来の医療の進化に伴う病院改修を想定し、スペースの確保及び配置計画を行う。

#### 【安心・安全・安定化】

大規模災害発生時に備え、『水の確保』『電気の確保』『通信の確保』『食料・医薬品の確保』を充実させる。

『水の確保』について、平成25年度工事にて受水槽の更新を行い、耐震性の向上及び緊急遮断弁を設けることにより安定的な水の供給が可能となった。

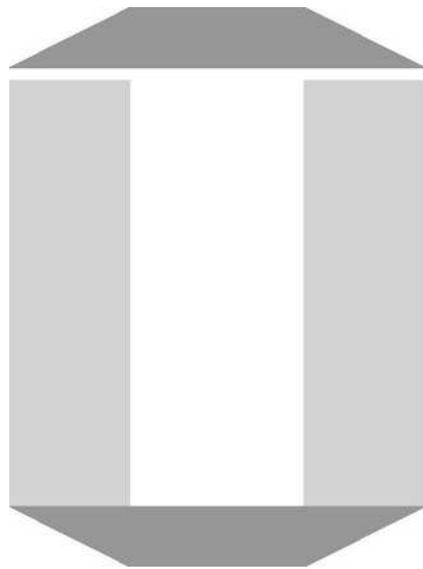
『電気の確保』について、中国電力からの電源供給停止を想定してガスエンジン発電機2基、ディーゼルエンジン発電機1基、ガスタービン発電機1基計5,000kVAの発電の能力を備えている。

建物改修に合わせ、老朽化した変電・配電設備の更新を行い、高効率機器の導入、変圧器容量の見直し等を行い、電源供給の安全・安心・安定化を図る。

『通信の確保』について、災害発生時には一般電話及び携帯電話ともにつながりにくい状況が長時間続くことが想定される。防災協力機関と共同で、衛星携帯電話等を整備し安定的な通信手段を確保する。

『食料・医薬品の確保』について、大規模災害に備え備蓄食糧・医薬品の確保が必要不可欠となる。新営・改修工事の際、備蓄倉庫の配置計画を行い、スペースをなるべく多く確保し食糧・医薬品を蓄えておく。

また、品物を搬送する手段の確保として、エレベーター設備について、新基準の耐震化を図り、災害直後からの人・資材の運搬を可能とし、緊急搬送患者・入院患者に対して安全・安心な医療体制を提供する。



OKAYAMA UNIVERSITY

東山地区編

## 2-3 東山地区

### 2-3-1 東山地区の現状と課題

東山地区 航空写真



#### 1) 交通

##### [現状]

岡山市中区に位置する東山地区は、敷地西側は市道（幅員8.4m）に面しており、北側には附属幼稚園との間を市道（幅員6.0m）が通っている。南側には住宅地との間に市道（幅員5.7m）が通っており、東側にも市道（幅員3.0m）がある。公共交通機関としてはJR岡山駅を基点として、民営バス路線、市内路面電車があり、当地区付近にバスの停留所がある。JR岡山駅からは、タクシーで約15分である。

##### [課題]

東山地区は比較的公共交通に恵まれている。しかし、住宅地区内にあるため、特に附属幼稚園については位置がわかりづらいとの意見が出ている。今後は初めて訪れる学外者にとってもわかりやすく、アクセスしやすいよう、サイン等の環境整備を行っていくことが課題である。

また、幼児・児童・生徒の登下校時の事故を未然に防ぐため自動車・歩行者・自転車の交通空間の分離・明示も課題である。

2) 周辺の土地利用及び法的規制

[現状]

東山地区は、大学本部のある津島地区から南南東5.0km、JR岡山駅から東南東3.2kmに位置している。東は東山に接し、北西には私立女子中学・高校、南西には県立岡山東商業高校がある。北は住宅地に接し、南は住宅地を挟んで山に面しており、南方1.8kmに附属特別支援学校（平井地区）がある。

西側を通る県道45号線（岡山玉野線）より300m、北側の県道28号線（岡山牛窓線）より400m離れた閑静な住宅地域にあり、良好な環境に恵まれている。

【法的指定等】

令和6年5月1日現在

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 耐力度調査上の地域区分</li> <li>    地震地域係数   二種</li> <li>    地盤種別       二種</li> <li>    積雪寒冷地域   その他</li> <li>    海岸からの距離 8km以内</li> <li>・ 日影規制         4時間、2.5時間</li> <li>・ 都市計画区域内 市街化区域</li> <li>・ 用途地域         第一種中高層住居専用地域</li> <li>・ 公害防止地域   騒音規制地域</li> <li>・ 埋蔵文化財包蔵地 なし</li> </ul>	<p>土地及び建物面積</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土地面積                               53,210㎡</li> <li>・ 建物面積   建築面積               9,511㎡</li> <li>  延べ面積               15,624㎡</li> </ul> <p>建ぺい率、容積率</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建ぺい率                           17.9%       (60%)</li> <li>・ 容積率                               29.4%       (200%)</li> </ul>
--	---

[課題]

住宅地域にあるため、騒音・粉塵などの周辺地区・近隣住民への特段の配慮が必要となる。

3) 組織と施設

[現状]

東山地区には、附属幼稚園・小学校・中学校、教師教育開発センター、職員宿舎を配している。

[課題]

大学の将来構想や地域のニーズ、附属幼稚園・小学校・中学校間の交流など、多様な要素を踏まえて附属学校のあり方を検討し、計画的な整備を行う必要がある。

また、多様な利用者を想定し段差解消等、更なるバリアフリー化が必要である。

4) 土地・建物及び所在地

東山地区は岡山市旧市街地東端部に位置しており、その総敷地面積は53,210㎡で大学全体の2.6%に該当する。建物面積においては15,624㎡で大学全体の3.0%を占めている。

区 分	土地(m <sup>2</sup> )	建 物		所 在 地
		建面積(m <sup>2</sup> )	延面積(m <sup>2</sup> )	
■東山地区	53,210			
教師教育開発センター・ 教育学部附属幼稚園・小・中学校		9,511	15,624	岡山市中区東山二丁目 13-80
東山地区 計	53,210	9,511	15,624	

5) キャンパスの屋外環境

[現状]

東山地区は敷地西側に附属小学校・中学校校舎を有し、東側に運動場を有している。なお、運動場は附属小学校・中学校で分割して使用している状況である。また附属小学校・中学校が配置されている敷地から市道を挟み附属幼稚園・教師教育開発センター・斜面緑地がそれぞれ配置されている。

[課題]

運動場は東面からの雨水の流入もあり水はげが悪い。客土、排水設備の取設など排水性の向上を計画する必要がある。また、既存の排水路が運動場の北側を横断しており、グレーチングが露出しているため危険な状況であることや、雨により地域の側溝に土が流出していることが課題となっている。

敷地東側の斜面緑地エリアは、植樹等により屋外学習スペースとして整備・保全計画を立案すると同時に、岡山市防災情報マップにより土砂災害警戒区域（急傾斜）に指定されているため、安全性に十分配慮した計画を立案する必要がある。

園舎・校舎や周辺住宅等への騒音、ほこり等の影響を可能な限り軽減し、また、住宅等との間で相互のプライバシー等に支障を生じる事のない配置を計画する。



小・中学校運動場の一部に設置されたグレーチング（現状）



東側斜面緑地エリア（現状）

6) 基幹設備の現状

令和6年5月1日現在

1. エネルギー供給関係	
(1) 電気設備	
①受電電圧及び受電方式	6.6kV 1回線受電、低圧受電(附属幼稚園・教師教育開発センター 東山ブランチ)
②契約電力	420kW、13kW・34kW(附幼)、15kW・13kW(東山ブランチ)
③構内電気室数	2カ所
④構内変圧器容量	700kVA
(2) 機械設備	
1) 空調設備	
①空調方式	個別方式 電気式又はガス式空冷パッケージ型空調機
2) 給水設備	
①水源	市水
②給水方式	施設規模により、受水槽-高架水槽方式、加圧給水方式、 又は水道直結方式
③引き込み	50φ~100φ管により6カ所に引き込み 各施設へは、最寄りの引き込み管より分岐
(3) 排水設備	
①生活排水	公共下水へ接続
②雨水排水	公共下水へ接続
(4) ガス設備	
①ガス種別	都市ガス 13A
②引き込み	施設規模により、40φ~100φ管により5箇所引き込み
2. 情報通信設備関係	
(1) 電話設備	ビジネスホン (最大回線容量 30回線 現在利用回線 30回線)
(2) 情報設備	全学学内LAN (ギガビットネットワーク)

## 1. 電気設備 [課題]

### ◎受変電設備

現在、東山地区として電力会社から6.6kV(契約電力420kW)を埋設管路のケーブルにより1回線で供給を受けており、特に問題は発生していない。

各建物の改修に合わせ、電気室内の変圧器をトッランナータイプへの更新を行い、省エネ対策を行っている。

### ◎構内交換設備

東山地区にビジネスホン(最大回線容量:30回線)が設置されている。現在の利用回線は30回線である。

東山地区は学生を含めても約1,400名で、近年人員の大幅な増減はないが、今後、組織改編や建物増築などにより大幅な人員の増加があった場合は、回線容量及び実装数の増加が必要となる。

### ◎情報通信設備

全学学内LAN(ギガビットネットワーク)が整備されている。近年のIT技術の進歩及び変化が顕著であるが、柔軟性を意識したインフラストラクチャーの計画と整備が課題となる。

### ◎火災報知設備

東山地区において消防法に則り、火災報知設備が整備されている。今後、非常時における緊急連絡システムの整備が課題となる。

### ◎監視カメラ設備

東山地区構内の防犯対策及び事故防止などを目的とし、構内の安全管理上、監視カメラの整備を行っている。

## 2. 機械設備 [課題]

### ◎給水・排水設備

屋外配管については、建物新営時から特に配管の更新が行われていない。今後、老朽化した基幹配管の更新・耐震化が課題となる。

### ◎空調設備

空調設備については、一部設置されていない建物もあり、整備を行う必要がある。その他は、平成20年前後に空調機の更新が完了している。今後は老朽化に対応するため、更新計画を立案していくことが課題となる。

### ◎消火設備

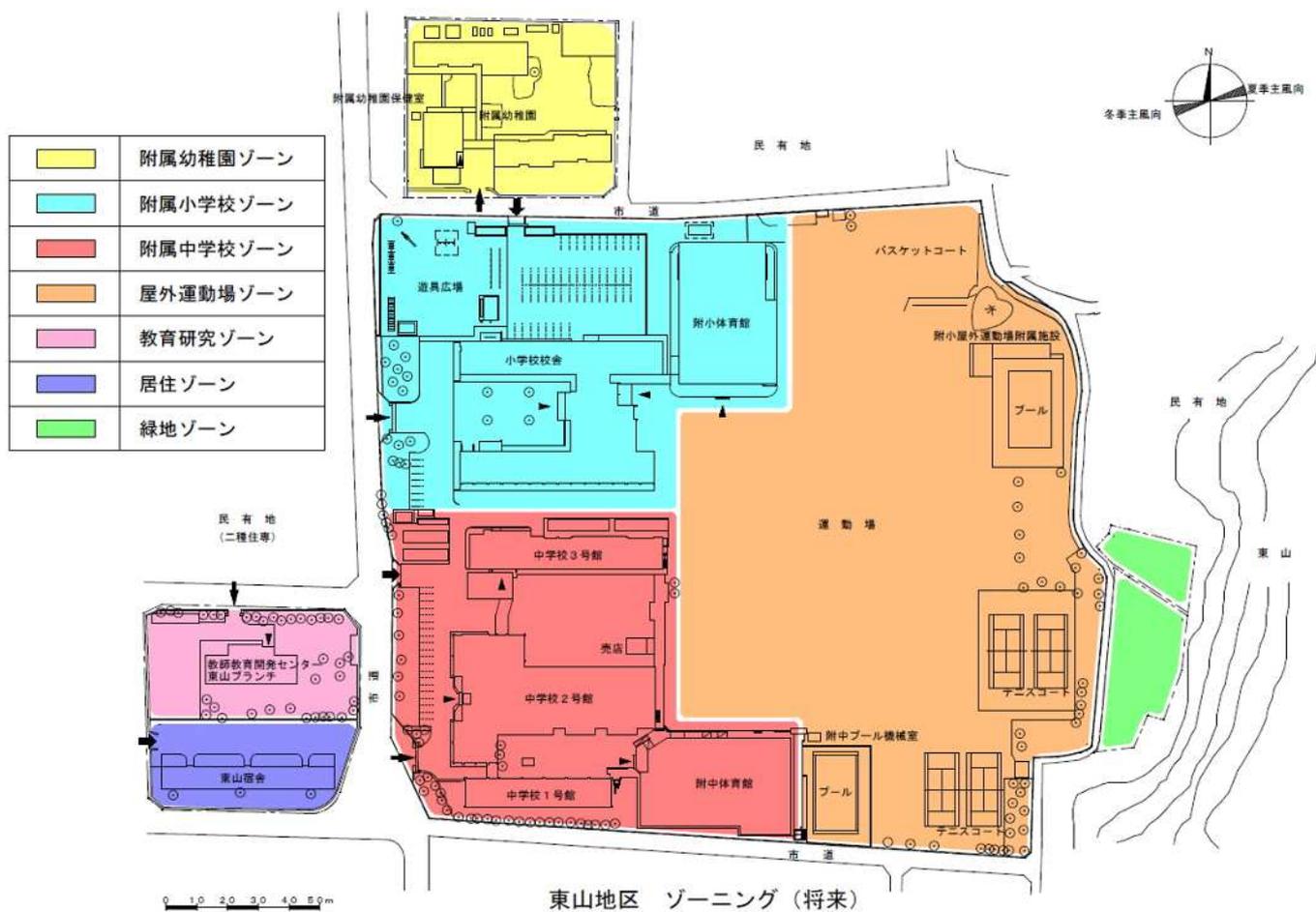
屋内消火栓、屋外消火栓設備については、建物整備計画に併せて更新を行う必要がある。

### ◎ガス設備

屋外配管については、建物新営時から特に配管の更新が行われていない。今後、老朽化した基幹配管の更新・耐震化が課題となる。

2-3-2 ゾーニング計画

各学校園等の特徴を考慮して、現状のゾーニングを継承し、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、屋外運動場、教育研究、居住、緑地の各ゾーンを設定する。



2-3-3 屋外環境整備計画

1) 動線・交通計画

(1) キャンパス空間に相応しい道路計画

- ①安全・安心に利用できる環境、バリアのない移動を実現する。
- ②夜間の安全な通行と防犯対策のため、外灯の整備を行う。
- ③自動車通行道路と幼児・児童・生徒用活動エリアの分離を推進する。
- ④敷地内や建物内及び外部からの死角となる場所がなくなるように見通しを確保する。



地震時でも  
転倒しない  
安全なフェンス  
(整備済)

(2) アプローチ

- ①メインアプローチとなる敷地西側は、歩行者・自転車・自動車など多様な交通手段の接続に配慮し、利用者にやさしい交通計画とする。
- ②アプローチの位置が来学者に分かりやすいように、サインを充実させる。

(3) 車両動線

- ①幼児・児童・生徒用通行エリアとの分離を推進する。

(4) 歩行者動線

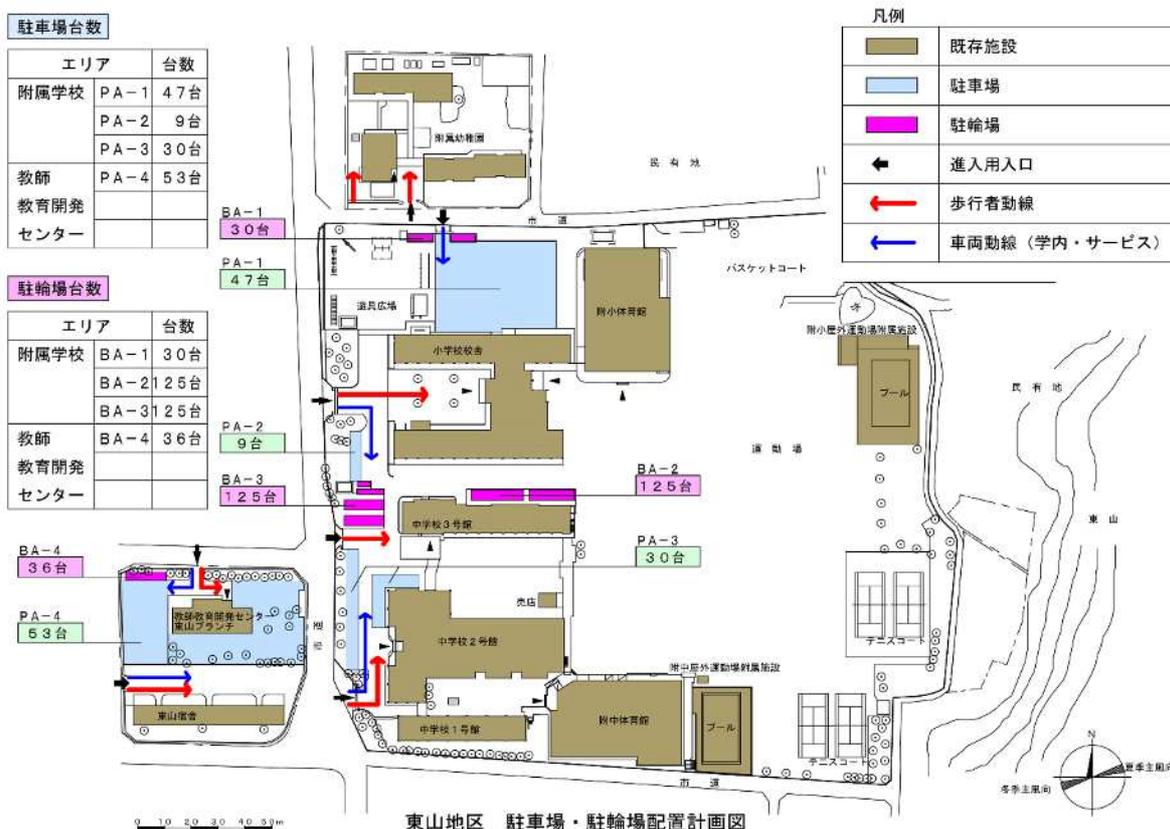
- ①出入口からエントランスゾーンへは、快適で安全な歩行者動線の確保を行い、あわせてキャンパス内のバリアフリー化（段差の解消、滑りにくい仕様等）を推進する。

(5) 敷地境界

- ①敷地境界の門扉・フェンスは、不審者の侵入を防ぎ、地震時でも転倒しない等の安全性を確保する。

2) 駐車場・駐輪場計画

東山地区は、附属幼稚園・小学校・中学校に約1,400名在籍するキャンパスである。幼児・児童・生徒の登下校手段は公共交通機関、自転車、徒歩である。また、教員・関係者・サービス車両の地区内への乗り入れも必要であるため、車両駐車場も適宜敷地内に確保する。交通整理員を配置し事故防止に努めるとともに、車両動線・歩行者動線の分離および車両動線の限定化を推進する。



## 2-3-4 建物整備計画

## 1) 安全性・機能性に問題のある既存施設の改善

既存施設のうち、特に、地震等により倒壊等の危険性の高い（耐震性に問題のある）施設については建て替え、又は耐震改修工事を行い対応済みである。経年劣化により安全性・機能性に著しく問題のある老朽施設や、機能劣化の著しい基幹設備については安全の確保だけでなく、教育研究環境としての機能を十分に備えかつ、幼児・児童・生徒への安全面においても配慮した施設として、計画的に整備を推進する。

## 2) 高度化・多様化する教育研究活動の実施に不可欠な新たなスペースの確保

教育内容・教育方法等の変化に対応して、多様な学習内容・学習形態やICT機器の他、高度な教育機器の導入などを可能とする高機能かつ多機能な学習環境を確保する。また、大学と学校園との緊密な連携のもとに協働事業に取り組み、先進的な教育研究体制を支援できる施設整備を推進していく。

## 3) 建物外観

新築時や大型改修時の建物外観についてはアイボリー系の落ち着いた色彩を基調とし、それと調和する素材を選定することとする。また、周辺景観や用途によって調和を持たせた統一感のあるデザインとし、建物群として色彩や形状など美しいキャンパスに配慮した景観を創出する。

## 4) サステナブル・キャンパスの形成

サステナブル・キャンパスの形成のため、「岡山大学環境方針」に定められた省エネルギー、地球温暖化対策等に配慮した建物整備を推進する。また、「岡山大学インフラ長寿命化計画（行動計画・個別施設計画）」を踏まえ、建物のライフサイクルCO<sub>2</sub>を可能な限り削減できるよう計画的な建物整備を行う。

## 5) 建物配置将来計画

この地区には附属幼稚園・小学校・中学校・教師教育開発センターなどがある。

建物配置将来計画は、各施設の整備状況を考慮すると、既存施設の長寿命化・有効利用の推進を前提とした改修整備が中心となるため、既存の建物配置を継承していく。また、幼児・児童・生徒の回遊性を考慮し屋外運動施設を機能的に配置する。

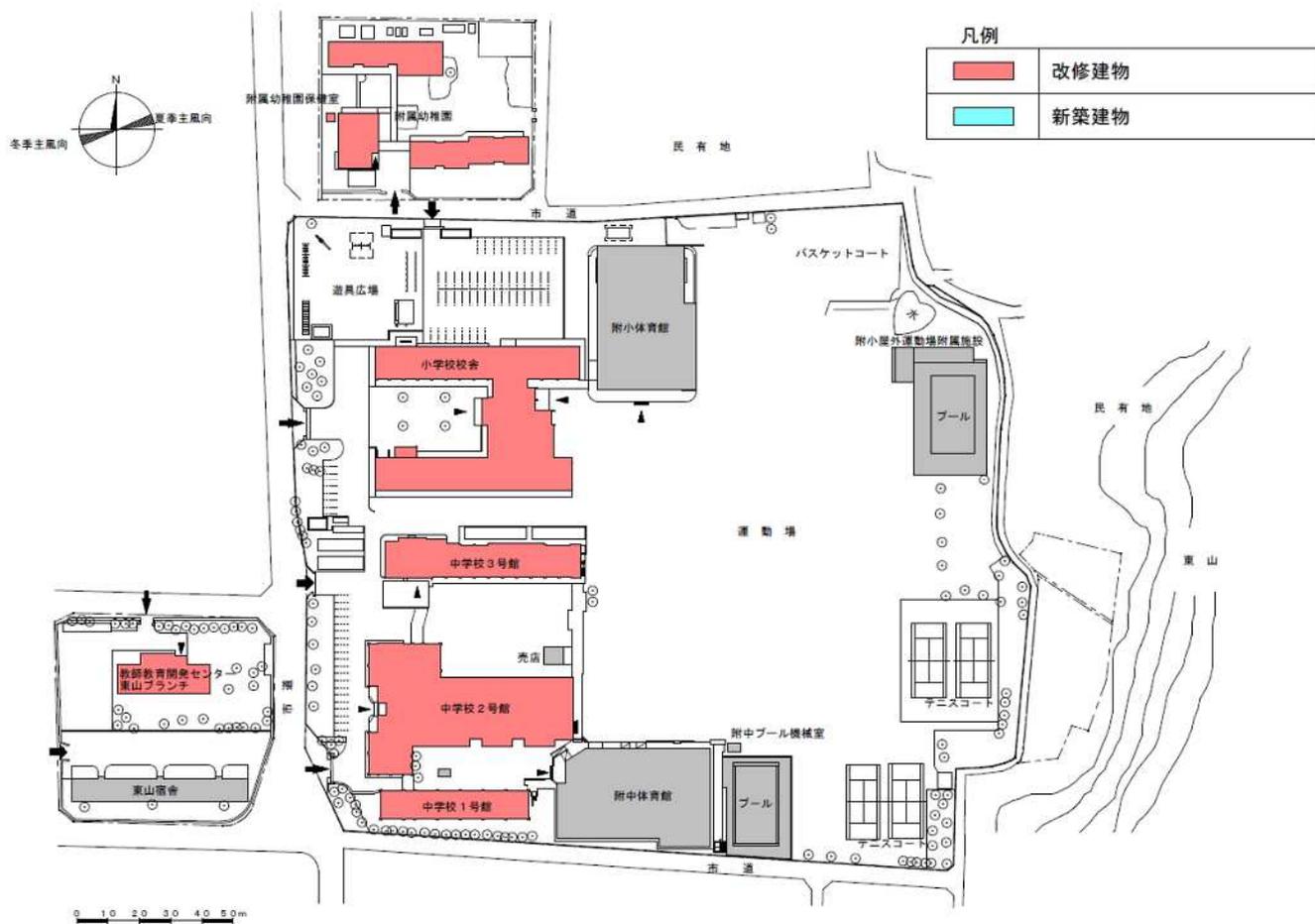
■ 建物老朽状況一覧表 ■

令和6年5月1日現在

棟番号	棟名称	構造・階	延べ面積	建築年	大規模改修年	経年※
(006)	中学校3号館	R 3	2,014	2010	-	14
(014)	中学校1号館	R 3	1,315	1966	1993	31
(027)	附属幼稚園	R 1	878	1973	-	51
(032)	中学校2号館	R 2	2,674	1983	-	41
(034)	教師教育開発センター	R 2	530	1983	-	41
(037)	小学校校舎	R 3	5,252	2008	-	16
(039)	附小体育館	R S 1	1,325	2014	-	10
(040)	附中体育館	S 2	1,530	2018	-	6

※経年は、建築年もしくは大規模改修年の内、新しい年度からの経過年数

第2章 戦略的キャンパスマスタープラン



東山地区 建物配置将来計画図

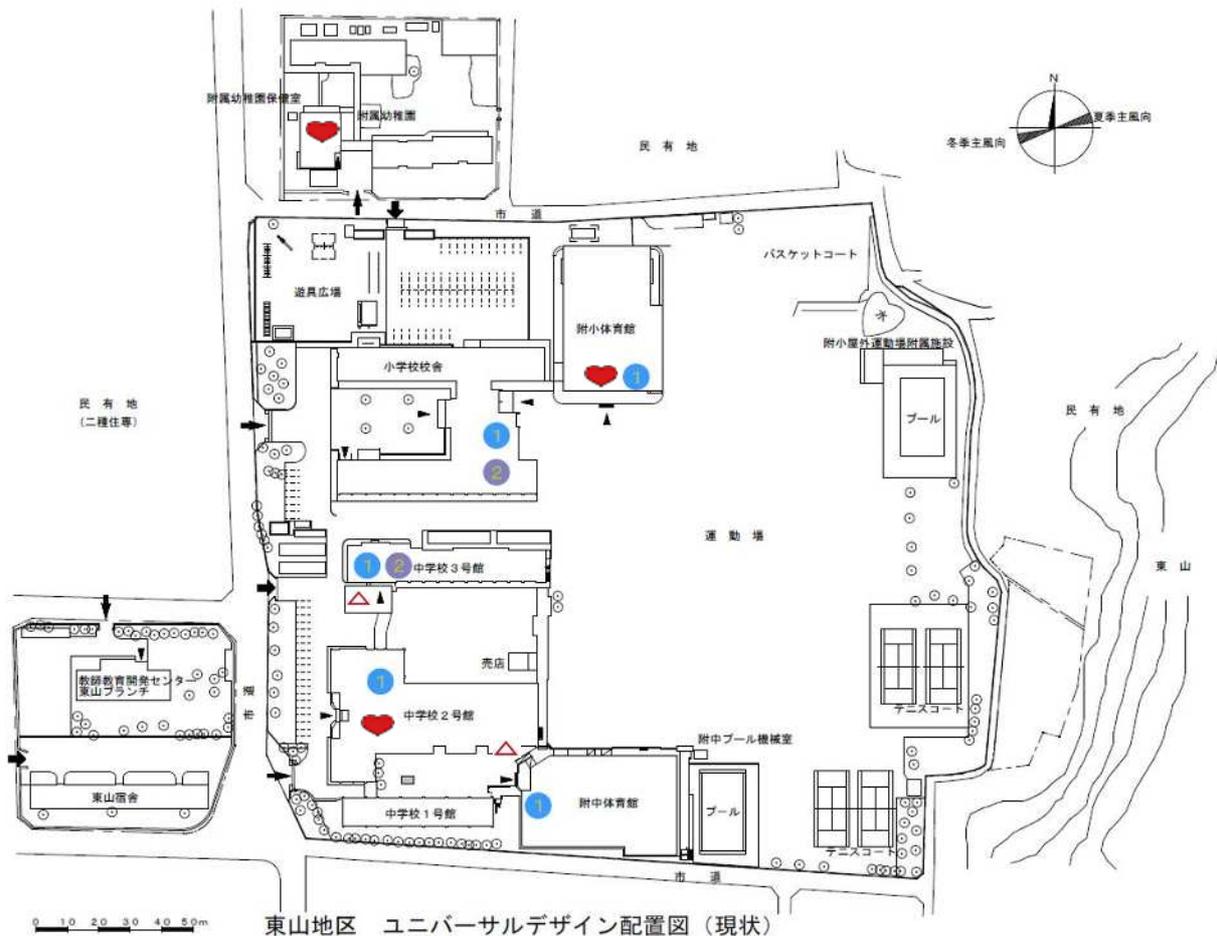




2-3-5 ユニバーサルデザイン

キャンパスは幼児・児童・生徒・教職員に利用されている。さらには多様な利用者に対し安心・安全な移動空間の整備、分かりやすいサイン、適切な屋外照明など「ユニバーサルデザイン」の考え方を取り入れたキャンパスづくりを推進していく。

	1 多目的トイレ		身障者用駐車場
	2 身障者用対応エレベーター		スロープ・自動扉
	3 建物内補助誘導手摺り		スロープ手摺り
	4 身障者用机・椅子		点字ブロック
	5 車椅子用リフト		AED



### 2-3-6 インフラストラクチャー計画

基幹設備である電気設備、空調設備、給排水設備、情報インフラなどは、老朽化が進んでいるため、今後更新計画を立案して、計画的な更新を行っていく必要がある。ライフライン計画ではキャンパス全体において、地球環境に配慮したエネルギーの有効利用や、将来の変化に対応するため、エネルギー使用の実情や将来的なエネルギー需要を踏まえた、キャンパス全体の適切なエネルギー供給について検討・計画すると共に、安全・安心・安定化についても計画する。

#### ◎有効利用

エネルギーの有効利用には、施設の照明設備や空調設備等の高効率機器採用による省エネルギー化を図ることが有効な手段である。しかし、システムの導入に当たっては、施設の管理運営方針や方法及び導入による費用対効果等を踏まえて検討する必要がある。イニシャルコストとランニングコストを比較検討し、キャンパス全体としてバランスのとれた効率的なエネルギーの利用環境を実現する。

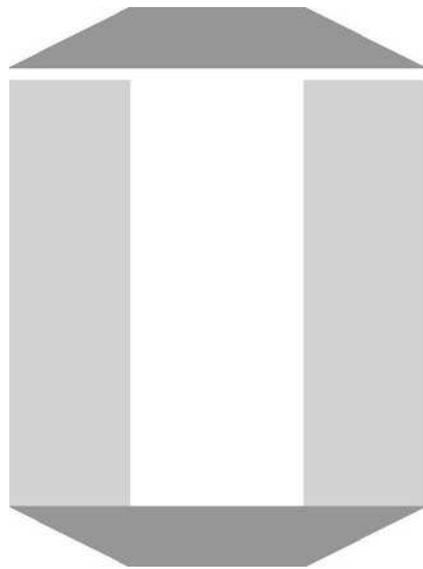
#### ◎安全・安心・安定化

今までの応急的な部分的改善ではなくキャンパス全体を見据えた改修及び更新等の年次計画をたて実施していくことにより、教育・研究成果への影響を最小限にとどめるような計画とする。

空調設備は老朽化に伴い、計画的に高効率空調設備への更新を行う。また、使用場所・用途により適切に空調設備の整備を行っていく。

給水設備は、耐震性・耐久性に優れた地中埋設配管への更新を行うとともに、ライフラインのメンテナンス性および拡張性向上のため、共同溝の整備計画を行う。

他にも、東山団地において大型改修に伴い太陽光パネルを設置し、カーボンニュートラル達成及び、再生可能エネルギー（クリーンエネルギー）の最大限の活用に向けた整備を計画している。



OKAYAMA UNIVERSITY

倉敷地区編

## 2-4 倉敷地区

### 2-4-1 倉敷地区の現状と課題

倉敷地区 航空写真



#### 1) 交通

##### [現状]

資源植物科学研究所を配している倉敷地区は、JR倉敷駅より南へ徒歩約15分のところに位置している。当地区の正門は歩道付き幅員22mの市道に面しており、かつ倉敷地区付近にはJR倉敷駅行きのバス停留所があるなど、恵まれた交通環境にある。

##### [課題]

倉敷地区は比較的公共交通に恵まれている。今後は初めて訪れる学外者にとってもわかりやすく、アクセスしやすいよう、サイン等の環境整備を行なっていくことが課題である。

## 2) 周辺の土地利用及び法的規制

### [現状]

倉敷地区は北側には大原美術館や倉敷民藝館等の立ち並ぶ美観地区がある。また、東側は道路を隔てて倉敷市芸文館や市立西小学校が建ち並び、西側は住宅地となっている。

### 【法的指定等】

令和6年5月1日現在

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 耐力度調査上の地域区分</li> <li style="padding-left: 20px;">地震地域係数 二種</li> <li style="padding-left: 20px;">地盤種別 二種</li> <li style="padding-left: 20px;">積雪寒冷地域 その他</li> <li style="padding-left: 20px;">海岸からの距離 8km超</li> <li>・ 日影規制 5時間、3時間</li> <li>・ 都市計画区域内 市街化区域</li> <li>・ 用途地域 第二種住居地域</li> <li>・ 公害防止地域 大気汚染、騒音</li> <li>・ 景観計画区域</li> </ul>	<p>土地及び建物面積</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土地面積 40,272㎡</li> <li>・ 建物面積 建築面積 5,748㎡</li> <li style="padding-left: 40px;">延べ面積 11,002㎡</li> </ul> <p>建ぺい率、容積率</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建ぺい率 14.3 % (60%)</li> <li>・ 容積率 27.3 % (200%)</li> </ul>
--	---

### [課題]

倉敷地区は倉敷市都市景観条例による景観計画区域に定められている。周囲の豊かな自然環境と歴史的環境を生かした都市景観に配慮しながら、キャンパスとして統一感のある整備を続けていく必要がある。

(※倉敷市都市景観条例：景観計画区域において一定の行為等を行なう場合は景観区域内行為(変更)届出書による届け出が必要)

## 3) 組織と施設

### [現状]

倉敷地区には資源植物科学研究所、附属大麦野生植物資源研究センター、研究圃場、史料館及び共同研究員等宿泊施設等を配している。

### [課題]

資源植物科学研究所は平成22年度に「植物遺伝資源・ストレス科学に関する共同利用・共同研究拠点」に認定され、国内外問わず多くの研究者が集まり、研究を行なっている。そのため、多様な研究者に対応できるような戦略的・計画的な整備を行う必要がある。

## 4) 土地・建物及び所在地

倉敷地区は倉敷市中心部に広大な敷地を擁しており、その総敷地面積は40,272㎡で大学全体の2.0%に該当する。建物面積においては11,002㎡で大学全体の2.1%を占めている。

### 土地・建物及び所在地

令和6年5月1日現在

区 分	土地 (㎡)	建 物		所 在 地
		建面積 (㎡)	延面積 (㎡)	
■倉敷地区	40,272			
資源植物科学研究所		5,748	11,002	倉敷市中央二丁目 20-1
倉敷地区 計	40,272	5,748	11,002	

## 5) キャンパスの屋外環境

### [現状]

倉敷地区はキャンパス中央部に主要な研究施設を配し、キャンパス南側及び北側に研究用の圃場や温室などが広がっている。平成26年度に新築した研究棟の玄関前には、前身である財団法人大原農業研究所創立者である大原家から寄贈された樹齢350年を超えるソテツがあり、キャンパスの顔としての役割を担っている。また、研究施設中央部に位置する中庭は大正15年の皇太子（昭和天皇）行啓の記念碑及び記念樹を配するオープンスペースとして整備している。

### [課題]

今後は、整備計画と整合させながら既存樹木と計画緑地を適切に配置し、利用者にやすらぎをもたらす屋外環境を整備する必要がある。

### キャンパス屋外環境の状況



正門及びソテツ



中庭（記念碑及び記念樹）

6) 基幹設備の現状と課題

令和6年5月1日現在

1. エネルギー供給関係	
(1) 電気設備	
①受電電圧及び受電方式	6.6kV 1回線受電
②契約電力	409kW
③構内電気室数	3カ所
④構内変圧器容量	1,450kVA
(2) 機械設備	
1) 空調設備	
①空調方式	個別方式 電気式又はガス式空冷パッケージ型空調機
2) 給水設備	
①水源	市水
②給水方式	施設規模により、加圧ポンプ方式又は水道直結方式
③引き込み	100φ管により1カ所に引き込み 各施設へは、最寄りの引き込み管より分岐
(3) 排水設備	
①生活排水	公共下水へ接続
②実験排水	公共下水へ接続
③雨水排水	公共下水へ接続
(4) ガス設備	
①ガス種別	都市ガス 13A
②引き込み	80φ～100φ管により2カ所に引き込み 各施設へは、最寄りの引き込み管より分岐
2. 情報通信設備関係	
(1) 電話設備	電子式デジタル交換機（最大回線容量312回線 現在利用回線 約130回線）
(2) 情報設備	全学学内LAN（ギガビットネットワーク）

基幹設備の課題

1. 電気設備

◎受変電設備

現在、倉敷地区として電力会社から6.6kV(契約電力409kW)を平成26年度設置した埋設管路のケーブルにより1回線で供給を受けている。

各建物の改修に合わせ、電気室内の変圧器をトプランナータイプへと更新を行い、省エネ対策を行っている。また、更新に合わせ微量PCB入りの変圧器については保管を行い、廃棄処分の準備を行っている。

平成27年度に1号館・2号館の電気室の整備を行ったが、2号館の三相変圧器300kVAは未改修であり、今後、更新が必要である。

◎構内交換設備

倉敷地区に電子式デジタル交換機（最大回線容量：312回線）が設置されている。現在の利用回線は約130回線である。

倉敷地区は、近年人員の大幅な増減はないが、今後、組織改編や建物増築などにより大幅な人員の増加があった場合は、実装数の増加が必要となる。

◎情報通信設備

全学学内LAN（ギガビットネットワーク）が整備されているが、日々急速に変化するDXに対応できる柔軟性を意識したインフラストラクチャーの計画と整備が課題となる。

◎火災報知設備

倉敷地区において消防法に則り、火災報知設備が整備されている。

◎防犯設備

倉敷地区構内の防犯対策及び事故防止などを目的とし、構内の安全管理上、防犯設備の整備が課題となる。

## 2. 機械設備

◎給水設備

平成26年度に受水槽の更新を行い、耐震性の向上及び緊急遮断弁を設けることにより安定的な水の供給が可能となった。今後は、耐震化の行われていないエリアの屋外埋設給水配管の整備が必要となる。

◎排水設備

平成26年度に団地内排水を合流式から分流式（雨水、実験排水、生活排水）への一部整備を行った。また、実験排水系統には検水槽を設け実験排水のモニタリングが可能となった。今後は、分流化のできていないエリアと老朽化の進んだ屋外排水設備の整備が必要となる。

◎消火設備

平成26年度と27年度に植物科学研究棟、研究棟1号館および2号館の各屋内消火栓の更新ならびに消火栓用水槽・ポンプの更新を行った。

◎ガス設備

屋内ガス管については、建物改修に合わせて更新を行っている。今後は、耐震化の行われていないエリアの屋外埋設ガス管の整備が必要となる。

◎特殊ガス設備

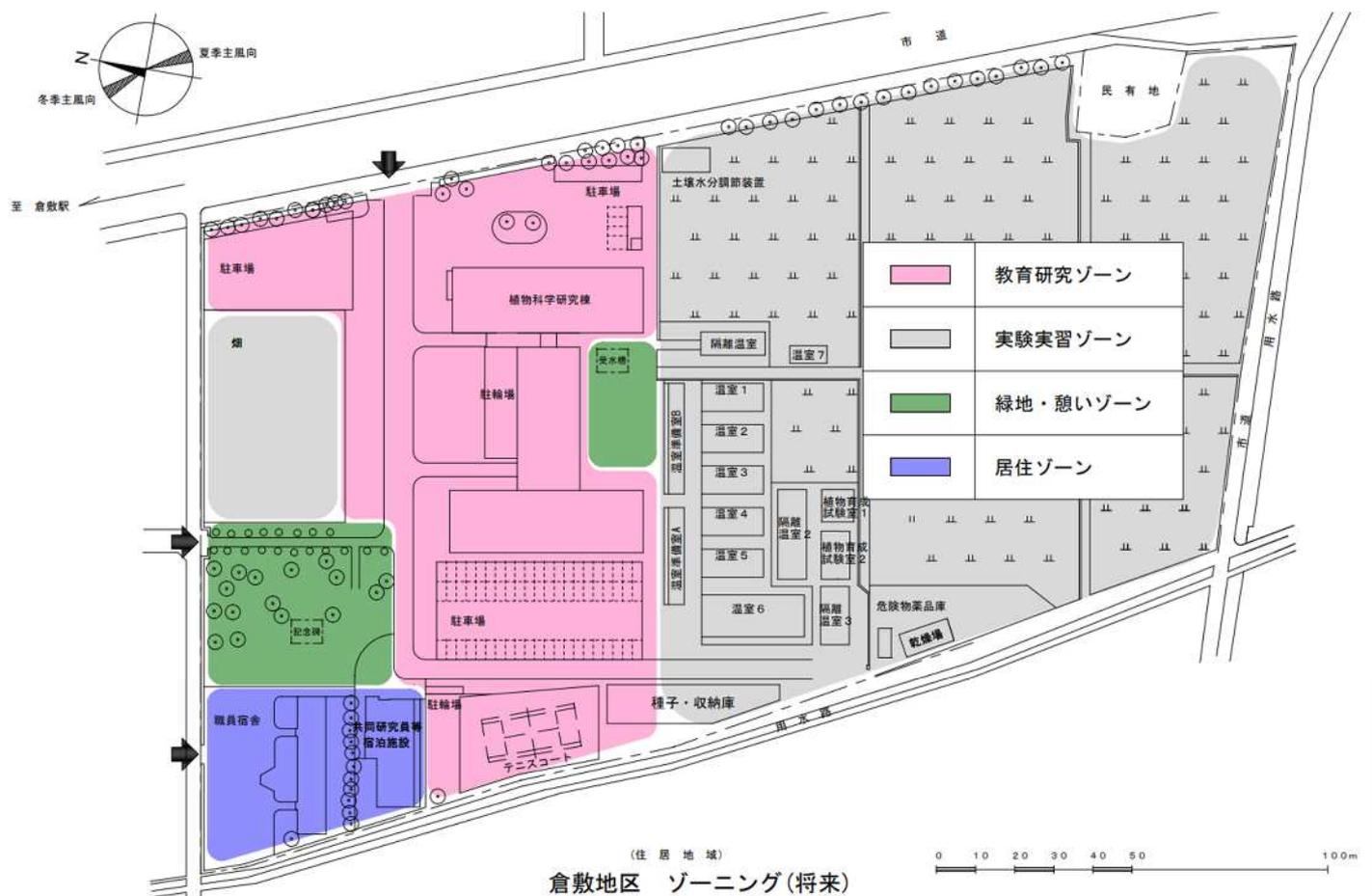
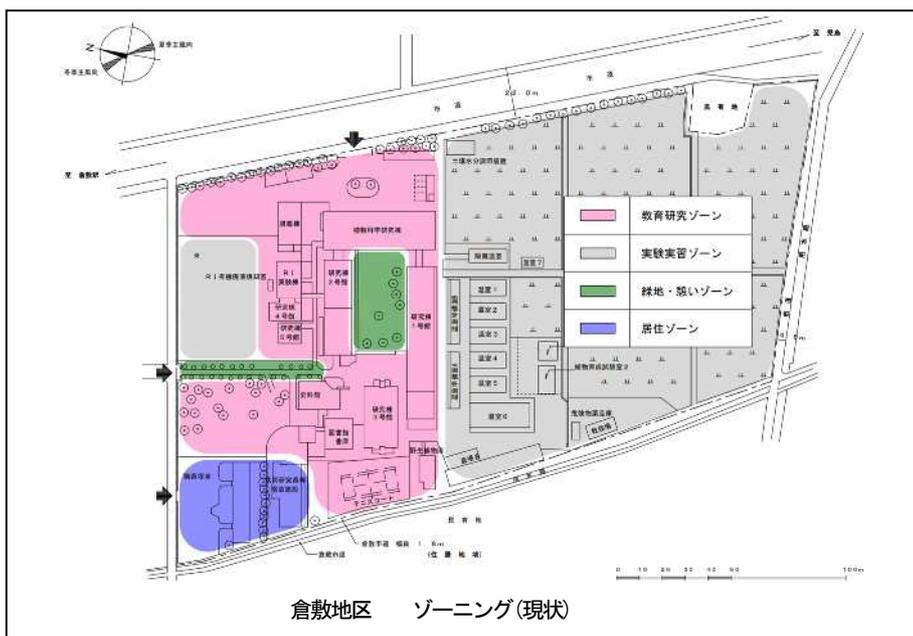
現在は研究室単位にてガスボンベの維持・管理を行っているが、平成26年度の植物科学研究棟整備時に特殊ガスボンベ庫を設け、ボンベの集約化が可能となった。

◎空調設備

電気式又はガス式パッケージ型空調設備については、一部の設備で経年による老朽化が進んでいるため、年次計画をたて、高効率空調設備に更新していくことが必要となる。

2-4-2 ゾーニング計画

キャンパスの特徴を考慮しながら、現状のゾーニングを基本とし、教育研究、実験実習、緑地・憩い、居住の各ゾーンを設定する。



2-4-3 屋外環境整備計画

1) 動線・交通計画

(1) キャンパス空間に相応しい道路計画

- ①安全・安心に利用できる環境、バリアのない移動を実現する。
- ②夜間には暗くて交通の支障となる箇所については防犯対策も含め、外灯の整備を行う。

(2) アプローチ

- ①エントランスとなる敷地東側は、車両・歩行者共用の出入口となっているための車両専用出入口と歩行者専用の出入口に動線を区分する。また、整備計画に合わせ、出入口を北側へ移動し、構内車両動線と南北方向の位置をそろえることにより、車両通行の見通しを改善する。
- ②敷地の北側は、主に自転車・歩行者用出入口として整備を行い、困障については景観に配慮しながら改修整備を行う。

(3) 歩行者動線

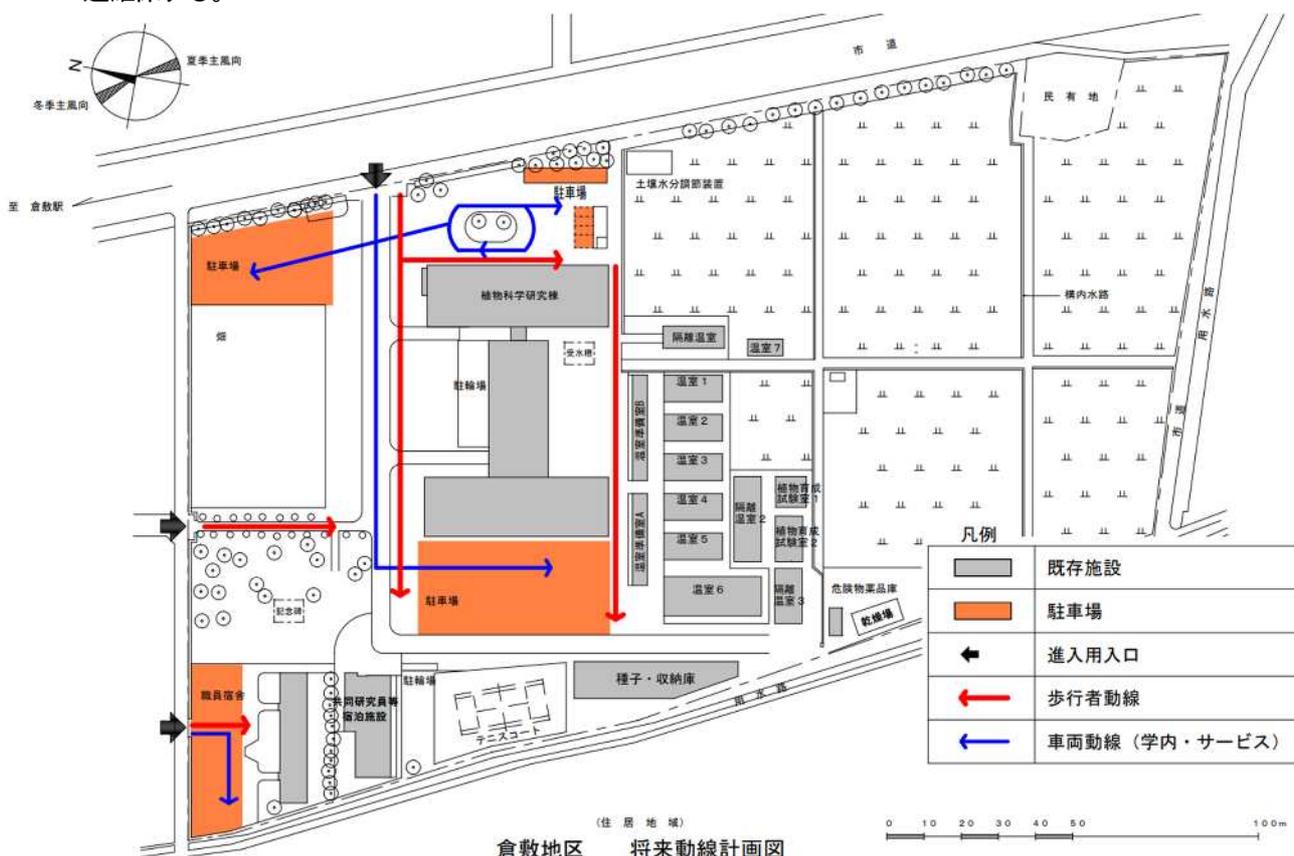
- ①出入口からエントランスゾーンへは、快適で安全な歩行者動線を確保する。
- ②キャンパス内のバリアフリー化（段差の解消、滑りにくい仕様等）を推進する。

(4) 自転車動線

- ①敷地内の車道は、自転車も共用する。
- ②教育研究活動やキャンパスライフを考慮し適切に配置する。

(5) 車両動線

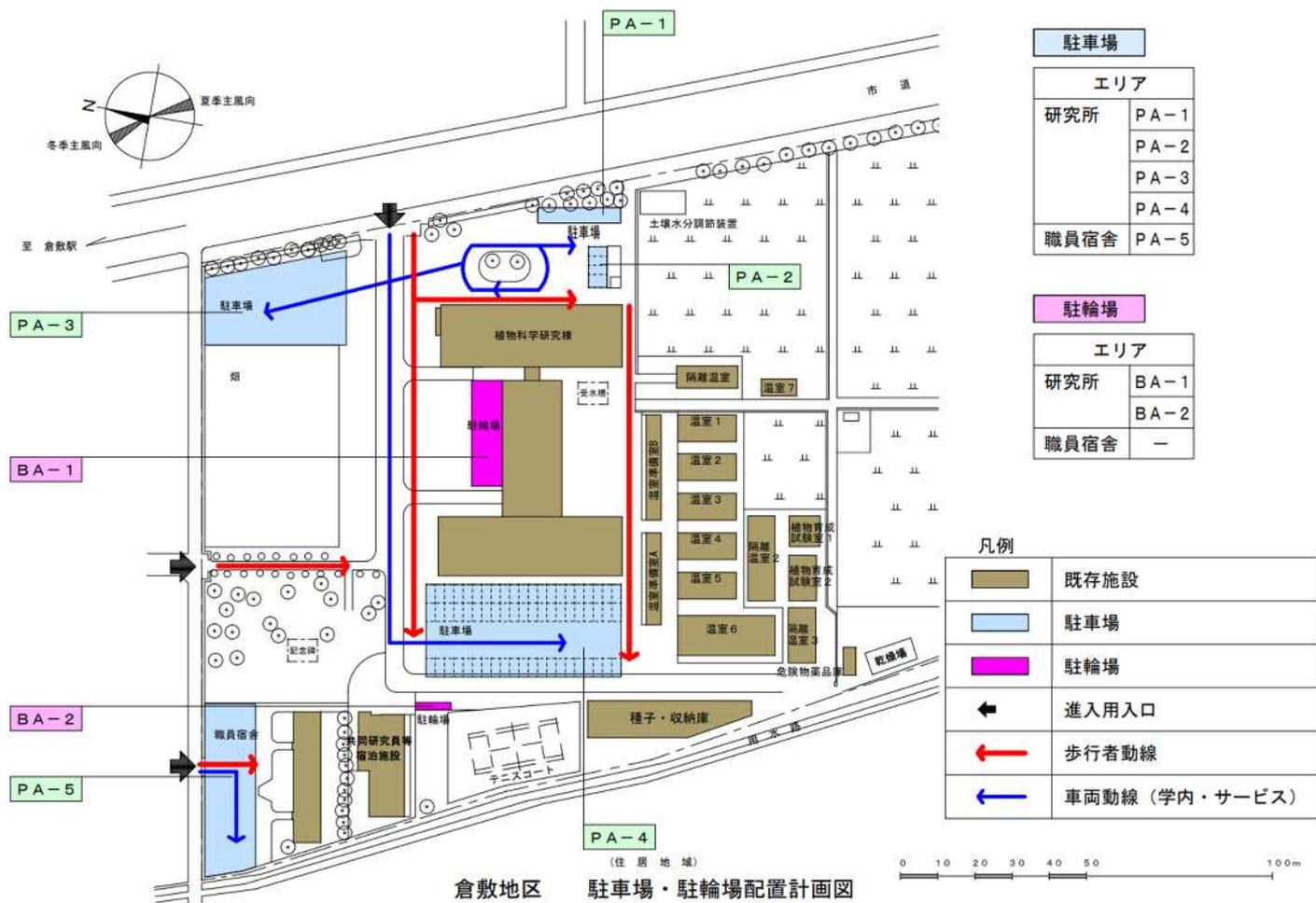
- ①公共道路からの車両の出入口は最小限とするとともに、駐車場を集約し動線をキャンパス中央部に限定する。ただし、実験機器搬入・農業用車両の動線は別途確保する。



倉敷地区 将来動線計画図

2) 駐車場・駐輪場計画

倉敷地区は、駐車場が点在し駐車率も高いため、整備計画にあわせ、敷地北側及び西側へ駐車場を拡大かつ集約化し、駐車場不足の解消および車両動線の限定化を行う。また、移動手段として自転車を利用している学生・教職員も多く、建物の出入り口周辺には自転車が集中的に駐輪され、歩行者やサービス車両等の通行の妨げとなっている。そこで、駐輪場は建物正面から見えない研究棟北側等に集約して配置し、キャンパス景観の向上を目指す。



2-4-4 建物整備計画

1) 安全性・機能性に問題のある既存施設の改善

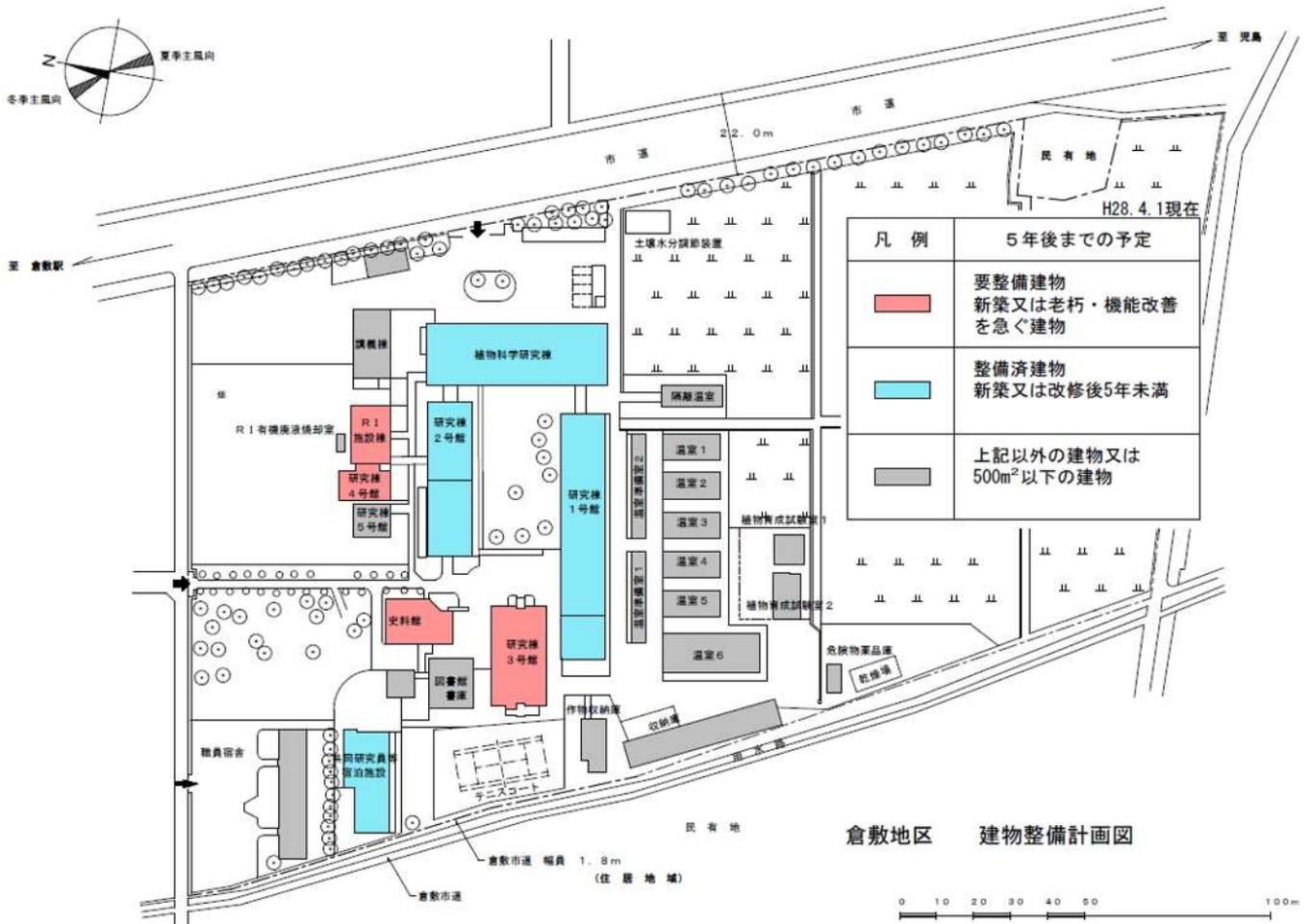
既存施設のうち、特に、地震等により倒壊等の危険性の高い（耐震性に問題のある）施設については耐震改修工事を行い対応済みである。経年劣化により安全性・機能性に著しく問題のある老朽施設や、機能劣化の著しい基幹設備についても安全の確保だけでなく、教育研究環境としての機能を十分に備えたものとなるよう、計画的に整備を推進する。

2) 高度化・多様化する教育研究活動の実施に不可欠な施設の確保

資源植物科学研究所は植物遺伝資源及び植物ストレス科学の共同研究拠点として国内外問わず高く評価されている。今後は更なる国際的な共同研究施設として、多様な地域の作物栽培実験を推進するため、栽培環境制御を可能にする「温室群」ならびに関連法令に準拠し次世代型作物（遺伝子組換作物等）の研究を行うための「隔離温室」の整備を推進していく。また、種子等の遺伝資源コレクションの有効活用および拡充対応のため、敷地内に点在する種子庫を集約する。

3) 建物外観・配置計画

新築時や大型改修時の建物外観は、周辺景観や用途によって調和を持たせた統一感のあるデザインとする。また、倉敷市美観地区に隣接していることも配慮した美しいキャンパスの整備を行う。



4) 建物配置将来計画

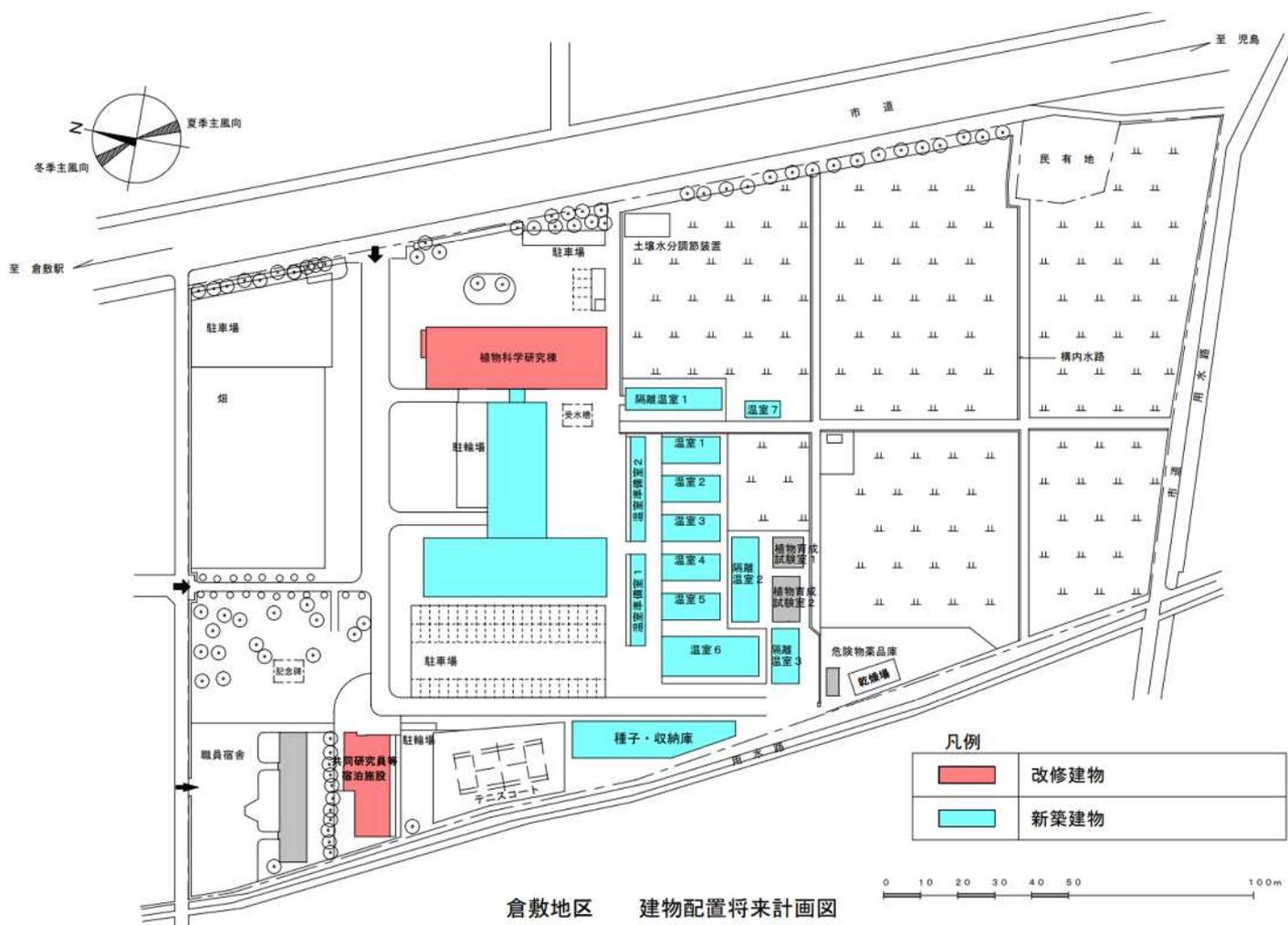
この地区には「植物遺伝資源・ストレス科学研究」の共同利用・共同研究拠点として、植物科学研究棟、研究棟1～5号館、R I 施設棟、講義棟、圃場、温室、史料館、共同研究員等宿泊施設、職員宿舍等がある。継続的な教育研究活動、円滑な管理運営を図るため機能的で使いやすい合理的な移行計画を立案する。

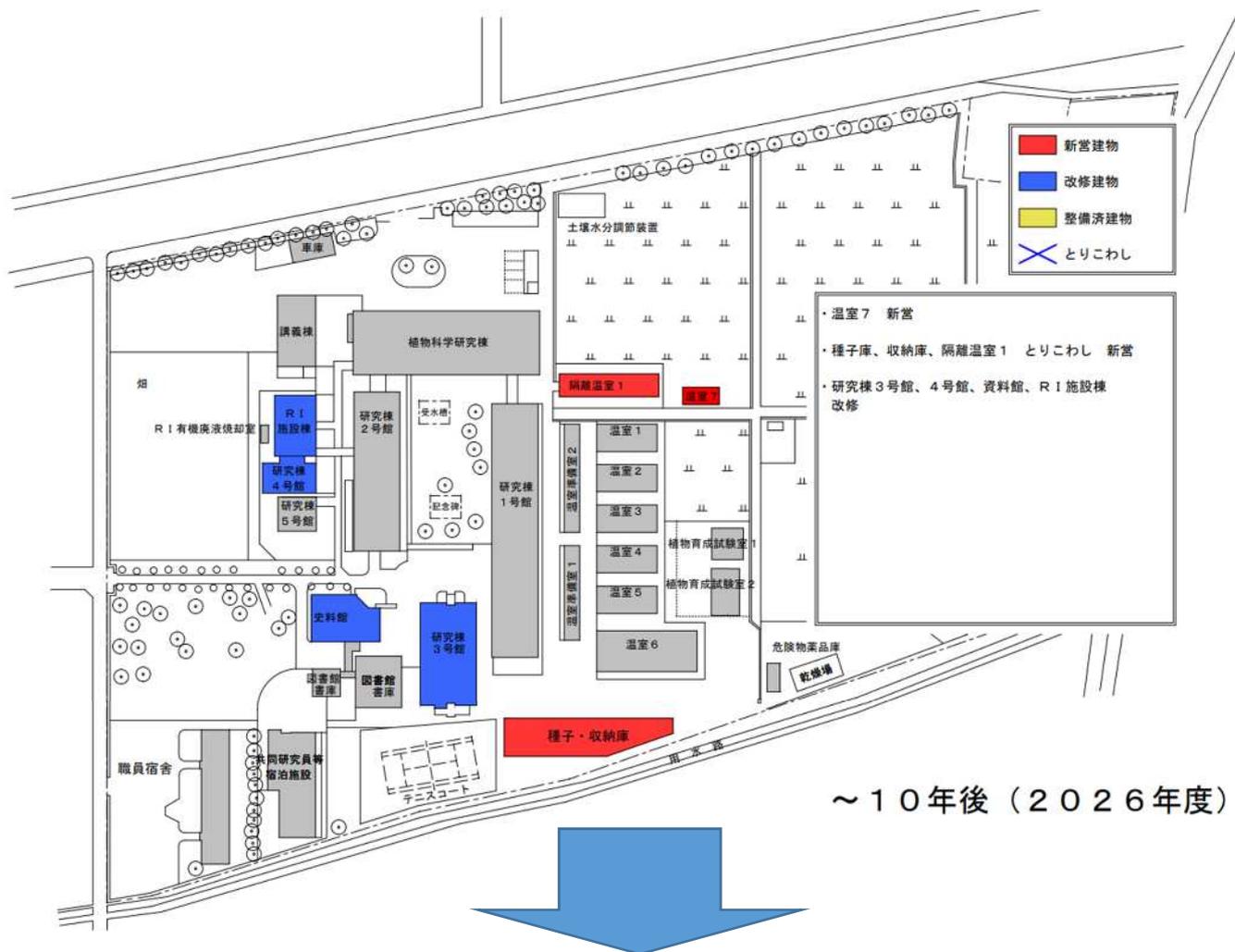
敷地中央部の「教育研究ゾーン」にはR I 施設や史料館機能をあわせた総合的な研究棟を配置する。研究スペース不足に対しては建物の高層化を行い対応するものとする。また、教育研究ゾーンの北東側部分及び西側部分は駐車場を集約整備して、教職員および外部研究者等の駐車スペースとして活用する。

敷地南側及び北側の一部の「実験実習ゾーン」には研究の継続性を考慮し、圃場、温室、植物育成実験室等を配置する。特に植物生育環境の多様化にあわせ、種子庫、温室および隔離温室等の増改築整備を重点的に推進していくこととする。

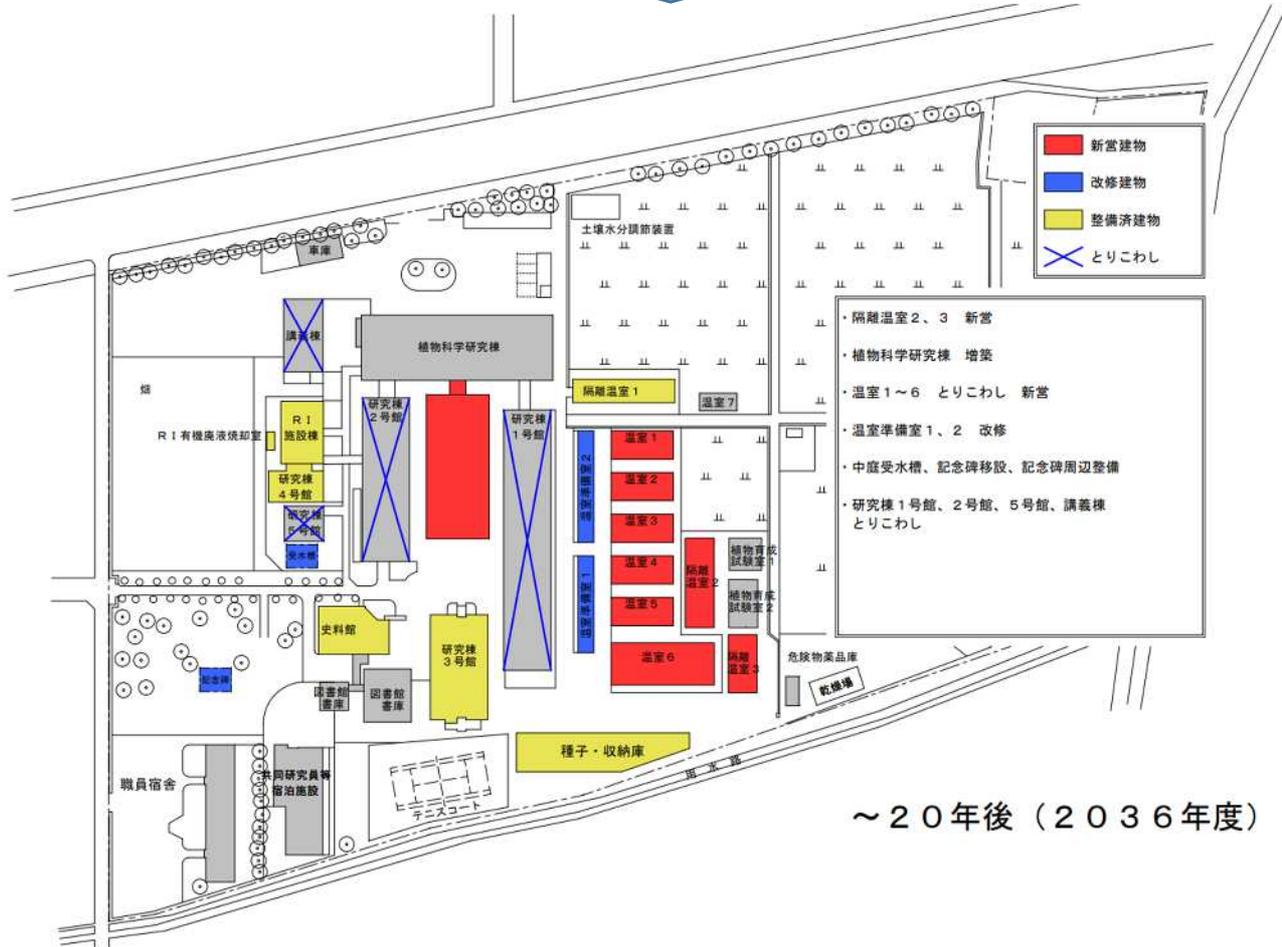
敷地北西部の「居住ゾーン」には共同研究員等宿泊施設、職員宿舍を配置する。

建物配置の最終形までは、既存施設を有効利用した改修整備と、集約・高層化を図った改築整備を合わせながら移行計画を策定し進めていくこととする。

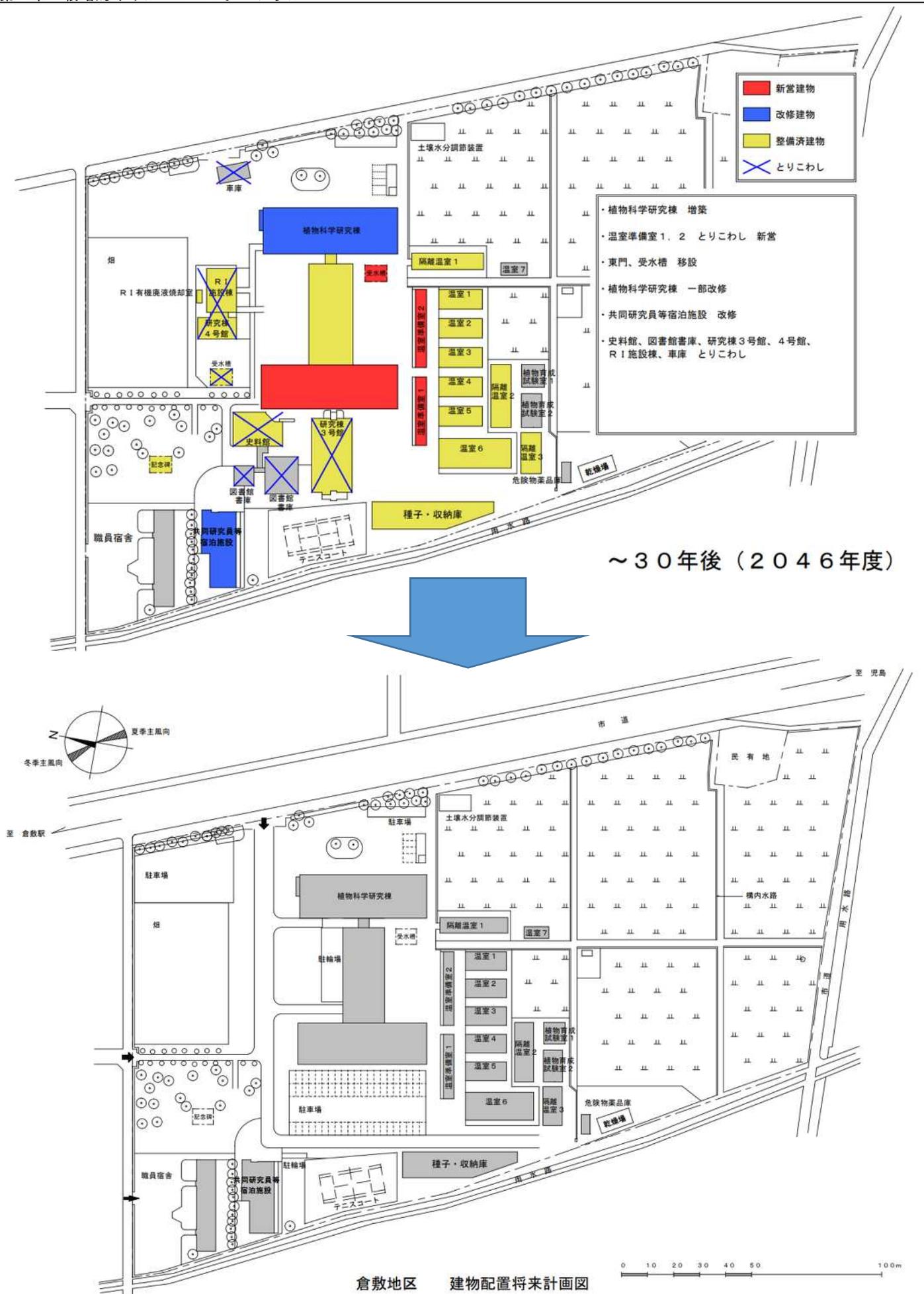




～10年後（2026年度）



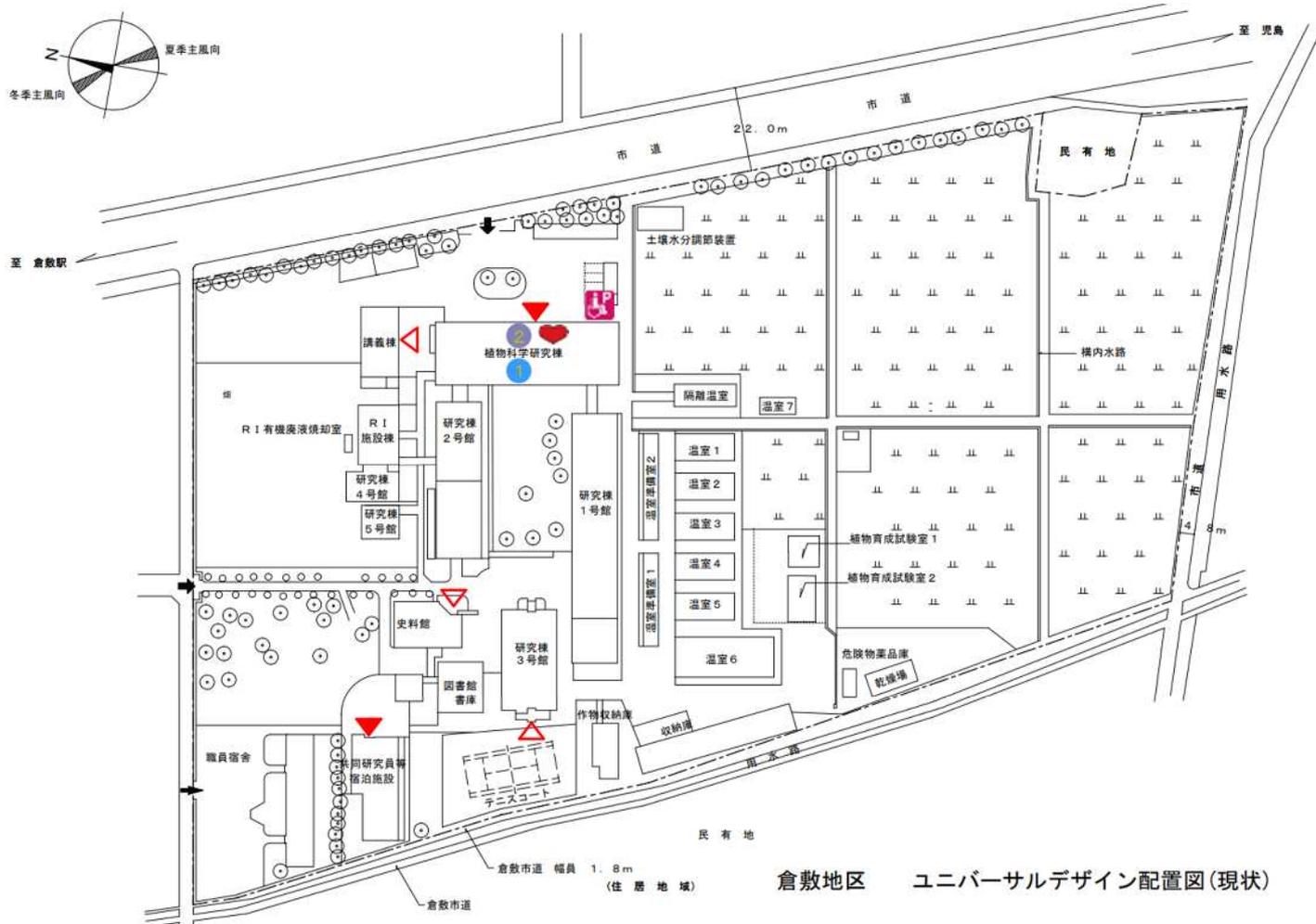
～20年後（2036年度）



2-4-5 ユニバーサルデザイン

大学キャンパスは学生・教職員に利用されている。身体障害者等を含む多様な人々の利用、さらには留学生や外国人研究者の増加も予想され、多様な利用者に対し、安心・安全な移動空間の整備、分かりやすいサイン、適切な屋外照明など「ユニバーサルデザイン」の考え方を取り入れたキャンパスづくりに推進していく。

	1 多目的トイレ		身障者用駐車場
	2 身障者用対応エレベーター		スロープ・自動扉
	3 建物内補助誘導手摺り		スロープ手摺り
	4 身障者用机・椅子		点字ブロック
	5 車椅子用リフト		AED



## 2-4-6 インフラストラクチャー計画

基幹設備である電気設備、空調設備、給排水設備、情報インフラ等は、平成26年度の植物科学研究棟整備および平成27年度の研究棟1号館、2号館の改修整備の際に屋外埋設を含む主要部分の整備は完了した。

ライフラインの将来計画では、キャンパス全体として、地球環境に配慮したエネルギーの有効利用とエネルギー等使用環境の安全・安心・安定化を推進していく。

### ◎有効利用

エネルギーの有効利用には、施設の照明設備や空調設備等の高効率機器採用による省エネルギー化を図ることが有効な手段である。多様化・高度化する教育研究活動に対応するため、計画的に施設の種類・用途・利用形態に適した設備へと更新を行い、キャンパス全体として効率的なエネルギーの利用環境を実現する。

### ◎安全・安心・安定化

応急的な部分的改善ではなく、キャンパス全体を見据えたライフラインの改修及び更新について年次計画的に実施し、教育研究活動への影響を最小限にとどめることとする。また、将来の変化に対応するため、エネルギー使用の実情や将来的なエネルギー需要の検証を随時実施していく。

共同研究拠点としての研究活動の継続性や遺伝資源の保存等のために、非常用発電設備の設置を計画する。



---

## 岡山大学キャンパスマスタープラン

### 【お問い合わせ先】

岡山大学施設企画部施設企画課

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号

TEL : 086-251-7125

E-mail : [sisetu-kikaku@adm.okayama-u.ac.jp](mailto:sisetu-kikaku@adm.okayama-u.ac.jp)

---